

平成28年度

シ ラ バ ス

桐生大学 医療保健学部

看護学科

講義コード	10010001
講義名	哲学・倫理学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 村上 隆夫	指定なし

授業の概要

古代ギリシアのヘレニズム文化と古代ユダヤのヘブライ文化を源流とするヨーロッパの哲学と倫理学を近代にいたるまで概観する。

教育目標

ヘレニズムとヘブライズムとの総合としてのキリスト教とともに発展してきたヨーロッパの哲学と倫理学について基本的な知識を獲得することを目標とする。

到達目標

古代および近代のヨーロッパの哲学・倫理学のみならず、現代の哲学・倫理学についての入門的な文献を読解できるようにすることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	古代地中海世界の文化	古代地中海世界におけるギリシャ人の文化とユダヤ人の文化について説明する。
第2回	ギリシア哲学の形成 (1)	ソクラテスの生涯とその哲学・倫理学について説明する。
第3回	ギリシャ哲学の形成 (2)	上に同じ
第4回	ギリシャ哲学の展開 (1)	プラトンの哲学・倫理学について説明する。
第5回	ギリシア哲学の展開 (2)	上に同じ
第6回	ギリシア哲学の展開 (3)	アリストテレスの哲学・倫理学について説明する。
第7回	ギリシア哲学の展開 (4)	上に同じ
第8回	キリスト教の成立 (1)	イエスの生涯とその倫理思想について説明する。
第9回	キリスト教の成立	パウロによるキリスト教思想の形成について説明する。

	(2)	
第10回	キリスト教神学の形成	アウグスティヌスのキリスト教神学について説明する。
第11回	キリスト教神学の展開	中世キリスト教神学における普遍論争について説明する。
第12回	宗教改革の思想	マルティン・ルターとジャン・カルヴァンのキリスト教思想について説明する。
第13回	近代哲学・倫理学の形成(1)	トマス・ホッブズの哲学・倫理学の近代的性格について説明する。
第14回	近代哲学・倫理学の形成(2)	デカルトの哲学・倫理学の近代的性格について説明する。
第15回	総括と討論	これまでの講義について補講を行い、さらに総括のための討論の時間を設ける。

教科書

特に使用しない。講義の際にレジュメを配布する。

参考書

講義のなかで適宜指示する。

成績評価

単位認定60点以上。学期末試験(100%)による評価を行う。

授業時間外の学習

授業の後で関連する事項について検索をおこなうなど、復習することが望ましい。

履修のポイント

レジュメに関連してノートに補足してまとめることが望ましい。

講義コード	10020001
講義名	心理学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀岡 聖朗	指定なし

授業の概要

ものを見聞きすること、覚えること、考えること、泣いたり笑ったりすることなど、私たちが意識するとしなやかにかかわらず、人のあらゆる活動に心はかかわっている。心理学は、私たちのそうした心のはたらきを実証的に明らかにすることを目的とした科学である。看護職をめざすものとして、人の心の多様なはたらきについて学修することは、人間理解の一環にもなる。本講義はそうした観点から、人の心の多様なはたらきがどのように明らかにされてきたかについて取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによって視聴覚にうったえる試みもする予定である。

教育目標

人の心のはたらきについて広く知識を獲得し、人（患者）を理解する基本的態度を修得することを目標とする。

到達目標

1. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる専門用語の意味を理解する。
2. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる心理学理論について理解する。
3. 日常的な出来事を心理学の理論に沿って理解する。
4. 人の心の全般的なしくみについて理解する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション 心理学で取り扱う問題	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価など） 講義で取り上げる内容、患者心理のメカニズム	第10章
第2回	感覚・知覚の心理学	心と身体の世界 ～外界を捉えるしくみ、知覚の特徴（視覚を中心に）、知覚のズレ	第1章
第3回	認知の心理学①	心と行動の形成① ～ものを覚える／忘れるしくみ、記憶の錯誤	第2章
第4回	認知の心理学②	心と行動の形成② ～注意と思考、人の認知的特性からみた医療事故予防	第2章

第5回	学習の心理学 ①	心と行動の形成③ ～新しい行動を身につけるしくみ（条件づけ理論と認知理論）	第2章
第6回	学習の心理学 ②	心と行動の形成④ ～動機づけ理論、動機づけを高めるためには	第2章
第7回	社会的関係の心理学①	対人関係① ～対人認知の諸相	第7章
第8回	社会的関係の心理学②	対人関係② ～話を聞くこと：ノンバーバルコミュニケーションの重要性	第7章
第9回	発達心理学①	心と行動の発達① ～生涯発達の視点、人間発達のしくみ、人生初期の発達	第3章
第10回	発達心理学②	心と行動の発達② ～発達の理論（フロイト、エリクソン、ピアジェを中心に）	第3章
第11回	個人差の心理学①	心の個性と深層 ～個性を反映するもの（知能と性格）、性格の理論、性格形成の要因	第4章
第12回	個人差の心理学①	医療に役立つ心理テスト ～心理テスト（心理検査）の種類（知能検査、性格検査、発達検査）	第8章
第13回	臨床心理学①	心の適応と障害 ～感情の種類、感情の表出、欲求と適応機制	第5章
第14回	臨床心理学②	心と身体心理臨床 ～ストレスと代表的な精神疾患（不安障害、気分障害、統合失調症を中心に）	第6章
第15回	臨床心理学③ まとめ	医療に役立つ心理臨床 ～ストレスへの対処法、カウンセリング理論（精神分析理論、学習理論、自己理論を中心に）	第9章

教科書

藤田主一・山崎晴美編『新 医療と看護のための心理学』福村出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験90%、レポート・課題等10%

授業時間外の学習

各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となります。配布資料・ノートのまとめを復習として勧めます。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。

オフィス・アワー

毎週水曜もしくは木曜の昼休み（12：30～13：20）、11号館第8研究室。
あるいは、講義終了前後などに、適宜受け付けます。

講義コード	10030001
講義名	教育原論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要

人間が必要としてきた「教育」について原理的な理解に努めます。特に、教育のパラドックスを深く自覚することにより、自己の教育に関わる体験や社会事象としての教育問題を相対化し、批判する力を高めていきます。

教育目標

- ①「教育」の基本的事項を原理的に理解する。
- ②先人の教育実践と教育思想の変遷を理解する。
- ③現実の教育事象を「教育のパラドックス」の視点から分析し考察する。

到達目標

一般到達目標：教育のパラドックスを理解した上で、次世代育成の教育的環境について、自己の見解を示すことができる。

教職を目指す者の目標：上記一般到達目標に加え、教育を受ける側から教育をする側に立場を変えるにあたっての留意点について、自己の見解を示すことができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション	・受講上の注意と評価方法 ・二つの教育モデルから考える教育目的の性質
第2回	教育的な行為とは何か	・「個性」と「一般性」の関係について ・教育者の「願い」と教育を受ける者の「自主性」
第3回	素質と環境	・「生得説」と「環境説」 ・「素質と環境の関係」と教育政策
第4回	教育の場	・生存権と教育を受ける権利 ・家庭、学校、社会の教育と生涯学習
第5回	西洋の教育 1	・アテネ、スパルタの教育とソクラテス ・プラトン、アリストテレス、古代ローマの教育
第6回	西洋の教育 2	・中世からルネサンス期にかけての教育 ・様々な「平等」の誕生と教育
第7回	西洋の教育 3	・実質陶冶と形式陶冶 ・自然主義の教育

第8回	西洋の教育 4	・近代公教育思想 ・生活主義の教育 ・経験主義と社会主義の教育
第9回	日本の教育 1	・江戸時代の教育観と「学制序文」にみる明治維新 ・教育目的をめぐる対立と「教育勅語」体制
第10回	日本の教育 2	・大正新教育運動の意義と限界 ・憲法教育基本法体制と「政治と教育」の間
第11回	日本の教育 3	・教育基本法の全部改正 ・教育改革の動向
第12回	日本の教育 4	・教育委員会に託された理想と現実 ・新しい地方教育行政の可能性とリスク
第13回	学校教育における異職種連携	・養護教諭と栄養教諭 ・カウンセラーとソーシャルワーカー
第14回	不登校と教育保障	・フリースクールと公教育 ・自己責任論と発達保障論
第15回	特別支援教育の意義 授業のまとめ	・「障害」の多義性と権力性 ・特殊教育から特別支援教育へ ・「合理的配慮」とは何か ・まとめとテスト

教科書

使用しません。

参考書

牛渡 淳著『改訂 教育学原論 教育の本質と目的』中央法規 2008年
熊谷一乗著『新・人間性と教育（第三版）』学文社 2009年
沼野一男・他著『教育の原理 第四版』学文社 2010年
勝野正章・庄井良信著『問いからはじめる教育学』有斐閣 2015年

成績評価

授業中に実施する確認テストと、授業期間の中盤で課すレポートの提出によって全体の50%を評価します。残りの50%は、授業最終日に行う「まとめテスト」（ノート・プリント持込可）によって評価します。なお、授業の欠席、遅刻、早退等は、それぞれ減点とします。詳細については授業初回のオリエンテーションで説明します。以上を総合して60点以上で単位認定します。

授業時間外の学習

授業期間の中盤で課す予定のレポートは、自学による情報収集が必要なものになります。また、授業の後は、ノートを整理しながら復習することが必要となります。随時、関連図書等を紹介するので、「教育」に対する自らの関心を深めていってください。

履修のポイント

「教育」についての原理的理解を深めるべく、学んだ原理を様々な教育事象に結びつけて考察することが重要です。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じますが、その他、必要に応じて互いの都合の良い時間を個別に設定します。ご相談ください。

講義コード	10040001
講義名	法学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	2 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要

社会において、生活を営み、職業に従事する場合、少なからず法が関わってくる。特に、保健医療に関する分野は、他の職業領域と比較して、国による規制および国によるサービスが実施されることが圧倒的に多い。そのため、保健医療の従事者は法令により、その業務を行わなければならない。また、最近では、法的紛争に巻き込まれるケースは以前と比較して、格段に増加してきている。本講座では、日常生活や職場において必要とされる最低限の法的ことがらについて学習し、生活者として、また職業人として必要不可欠な法に関する知識を身につける。

教育目標

社会人として必要な法知識を身につけることができるよう、特に日常的な社会生活に関連する分野について、学修させる。また、医療者として不可欠な法知識・法感覚を身につけられるように、具体例を多く学修させる。

到達目標

法とは何か、また法令の基本構造、法令の読み方を理解する。また、日常生活に関わりのある法令を理解する。さらに、医療者として理解しておく必要のある具体的法令のうちのいくつかを読んで、理解できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	法を学ぶことの意義	私たちが生活している中で、法がどのようにかかわっているのか、具体的な場面を通して、理解していく。	
第2回	「法学」とは何か	法学を学ぶことによって、どのような知的能力を獲得できるのか。具体的な事例を通じて、学習していく。	
第3回	法の体系、法の	「法」には、いくつかの種類がある。その種類とそれぞれの関係について学習し、それらが具体的な場面において、どのような役割を果たしていくのか、理解する。	

	種類		
第4回	法の解釈・基準	「法」は、条文によって成り立っている。それが現実の社会の具体的事例に適用されるには、解釈が必要とされる。どのような基準でどのような手順で解釈されるのか、具体的事例で学習する。	
第5回	法の適用プロセス	「法」は、われわれの生活のさまざまな場面で適用されている。日常生活、行政との関係、裁判などの具体的場面での適用プロセスを学習する。	
第6回	条文のしくみ(1)	法令は、条文という形で、一般的な文章とは異なる形式で存在している。医療保健関係の具体的な法令を利用して、条文の法令全体の構造、規定の意味等について理解する。また、法令用語についても基本的なものについて理解する。	☆レポート1 「身近なニュースを法学的に検討する」
第7回	条文のしくみ(2)	「法」の多くは、時間がたつと改正される。ここでは、法令の改正について学習する。改正の仕方はどのようなものであり、また改正後に条文がどのようなになるのか、医療保健関係の具体的な法令を利用して、学習する。	
第8回	消費と法(1)	日常生活の財産に関わる法的ことがらの中で、特に消費者として関わる法について学習する。具体的に、「売買」についての法規定を日常生活の場面に即して理解する。	★確認テスト1「法学の基礎」
第9回	消費と法(2)	前回につづき、消費者として関わる法について学習する。具体的に、「契約」についての法規定を日常生活の場面に即して理解する。	
第10回	家族と法(1)	家族について規定している法を学習する。具体的には、結婚・離婚に関する法規定について理解する。	
第11回	家族と法(2)	前回につづき、家族について規定している法を学習する。具体的には、親子関係、相続に関する法規定について理解する。	
第12回	職場と法(1)	労働者の権利を中心に学習する。労働条件の最低基準を定めた労働基準法を中心に、男女雇用機会均等法などの諸法令について、理解する。	☆レポート2 「医療保健に関わる法的問題について」
第13回	職場と法(2)	医療保健の専門職として守るべき法令について、学習する。また、労働者として、守るべき法令その他のルールについても学習する。	
第14回	情報化社会と法	情報化の進展によって、利便性が向上する一方で、さまざまなトラブルが発生している。情報のやりとりに関する法令、法的トラブルの危険性について、学習する。	
第15回	地域社会と法	地域社会との関わりにおいて、「法」がどのような役割を果たしているかを理解する。また、地域社会における法令以外の取り決め等についても学習する。	★確認テスト2「民事法、労働法、全体のまとめ」

教科書

使用しない

参考書

『ポケット六法』山下友信・山口厚 編集代表（有斐閣）

成績評価

平常点（授業への参加度・学習態度・授業内課題等）〔30%〕、レポート〔30%〕、確認テスト〔40%〕を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。
授業時間外の学習
次回の授業についての資料を読んでおくこと。授業終了後は、授業で説明された部分をハンドアウト等で復習しておく。レポート・確認テストについて、準備しておく。
履修のポイント
具体的な医療・福祉関係法令を学習する前提となることからに関する授業なので、よく理解しておくこと。
オフィス・アワー
月・火・木曜日， 11時～15時（授業時間以外）， 9号館3階第9研究室

講義コード	10050001
講義名	日本国憲法
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	基礎科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要

マスメディアでは、消費税増税、原発再稼働、安保法制などの是非について、国民の間でも意見の分かれる問題がたくさん取り上げられている。また、地方の衰退や社会保障費の増大と税など、国の課題は山積している。そんな中、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、今年の夏から大学生は、全員が選挙権を有することになる。本講座においては、私たちの生活や安全に大きな関わりをもつ国の基本法である日本国憲法を素材に、私たちの生活を考えていく予定である。憲法の基本原理とその根底に流れる思想を学習した後、われわれの生活に深く関わりのある現代的なトピックを取り上げ、できる限りくらしとの関わりに留意しながら、主権者としての判断能力を身につけられるよう、学習していく。

教育目標

社会人として必要な憲法の知識を身につけることができるようにする。また、教職課程履修者については、教員として必要な最低限の憲法に関する知識、人権感覚を身につけることができるようにする。

到達目標

憲法の基本的構造を理解する。憲法とわたしたちの日常生活との関係を理解できる。どのような基本的人権がどういう目的でどのように保障されているかを理解できる。現在の日本の統治構造について学習し、人権保障との関係を理解する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	憲法の意味	現在、日本国憲法に関してどのような問題が生じているのかについて学習した後、憲法とはどのような法かを学習する。立憲主義についても学習する。	
第2回	日本国憲法の誕生	日本国憲法の制定過程について、第二次大戦後からGHQによる憲法案の提示、国会での審議等について、VTRに沿って学習する。	
第3回	日本国憲法の基本	日本国憲法の基本原理である「国民主権」について、規定と意味について学習する。さらに、「基本的人権の尊重」に関する規定とその概要について学習する。	

	原理(1)		
第4回	日本国憲法の基本原理(2)	日本国憲法の基本原理である「平和主義」について、規定内容を学習し、さらに日本の防衛政策の現状、安保関連法制との関係について、学習する。	
第5回	法の下の平等	憲法が保障している法の下の平等の意義・内容について学習する。現実には生じている平等をめぐる問題について、判例を素材として検討する。	
第6回	精神的自由(1)	信教の自由を中心に学習する。なぜ認められる必要があるのか、その歴史的沿革、内容について学習する。さらに、それに関する判例を素材として、学習する。	☆レポート1 「基本的人権に関わるニュースについて」提出
第7回	精神的自由(2)	表現の自由について、その意義と内容について、学習する。また、プライバシー権との関係についても学習する。	
第8回	経済的自由	憲法が保障する経済的自由に関する諸権利について学習する。精神的自由権との関係についても学習する。	★確認テスト1 「日本国憲法の成立と基本原理、平等、自由権(1)」実施
第9回	法定手続きの保障 人身の自由	憲法が保障する「人身の自由」について学習した後、刑法との関係について理解する。また、犯罪と刑罰制度の概要を学習し、特に死刑制度について、その現状とそれに対する議論を検討する。	
第10回	社会権	社会権と区分される人権について学習した後、「生存権」「教育を受ける権利」、「労働基本権」等についてその概要を学習する。	
第11回	立法	国会のさまざまな権能、国権における地位について概観する。衆議院と参議院の関係、国会の意思決定過程、具体的な役割について学習する。さらに、選挙制度についても、学習する。	
第12回	行政	内閣の地位・役割について、学習する。「議院内閣制」の内容とメリット、内閣総理大臣の選出方法、国務大臣の任免、さらに内閣の具体的な役割、意思決定の方法等について、主に学習する。	☆レポート2 「統治機構(政治のしくみ)の課題について」提出
第13回	司法	裁判のしくみについて、概要を学習した後、刑事裁判で取り入れられている裁判員制度について、VTRに沿って学習する。	
第14回	天皇・地方自治・憲法改正	憲法が規定する「象徴天皇」の地位・権能、またそれを規定している皇室典範について、学習する。また、地方自治に関する来っていないように学習し、さらに、憲法改正の手續、憲法改正に関する各政党・学界・国民の考え方について理解する。	
	全体		★確認テスト2

第15回	のまとめ	全体をまとめ、憲法を取り巻く状況とその課題について検討する。	「自由権(2)、社会系、統治機構」実施
教科書			
『目で見える憲法』初宿正典・大沢秀介・他 編著（有斐閣）			
参考書			
『ポケット六法』菅野和男・江頭憲治郎・他 編（有斐閣）			
成績評価			
平常点（授業への参加度・学習態度・授業内課題等）［30％］、レポート［30％］、確認テスト［40％］を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。			
授業時間外の学習			
次回の授業についての資料を読んでおくこと。授業終了後は、授業で説明された部分をハンドアウト等で復習しておく。レポート・確認テストについて、準備しておく。			
履修のポイント			
教員免許を取得しようとする学生は、必ず履修すること。			
オフィス・アワー			
月・火・木曜日，11時～15時（授業時間以外）， 9号館3階第9研究室			

講義コード	10060001
講義名	国際文化論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要

グローバル化は、政治、経済、文化、歴史を含め、人々を取り巻く社会を大きく変容させた。本講義では、近代以降を中心として、社会学の視点から歴史や文化について学ぶ。

教育目標

幅広い視野に立って、歴史や文化あるいは現代の問題を理解する。

到達目標

世界の歴史や文化への興味・関心を高め、国際的な課題に対する認識を深めることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	イントロダクション	国際文化論の課題
第2回	近代と国家Ⅰ	近代社会の誕生と成立
第3回	近代と国家Ⅱ	近代人の精神とSFの世界
第4回	四大文明	文明の探求と世紀末の発見
第5回	観光の近代Ⅰ	欧米のツーリズム
第6回	観光の近代Ⅱ	日本のツーリズム
第7回	文化人類学	オリエンタリズム
第8回	移民の世紀Ⅰ	アメリカ移民の歴史
第9回	移民の世紀Ⅱ	移民と文化
第10回	歴史と文学	マイノリティの生きる世界
第11回	現代の課題Ⅰ	ジェンダーと政治
第12回	現代の課題Ⅱ	シティズンシップ論
第13回	歴史と記憶Ⅰ	戦争の世紀と人々の語り
第14回	歴史と記憶Ⅱ	歴史の見方
第15回	まとめ	他者への理解

教科書
必要な資料は随時配布
参考書
授業時に随時紹介
成績評価
単位認定60点以上。授業態度や試験結果で総合評価する。
授業時間外の学習
授業内容に関して、意欲的に学習する。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	10070001
講義名	家族関係論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	2 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要

本講義は、近代以降の家族をめぐる問題に関して、社会学や歴史学をはじめ多様な学問領域の視点を踏まえ、教育やジェンダーの視点を用いて歴史的に読み解くことを前提とする。また、現代の家族が抱える問題に着目し、家族を支援する諸制度も扱う。

教育目標

家族の概念や歴史にに関して学び、近代以降の展開を捉える。

到達目標

家族のあり方に関して、新たな視点と問題意識をもつことを目的とする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	イントロダクション	家族への着目
第2回	家族の歴史	近代社会と家族
第3回	家族研究の展開	家族研究の主題と方法
第4回	生命の誕生と家族	子どもの誕生と家族の役割
第5回	戦前日本の家族Ⅰ	近代国家における家族
第6回	戦後日本の家族Ⅱ	大衆化と女性の社会進出
第7回	女性の役割	女性のライフコース
第8回	家族イメージ	メディアにおける家族・女性像
第9回	結婚観	恋愛結婚の誕生、未婚化・晩婚化
第10回	家族の変容	セクシャリティの問題
第11回	現代の家族Ⅰ	家族が抱える子の問題（不登校、ひきこもり、児童虐待など）
第12回	現代の家族Ⅱ	夫婦関係の問題
第13回	家族と制度	育児支援の政策と展開
第14回	家族と地域	孤立する家族

第15回	まとめ	家族の未来
教科書		
必要な資料は随時配布		
参考書		
授業時に随時紹介		
成績評価		
単位認定 60 点以上。授業態度や試験結果で総合評価する。		
授業時間外の学習		
授業内容に関して、意欲的に学習する。		
オフィス・アワー		
授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。		

講義コード	10080001
講義名	スポーツ科学Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高見 達也	指定なし

授業の概要

身体活動の必要性を理解し、身体の健全な維持などの合理的な方法を学ぶ。すなわち、スポーツを通しそれぞれの身体機能の維持あるいは向上を図るための基礎知識を知る。レクリエーションは精神的なストレスの解消ばかりでなく身体的な健康の維持にも重要である。レクリエーション理論について幅広く学ぶと共に、生涯に渡りレクリエーションとしてのスポーツを実践していく能力を高める。さらに実際のレクリエーションの計画・実施を行い、その効果の判定方法などについて学ぶ。

教育目標

自己身体運動の理解と分析

到達目標

レクリエーションの概念の理解
身体機能の維持・向上を図るための方法論の習得

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、体力と身体機能について	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第2回	メディカルチェック	スポーツの意識調査、スポーツ経験調査、ストレッチ	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第3回	コミュニケーション・ワーク	①ホスピタリティ・トレーニング ②アイスブレイキング	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第4回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第5回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第6回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
		レクリエーションバレー	運動着(ジャージ・スウェット等)、体

第7回	球技	ボールの実践(基礎練習④)	育館シューズを用意してください。
第8回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(戦術①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第9回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(戦術②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第10回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第11回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第12回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第13回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム④)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第14回	レクリエー ション	レクリエーションスポーツ の実践	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第15回	レクリエー ション	指導方法、レクリエーショ ンプログラム作成、実践	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。

教科書

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

成績評価

単位認定60点以上 【実技試験60%、授業内確認テスト20%、授業内の安全性（ルール等の厳守）20%】

授業時間外の学習

レクリエーションの意義について事前に学習すること。
バレーボールの基本的なルールや技能について学習をすること。

オフィス・アワー

授業日の授業開始もしくは授業終了後に体育館等で相談に応じます。

講義コード	10080002
講義名	スポーツ科学Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高見 達也	指定なし

授業の概要

身体活動の必要性を理解し、身体の健全な維持などの合理的な方法を学ぶ。すなわち、スポーツを通しそれぞれの身体機能の維持あるいは向上を図るための基礎知識を知る。レクリエーションは精神的なストレスの解消ばかりでなく身体的な健康の維持にも重要である。レクリエーション理論について幅広く学ぶと共に、生涯に渡りレクリエーションとしてのスポーツを実践していく能力を高める。さらに実際のレクリエーションの計画・実施を行い、その効果の判定方法などについて学ぶ。

教育目標

自己身体運動の理解と分析

到達目標

レクリエーションの概念の理解
身体機能の維持・向上を図るための方法論の習得

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、体力と身体機能について	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第2回	メディカルチェック	スポーツの意識調査、スポーツ経験調査、ストレッチ	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第3回	コミュニケーション・ワーク	①ホスピタリティ・トレーニング ②アイスブレイキング	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第4回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第5回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第6回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
		レクリエーションバレー	運動着(ジャージ・スウェット等)、体

第7回	球技	ボールの実践(基礎練習④)	育館シューズを用意してください。
第8回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(戦術①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第9回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(戦術②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第10回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第11回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第12回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第13回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム④)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第14回	レクリエー ション	レクリエーションスポーツ の実践	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第15回	レクリエー ション	指導方法、レクリエーショ ンプログラム作成、実践	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。

教科書

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

成績評価

単位認定60点以上 【実技試験60%、授業内確認テスト20%、授業内の安全性（ルール等の厳守）20%】

授業時間外の学習

レクリエーションの意義について事前に学習すること。
バレーボールの基本的なルールや技能について学習をすること。

オフィス・アワー

授業日の授業開始もしくは授業終了後に体育館等で相談に応じます。

講義コード	10090001
講義名	スポーツ科学Ⅱ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高見 達也	指定なし

授業の概要

運動は健康で生き生きと過ごすために欠かせない大切な要素の一つである。生涯を通じて運動に親しみ実践していけるかどうかは青年期の取り組み如何による。基礎的な体力づくりのためのトレーニング方法の理論を学び、また運動実践能力を高めていく。更に、スポーツ活動を通じて心身を鍛え、スポーツコミュニケーションの追及、スポーツ実践による自己確認、技術の習熟による興味の拡大、スポーツ文化の理解を深める。

教育目標

自己身体運動の理解と分析

到達目標

基本トレーニングの方法論の習得。
グループワークにより、練習計画をたてるとともに、より高い技術の習得をめざす。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、運動の原理・原則について	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第2回	総合運動能力測定	運動能力測定の方法と実施	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第3回	総合運動能力測定	運動能力測定の実施 測定結果発表	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第4回	運動処方・トレーニング方法	運動能力測定結果に基づき、運動の種類・強さ・持続時間・頻度を示し、運動時の注意点を明確にする。	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第5回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(基礎練習①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。

第6回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(基礎練習②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第7回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第8回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第9回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第10回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(基礎練習)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第11回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(基礎練習・ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第12回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第13回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第14回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム④)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第15回	有酸素トレーニングの実践	上肢・下肢のトレーニング(エアロビクス、サーキットトレーニング)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。

教科書

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

成績評価

単位認定60点以上 【実技試験60%、授業内確認テスト20%、授業内の安全性（ルール等の厳守）20%】

授業時間外の学習

基本的なルールについて学習をし、体力・技術の弱点を克服するように努めること。

オフィス・アワー

授業日の授業開始もしくは授業終了後に体育館等で相談に応じます。

講義コード	10100001
講義名	環境論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 園田 陽一	指定なし

授業の概要

環境問題は社会、経済、健康、自然環境への影響は多岐にわたります。過去の社会は、環境保護、自然保護のように環境を人間活動から保護することが目的でした。しかし、これからの社会は、環境共生型社会であり、持続可能な社会が求められています。私たちは、地球の生物多様性を基盤とし、それらを消費して生きています。生物多様性は、地球の気象調節から国土や都市の基盤であり、農林水産業、観光業など自然を利用するものだけでなく、多くの社会経済の基盤となる重要な要素です。本授業では、身近な環境問題を生物多様性の観点から概観し、持続可能な地域社会の在り方について講義します。

教育目標

私たちの生活基盤となる生物多様性と環境問題を理解し、社会に出た際に社会的責任（CSR）などの活動への参画や協働について自ら考える力を身につける。

到達目標

環境観が養われているかどうかを論述で問う。産業活動や人間活動による環境の改変が生物多様性にどのような影響を与えるのかを判断できる知識を持っているかどうかを評価し、その内容が大学生としての素養を備えているかどうかを判断材料とする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	ガイダンスと環境問題	本授業の目的や到達目標と成績評価の方法についてのガイダンスと環境問題について概説します。	アンケートを行います。
第2回	生物多様性と持続可能な利用	なぜ、生物多様性なのか。生態系サービスとなぜ持続可能な利用が必要なのかについて理解する。	
第3回	生態系サービスとは	地球と自然環境、生態系の構成要素とその役割を理解します。	
第4回	生物多様性への劣化	人間活動と生物多様性の危機、生態系サービスの劣化、公害問題等について理解します。	
第5回	都市化と環境問題	グローバルな人口増加と都市の集中がもたらす環境問題を理解します。	
	地球温暖化と都市	地球温暖化とヒートアイランド現象の違いについて	

第6回	のヒートアイランド現象	て概説し、その影響がもたらす気候変化のメカニズムを理解します。	
第7回	グローバルな地球環境の変化	オゾン層の破壊、砂漠化、酸性雨、森林減少などグローバルな地球環境の変化について理解します。	
第8回	環境をめぐる世界的な動き	地球環境問題を解決するための世界的な動向、日本の取り組みについて理解します。	レポート課題を出します。
第9回	わが国の環境に関わる法律	日本の環境施策について理解します。	
第10回	環境アセスメントとミティゲーション	開発行為に対して、公害や自然環境の破壊を未然に防ぐ法的措置とその代替技術について理解する。	
第11回	カーボンオフセットと生物多様性オフセット	二酸化炭素排出量削減の取り組みや同様のオフセット制度の仕組みを理解する。	
第12回	生物多様性地域戦略とは	わが国の生物多様性基本法、生物多様性国家戦略に基づいた生物多様性地域戦略について理解します。	
第13回	環境への関心を高める取り組み	環境共生型まちづくりや、エコツーリズムなど環境へ関心をもつための仕組みづくりや取り組みについて紹介します。	
第14回	環境教育とESD	環境教育や持続可能な開発のための教育についてふれ、次世代の子供たちの教育について考えます。	
第15回	企業の社会的責任と自然資本	現代企業の社会的責任としての自然環境保全から自然資本としての積極的な活用へ、企業の取り組みについて理解します。	

教科書

東京商工会議所編著 ECO検定（環境社会検定試験）公式テキスト 日本能率マネジメントセンター

参考書

必要なとき講義中に提示する

成績評価

単位認定：60点以上

レポートの提出(20%)、期末試験(80%)をもとに総合的に評価する。

授業時間外の学習

環境問題に関するニュースやウェブ、新聞記事等に目を通しておくとよい。

履修のポイント

レポートの提出を求めることがある。

オフィス・アワー

授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	10110001
講義名	人間発達学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 齊藤 敦子	指定なし

授業の概要

人間の誕生から人生を終えるまでの身体的・心理社会的及び知性や倫理道德観の発達過程を学び、それぞれの成長発達段階における発達課題について理解する。

教育目標

1. 発達領域（身体的・論理的・心理社会的・倫理道德的）において、それぞれの成長に伴った発達課題があることを理解する。
2. 一生を通じて成長している中での健康的な成長発達について、また障害を伴う成長発達についても理解を深める。
3. 成長発達段階に応じて発達課題を達成するために、年齢に応じた自己理解を深める。

到達目標

1. 発達の原則に基づいた人間の成長発達を理解する。
2. 身体的・思考（知性）・心理社会的・倫理道德的な領域におけるそれぞれの発達段階を理解し、統合的に人間の成長について理解する。
3. それぞれの領域の成長発達は相互に関連性があり、個人がさまざまな背景を抱えながら成長することを理解する。
4. 高齢期に達することで、生涯を通じて「生きること」の意義を考える。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	人間の成長発達概念	発達の原則・発達課題について	
第2回	身体的な成長発達(1)	胎児期から学童期	
第3回	身体的な成長発達(2)	思春期から成人期	
第4回	身体的な成長発達(3)	高齢期、身体的な成長発達の課題学習	
第5回	思考の成長発達(1)	「思考の発達とは」、ピアジェの発達段階（感覚－運動期）	
第6回	思考の成長発達(2)	ピアジェの発達段階（前操作期・具体的操作期）	
第7回	思考の成長発達(3)	ピアジェの発達段階（形式的操作期）	

第8回	身体的発達と思考の発達との関連	身体的な成長と思考の発達との関連性について	小テスト (1)
第9回	心理社会的な成長発達 (1)	「心理社会的な発達とは」、エリクソンの発達段階 (0歳～4歳)	
第10回	心理社会的な成長発達 (2)	エリクソンの発達段階 (5歳～青年期)	
第11回	心理社会的な成長発達 (3)	エリクソンの発達段階 (成人期・高齢期)	
第12回	倫理道徳観の成長発達 (1)	「倫理道徳観の発達とは」、コールバーグの発達段階 (前慣習期)	
第13回	倫理道徳観の成長発達 (2)	コールバーグの発達段階 (慣習期・後慣習期)	
第14回	生涯発達について	誕生から「老い」や「死」を含めた生涯における人間の発達について	
第15回	高齢期からの発達課題について	高齢期の発達課題・問題点、「より良く生きるとは」について考える	小テスト (2)

教科書

講義資料はクラス内で配付します。

参考書

クラス内で紹介することもあります。

成績評価

小テスト (1) (2) : 各35点 レポート (1) (2) : 各15点 レポートの課題と提出日は、クラス内でお知らせします。

授業時間外の学習

復習をきちんとすることで、次の授業への関連性が理解できると思います。

履修のポイント

自分自身の成長と重ね合わせて考えられるので、講義後に復習をして内容を自分でまとめることをお勧めします。

オフィス・アワー

講義や会議、出張等なければ随時オフィス・アワーを設けたいと思いますが、講義が終了した時点で申し出てくだされば予定を入れることも可能です。

講義コード	10120001
講義名	物理学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 樺沢 龍次郎	指定なし

授業の概要

看護や栄養の専門分野を学習するうえで、「物理学」は重要な役割をもっています。本授業では、物理学の基礎知識や数値処理の方法、さらには、物理学の原理・原則を理解し、医療技術や臨床現場での応用まで発展させて学習します。専門科目を理解するための導入・基礎科目として、高等学校で物理を履修していなくても、十分理解できる内容と構成になっています。(教科書の内容をベースにして、物理学の基礎をまじえながら応用・事例の解説をする)

教育目標

看護教育や栄養教育に必要な物理学的内容を、医療・看護・食と健康の現場との関連性を考慮していく

到達目標

- ・物理学の基礎「原理・原則」を理解する
- ・看護・栄養分野への物理学の応用を理解する
- ・基礎から専門分野への発展・応用ができるようにする

授業計画

	主題	授業内容
第1回	物理学と人体の関わり	・物理量と単位系 ・物理量の測定 ・物理学と医療機器
第2回	人体の力学	・人体のてこ ・垂直跳び ・歩行と振り子 ・医療機器と力学
第3回	流体と人体①（静止流体）	・大気圧と静水圧 ・圧力計 ・弾性薄膜 ・表面張力 ・陰圧 ・肺泡と表面張力
第4回	流体と人体②（運動流体）	・心臓と血液の流れ ・血圧の変化 ・血圧測定
第5回	流体と人体③（流体と医療）	・気体を流す場合 ・液体を流す場合（点滴装置の原理）
第6回	熱と体温①（熱と温度）	・温度と温度計 ・熱と比熱 ・融解と蒸発 ・熱と仕事（エネルギー）
第7回	熱と体温②（体温調節）	・体温と温度調節 ・体内で発生する熱 ・身体からの放熱

		・生理的体温調節機構 ・物理的放熱機構
第8回	熱と体温③（体温測定）	・平衡温 ・水銀温度計 ・電子体温計 ・耳式体温計 ・サーモグラフィー
第9回	音と光と人体①（音波）	・音の性質 ・耳の構造 ・聴覚 ・音波の医療への応用
第10回	音と光と人体②（光波）	・反射と屈折 ・スペクトル ・レンズとメガネ ・光の医療への応用
第11回	電気と磁気の世界①（基礎知識）	・電流、電圧、電気抵抗 ・直流と交流 ・電力と熱
第12回	電気と磁気の世界②（生体と電気）	・生体における静電気現象 ・心臓の刺激伝導系 ・医療における主な応用機器
第13回	原子と放射線①（基礎知識）	・原子の構造と原子核 ・原子の定常状態 ・放射線と性質
第14回	原子と放射線②（医学における放射線）	・放射線の基礎知識 ・放射線による障害とその防護
第15回	原子と放射線③（医療への応用機器）	・医療における放射線の応用 ・X線CT ・MRI装置 ・ポジトロンCT装置

教科書

医療系のための物理（佐藤幸一・藤城敏幸 著） 東京教学社

成績評価

単位認定 60点以上。（筆記試験80% 平常点：受講態度等）

授業時間外の学習

新聞や雑誌・書籍等を通して、科学技術と人間及び医療保健について考えるようにする。

履修のポイント

医療に関する種々の事象・応用が、どのようなしくみで成り立っているのかを考えながら履修すること。

オフィス・アワー

月曜日（13：00～17：00）：4号館2F（第3研究室）

講義コード	10130001
講義名	生物学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要

看護師になるために学ぶ教科目の中で、生物学が関与する内容は非常に多い。高校時代に「生物」を履修してこなかった学生にも解りやすく、今後の授業で障害とならないよう、特に私たちヒトに関する内容（細胞、遺伝、免疫など）を中心に講義する。また最新のバイオテクノロジーやバイオサイエンスの情報なども織り込んでいく。

教育目標

看護師として必要な生物学の基礎を習得させる。

到達目標

生命の基本単位である“細胞”に共通の基本構造および機能を踏まえ、細胞の発生・遺伝・進化のしくみについて学ぶ。またこれらを通じて、私たちの生体内で起こる様々な生命現象を理解するための基礎を身につける。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	生物学の基本	進化論の登場、地球上の生物に共通すること、生物体のつくりと階層性など
第2回	細胞のプロフィール	細胞を構成している物質、細胞小器官の構造と機能など
第3回	何が細胞の形や機能を決めているのか	形質を決めているものを求めて、遺伝子としてのDNAなど
第4回	細胞が生きて活動していくために	ATPの産生、代謝経路のネットワークなど
第5回	タンパク質が細胞のさまざまな活動を担う	タンパク質のさまざまな機能
第6回	多細胞生物への道Ⅰ	細胞間の情報交換、ホルモンと受容体で情報を伝えるなど
第7回	多細胞生物への道Ⅱ	DNAの複製、細胞周期と体細胞分裂など
第8回	多細胞生物への道Ⅲ	減数分裂、生殖細胞の形成、受精など
第9回	個体を守る免疫システム	非特異的生体防御機構、特異的生体防御機構、免疫

		機能の制御など
第10回	生きること、死ぬこと	細胞の再生、細胞が死ぬとき、老化・寿命と遺伝子 の関係など
第11回	個体としてのまとまり	内部環境を一定に、制御中枢による情報の処理と調 整、動物の行動など
第12回	生物の進化と多様性	進化と多様性の創出、地球上の生物多様性を守るた めになど
第13回	遺伝とはⅠ	遺伝とは、メンデルの研究と遺伝の法則など
第14回	遺伝とはⅡ	さまざまな遺伝
第15回	遺伝とはⅢ	性と遺伝、性染色体と性の決定、伴性遺伝など

教科書

『基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学』第3版 和田 勝著（羊土社）

参考書

单元ごとにプリント教材を配布する。

成績評価

単位認定60点以上 学期末試験100%

授業時間外の学習

单元ごとに復習問題を配付するので、必ず解いて理解を深めること。

履修のポイント

教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。

オフィス・アワー

授業内容等の質問については、授業終了後、または11号館3F研究室13で随時受け付ける。

講義コード	10140001
講義名	化学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	3 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要

生体反応を理解するために必要な化学を学ぶ。パーセント濃度やモル濃度、原子の構造、化学結合、化学反応、化学平衡、溶液の性質、酸化と還元など看護師に必要とされる化学の基礎を学習する。

教育目標

生体反応を理解するための化学の基礎知識を身に付ける。次の1)～4)ができるようにする。
 1) パーセント濃度、モル濃度、希釈の計算 2) SI 単位の理解、単位変換
 3) 原子、分子、イオン、化学結合の理解
 4) 酸、塩基、酸化、還元、pHの理解

到達目標

パーセント濃度や希釈の計算、単位変換の問題、および、高校化学基礎レベルの問題で60%以上の正解を上げられるようにする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	化学で使う数字・単位のルール	指数・有効数字、SI単位、単位の変換	P.215アクセスノート P.2-P.3
第2回	物質の探求、物質の構成粒子	身の回りにある物質の分類、元素、物質を構成している原子とその構造、分子、イオン	アクセスノート P.4-P.7
第3回	原子、周期表、電子配置	原子の構造を中心にして、元素記号、周期表、電子配置	アクセスノート P.10-P.15
第4回	物質質量	原子量 (mol)、分子量、式量	アクセスノート P.32-P.37
第5回	化学反応式と量的関係、モル濃度	化学変化、化学反応式の書き方、モル濃度	アクセスノート P.42-P.47
第6回	溶液の濃度	パーセント濃度、モル濃度	アクセスノート P.38-P.41

第7回	化学結合 (1)	イオン結合 および、イオン結合でできた結晶の性質、共有結合	アクセスノート P.20-P.22
第8回	化学結合 (2)	共有結合、配位結合および共有結合でできた結晶の性質	アクセスノート P.22-P.25
第9回	化学結合 (3)	分子間の結合（水素結合、分子間力）、金属結合、また、これらの結合によってできた物質の性質	アクセスノート P.26-P.27
第10回	物質の3態	気体、液体、固体の性質	アクセスノート P.8-P.9
第11回	酸と塩基	酸性、塩基性、水素イオン指数と水素イオン濃度の関係、緩衝液	P.162-P.172 P.181 アクセスノート P.52-P.59
第12回	酸化・還元	酸化、還元、酸化剤、還元剤、イオン化傾向	P.186-P.197 アクセ スノート P.64-P.69
第13回	看護計算	単位変換	
第14回	看護計算	濃度計算	
第15回	総合試験	これまでの授業内容の理解度を見るため、試験を行う。	持ち込み不可

教科書

サイエンスビュー 化学総合資料
アクセスノート基礎化学
看護計算

成績評価

総合試験で評価：60点以上

授業時間外の学習

予習：「サイエンスビュー化学総合資料」の授業範囲の部分を読む。わからない単語を調べる。
復習：アクセスノート基礎化学を使って、授業で学習した範囲を復習し、理解を確認する。

履修のポイント

2回目以降は、前回の授業範囲のアクセスノート基礎化学（改変する可能性有）の問題の小試験を行う。
自らで学習し、理解するようにする。授業内でわかったつもりになっても、自己学習をすると理解できていないことに気づくことがある。その場合は、教科書を調べ、理解をするようにする。
授業のスライドは配布しない。
学力レベルに合わせ、授業進行速度を変更する。そのため、シラバス通りに進まない場合もある。授業は休まないで出席すること。

オフィス・アワー

未定
質問に来るときは、事前にメール等で連絡をしてください。

講義コード	10150001	
講義名	生活とデザイン	
(副題)		
開講責任部署	看護学科	
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日		
代表時限		
区分	学部共通科目	
必修/選択	選択	
学年	4学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 松村 誠一	指定なし

授業の概要

現代社会の中で生きている私たちは、多くの優れたデザインに囲まれて生活しており、そこから大きな影響を受けています。文明や文化が開化する以前から、デザインと私たちの生活には密接な関係があり、近代になりグラフィックデザインやインダストリアルデザイン等の分野が確立されました。この授業では、私たちの生活とデザインの関係について考察していきます。※本授業では課題提出等により成績評価を行い、定期試験は実施しない。

教育目標

日常生活の中に普通に存在している「デザイン」について、その意味や歴史、価値、可能性等を多角的に学んでいき理解を深めることを目的とする。

到達目標

デザインの意味や価値、可能性をその歴史から考察し、デザインと人間との関係について理解を深めより良い社会生活が営まれることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	デザインの歴史①	イギリスの伝統と革新
第2回	デザインの歴史②	アール・ヌーヴォーの世界
第3回	デザインの歴史③	市民生活のグラフィックデザイン
第4回	デザインの歴史④	バウハウスーデザインの実験と総合ー①
第5回	デザインの歴史⑤	バウハウスーデザインの実験と総合ー②
第6回	デザイン実習①	アクリル絵具による色彩表現実習①
第7回	デザイン実習②	アクリル絵具による色彩表現実習②
第8回	デザイン実習③	ロゴデザイン、POP制作①
第9回	デザイン実習④	ロゴデザイン、POP政策②
第10回	デザイン実習⑤	ロゴデザイン、POP制作③
第11回	デザインと人間工学①	人体寸法と設計
第12回	デザインと人間工学②	家具、設備への応用（座る）
第13回	デザインと人間工学③	家具、設備への応用（寝る）

第14回	デザインと人間工学④	家具、設備への応用（立つ）
第15回	デザインと人間工学⑤	錯視効果、空間の心理

教科書

使用しない。

参考書

世界デザイン史（監修・阿部公正）

成績評価

単位認定 60 点以上 課題 100 % 評価

授業時間外の学習

「予習内容」情報収集を行い自分の考えをまとめる。「復習内容」ノートの整理、確認を行う。

履修のポイント

ノート提出を求める場合があり、授業態度や出席状況等も重要視する。

オフィス・アワー

111 研究室で随時行う

講義コード	10160001
講義名	地域社会学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要

近代社会は、社会構造や生活様式に大きな変化をもたらした。特に、農村から都市への人口流出や都市化は、コミュニティや個人を取り巻く環境を転換させた。本講義では、都市や農村に関する社会学の展開を中心に学ぶとともに、社会を構成する主要な組織が担う役割や課題を経済や文化の側面から把握する。

教育目標

地域社会学の歴史や課題を理解し、社会学的思考を身に付ける。

到達目標

講義内容を踏まえて、地域社会が抱える現代的課題を発見し、読み解く力を培う。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	イントロダクション	地域社会学の意義と課題
第2回	都市社会学の系譜	都市社会学の展開
第3回	流動型社会論	近代化論
第4回	現代の都市社会	都市空間と人間形成
第5回	現代の農村社会	高度経済成長と農村社会
第6回	地域権力構造論	地域と政治
第7回	アーバニズムとコミュニティ	町内会の変遷と課題
第8回	アーバニズムとローカリティ	東京の都市空間
第9回	グローバル社会	グローバル化と地域社会の変貌
第10回	エスニック・コミュニティ	エスニック・コミュニティの形成
第11回	社会変動と地域社会の形成	住民生活と行政
第12回	農山村の混住化社会	現代の農村社会
第13回	地域社会の活性化	地域の復興と観光
第14回	コミュニティ形成の課題	新たなコミュニティの創出と地域社会
第15回	まとめ	地域社会学の展望

教科書
必要な資料は随時配布
参考書
鈴木広監修 『地域社会学の現在』 （ミネルヴァ書房）
成績評価
成績評価 60点以上。授業態度や試験結果で総合評価する。
授業時間外の学習
授業内容に関して、意欲的に学習する。
オフィス・アワー
授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	10170001
講義名	人間工学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	4 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀井 実	指定なし
教員	松村 昌俊	指定なし
教員	篠崎 有陸	指定なし

授業の概要

人間の運動機能や動作特性について理解を深めるとともに、障害者や高齢者の日常生活を援助する観点から福祉用具の活用や住環境整備の方法を学ぶ。

教育目標

人間の日常生活動作の特性および福祉機器、住環境に関して医療・福祉分野などで役立つ実践的知識を習得する。

到達目標

医療・福祉分野における人間工学の活用について理解を深める。
福祉機器や、住環境整備の基礎知識を得る。
患者や障害者の生活の利便性、安全性、快適性の向上と支援者の負担軽減のため、人間工学の活用について考える。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	姿勢の観察	（オリエンテーション） 重心と姿勢、バランスについて学ぶ
第2回	転倒と転倒予防	日常生活動作における転倒と転倒予防について学ぶ
第3回	日常生活動作と関節可動域	関節可動域の評価と日常生活動作に必要な関節可動域について学ぶ
第4回	日常生活動作と筋力	筋力の評価と日常生活動作に必要な筋力について学ぶ
第5回	起居動作	立ち上がり動作をはじめとする動作分析について学ぶ
第6回	歩行	歩行分析について学ぶ
第7回	福祉機器	福祉機器について学ぶ
第8回	車椅子体験	車椅子への移乗と移動の援助について学ぶ
第9回	歩行障害	歩行補助具の種類と杖歩行のパターンについて学ぶ

第10回	姿勢と活動の援助 1	ボディメカニクスについて学ぶ
第11回	姿勢と活動の援助 2	良肢位、体位変換について学ぶ
第12回	事例紹介	福祉用具の活用や住環境整備の実際の事例について紹介する
第13回	フィールドワーク (調査・討論)	障害者、高齢者の立場からキャンパス内の建造物、環境を見直す(グループワーク)。
第14回	フィールドワーク (調査・討論)	障害者、高齢者の立場からキャンパス内の建造物、環境を見直す(グループワーク)。
第15回	試験	試験の実施と解説

教科書

なし(授業時に資料を配布する。)

参考書

なし(授業時に適宜紹介する。)

成績評価

単位認定：60点以上

講義コード	10180001
講義名	行動科学
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 徐 淑子	指定なし

授業の概要

この授業で、人は、人々が健康を守る行動を起こすときにどんな心理社会的仕組みが働いているのかについて、学びます。また、それらの知識を健康教育や患者教育にどのように応用できるかについて、考えます。まずは、じぶん自身の行動をモデルに当てはめて考えてみることから学習を始めましょう。

教育目標

行動モデルの発想を、保健医療の現場で生かすための、基礎をつくることを目的とします。

到達目標

1. 「健康と病気」をめぐる行動のさまざまなすがたについて、理解を深める
2. 行動モデルを用いて、身近な健康現象を理解・説明することができるようになる

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	保健行動の多様性 1	健康と病気にかかわるさまざまな行動を、いくつかの視点で分類しながら理解する。看護職者がとりあつかうケア範囲の広さを確認する。	個人ワーク／視聴覚資料
第2回	保健行動の多様性 2	生活構造論、段階的変化理論について取り上げ、保健行動がどのようにして個人の生活の中に組み込まれていくのかについて考える。	
第3回	保健行動の生起とその習慣化1	保健行動を説明する代表的な行動モデルについて学習する。 ①教育モデル ②恐怖アピールモデル ③保健信念モデル ④保健行動シーソーモデル	
第4回	保健行動の生起とその習慣化2	同上	
第5回	保健行動の生起とその習慣化3	社会的学習理論（自己効力感モデル）の考え方より、行動変容の過程について考える。	
第6回	精神健康が保健行動に与える影響	生活ストレス論の立場から、「なぜ、かんたんな保健行動が起こせない／続かない人があるのか」について、考える。	

第7回	行動科学的な知見の応用1（生活習慣指導への応用）	行動科学的知見を、生活習慣指導における個別支援にどのように活用できるか、事例に学びながら理解を得る。 ①認知行動療法の基本的な考え方 ②認知行動療法の考え方を援助内容にとり入れる。	
第8回	行動科学的な知見の応用2（生活習慣指導への応用）	同上	

教科書

指定教科書はありません。教員が資料を配布します。

参考書

授業中に、その都度、情報の出典を示し、より深く学習したい方のために関連書籍や文献を紹介いたします。

成績評価

単位認定60点以上。最終課題（レポート）100%で評価します。

授業時間外の学習

授業中に個別ワークにとりくんでもらいます。また、視聴覚資料を毎回視聴します。私語厳禁でお願いいたします。

履修のポイント

最終課題は授業中に実施するワークを統合したかたちで出題されます。学習成果を最終課題にうまく生かせるよう、授業内ワークでその都度確認しながら学習に取り組んでください。

講義コード	10190001
講義名	コミュニケーション論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要

なぜ、現代においてコミュニケーション能力が求められているのか。そもそも、コミュニケーション能力が高いとは、何を意味しているのか。また、コミュニケーションが上手いかわからない場合があるのはなぜなのか。
 人が人として生きていく上でコミュニケーションは欠かせませんが、これを成立させるのは、決して簡単なことではありません。今日の「コミュニケーション」研究の成果を学びながら、多面的に「コミュニケーション」についてグループ討議をすすめ、自他の発表を通して理解を深めていきます。

教育目標

日常的に行われているコミュニケーションの多面性を認識することを通して、不確実性の高まる社会の中でも逞しく生き抜ける確かな認識の獲得を目指します。また、グループ内コミュニケーションを通じた新たな意味の創造可能性を体験的に理解することを通して、主体的に生きることの難しさや喜びを実感することを目指します。

到達目標

1. グループ討議のための机の移動等、授業進行に積極的に協力することで、クラス全体の利益に貢献する。
2. グループ討議に積極的に参加し、また、発表内容のまとめに向けて、グループ内の意見集約に貢献する。
3. コミュニケーションによる社会的な自己形成過程について理解を深める。
4. コミュニケーションが成立する条件と成立しない条件について理解する。
5. コミュニケーションによる意味の創造可能性について、体験的に理解を深める。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	1.オリエンテーション 2.コミュニケーション能力	1.授業の進め方 2.コミュニケーションが上手な人、下手な人、両者の決定的な違い。 今日求められているコミュニケーション能力とは何だと考えるか。
第2回	○アイスブレーキング	○自己他者紹介ゲームの効果
第3回	○二重の条件依存性	1. 自己の行動選択の条件

		2. 共有される期待とコミュニケーション
第4回	○アイスブレイキング	○自己開示すごろくの効果と限界
第5回	○社会的な自己形成	1. コミュニケーションにより作られる自分 2. 精神分析理論に見る心の多様性（防衛機制）
第6回	○アイスブレイキング	○心の手紙を通した自己開示
第7回	○多様な自己の在り方	1. 主我と客我の葛藤 2. 交流分析とエゴグラムに見る多様な人格形成
第8回	○アイスブレイキング	○四面鏡による新たな自己認識
第9回	○多様な価値観	○人生で大切なもの
第10回	○共同研究	○題材の決定 ○研究の計画と役割分担
第11回	○共同研究	○研究調査
第12回	○共同研究	○研究調査
第13回	○共同研究	○研究調査・発表準備
第14回	○研究発表	○発表と他者評価
第15回	1. 授業のまとめ 2. テスト	○小論文形式のまとめテスト

教科書

使用しません。

参考書

伊藤公雄編『コミュニケーション社会学入門』世界思想社 2010年、
鈴木健編著『コミュニケーション・スタディーズ入門』大修館書店 2011年、
船津衛著『コミュニケーション・入門（改定版・第2版）』有斐閣アルマ 2012年

成績評価

60点以上の評価で単位認定します。評価の割合は、授業中の活動と毎回提出する確認カードの評価によって70%、授業最終回のまとめの後に実施する小論文試験によって30%で行います。演習形式の授業なので、4 / 5 未満の出席率であると、成績評価の資格を失います（15回中3回の欠席を超えると今年度の成績評価の資格なし）。この他に、遅刻、早退、欠席は減点の対象とします。

授業時間外の学習

第1回～第9回については、復習による振り返り学習を、第10回～第13回については、研究調査や発表資料作成、発表練習のために、グループ共同での自習時間が必要となります。

履修のポイント

主体的な授業参加を意識してください。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じますが、その他、必要に応じて互いの都合の良い時間を個別に設定します。相談してください。

講義コード	10200001
講義名	基礎英語Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 女鹿 喜治	指定なし

授業の概要

このリーディングの英文は笑い話ばかりですし、会話表現もそれに基づいています。比較的簡単な英語ですので、できるだけ訳さないで、英語のままで理解できるような読み方と簡単な英語でのやり取りの練習をします。一応、講義計画表通り進めていきますが、みなさんの英語力と予習の出来を見ながら進度を調節します。

教育目標

高校まで身につけた英語のリスニングに基づいた会話とリーディング能力を伸ばす。特に、日本語にはない英語独特の発想による表現に対しても注意を払えるようにする。

到達目標

英語を英語として読み、聞いてすぐに理解し、訳さないようにする。基本的な英語のやり取りを身に着ける。TOEIC 500点程度を目指します。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	英語のリーディングとリスニングはどうすれば伸ばせるのか。	英語のリーディングとリスニングはどうすれば伸ばせるのかを考えます。少し、教科書をやるかもしれません。
第2回	リーディングとリスニング	リーディング：Faster than you / 会話の聞き取りと重要表現 (1)
第3回	〃	リーディング：Wonderful medicine / 会話の聞き取りと重要表現 (2)
第4回	〃	リーディング：The polite waitress / 会話の聞き取りと重要表現 (3)
第5回	〃	リーディング：An absent-minded professor / 会話の聞き取りと重要表現 (4)
第6回	〃	リーディング：Sweat and tears / 会話の聞き取りと重要表現 (5)
第7回	〃	リーディング：The wrong puzzle / 会話の聞き取りと重要表現 (6)
第8回	中間試験（予定）	

第9回	リーディングとリスニング	リーディング：Beautiful money / 会話の聞き取りと重要表現 (7)
第10回	〃	リーディング：Finding opportunities / 会話の聞き取りと重要表現 (8)
第11回	〃	リーディング：Lost again / 会話の聞き取りと重要表現 (9)
第12回	〃	リーディング：Prisoner of the police / 会話の聞き取りと重要表現 (10)
第13回	〃	リーディング：Dead men's life-jackets / 会話の聞き取りと重要表現 (11)
第14回	〃	リーディング：Quiet please / 会話の聞き取りと重要表現 (12)
第15回	〃、小テスト(予定)	リーディング：Finding the car / 会話の聞き取りと重要表現 (14)

教科書

L. A. Hills・安藤賢一 (1991).Twenty Tales. 成美堂.

参考書

教室で適宜指示します。

成績評価

単位認定は60点以上：試験(2回の予定)の点数(90%)と教室での発言やその内容など(10%)。

授業時間外の学習

大雑把でいいですから、事前に英会話と英文を読んで、内容を把握しておいてください。そして、講義の後には、その英語がそのまま頭の中に入ってくるまで何度も読んでください。古くさいかもしれませんが、こういった積み重ねが英語力を高めます。

履修のポイント

全く当たり前のことですが、予習・復習をして下さい。つまり、前日には英文を読み、基本的な英語表現を見ておいて下さい。その後、自分の読めない部分や表現を繰り返し練習し、覚えて下さい。でも、これができない人が多いです。

オフィス・アワー

基本的には、私の空いた時間ならいつでも来室してください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。

講義コード	10200002
講義名	基礎英語Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 女鹿 喜治	指定なし

授業の概要

このリーディングの英文は笑い話ばかりですし、会話表現もそれに基づいています。比較的簡単な英語ですので、できるだけ訳さないで、英語のままで理解できるような読み方と簡単な英語でのやり取りの練習をします。一応、講義計画表通り進めていきますが、みなさんの英語力と予習の出来を見ながら進度を調節します。

教育目標

高校まで身につけた英語のリスニングに基づいた会話とリーディング能力を伸ばす。特に、日本語にはない英語独特の発想による表現に対しても注意を払えるようにする。

到達目標

英語を英語として読み、聞いてすぐに理解し、訳さないようにする。基本的な英語のやり取りを身に着ける。TOEIC 500点程度を目指します。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	英語のリーディングとリスニングはどうすれば伸ばせるのか。	英語のリーディングとリスニングはどうすれば伸ばせるのかを考えます。少し、教科書をやるかもしれません。
第2回	リーディングとリスニング	リーディング：Faster than you / 会話の聞き取りと重要表現 (1)
第3回	〃	リーディング：Wonderful medicine / 会話の聞き取りと重要表現 (2)
第4回	〃	リーディング：The polite waitress / 会話の聞き取りと重要表現 (3)
第5回	〃	リーディング：An absent-minded professor / 会話の聞き取りと重要表現 (4)
第6回	〃	リーディング：Sweat and tears / 会話の聞き取りと重要表現 (5)
第7回	〃	リーディング：The wrong puzzle / 会話の聞き取りと重要表現 (6)
第8回	中間試験（予定）	

第9回	リーディングとリスニング	リーディング：Beautiful money / 会話の聞き取りと重要表現 (7)
第10回	〃	リーディング：Finding opportunities / 会話の聞き取りと重要表現 (8)
第11回	〃	リーディング：Lost again / 会話の聞き取りと重要表現 (9)
第12回	〃	リーディング：Prisoner of the police / 会話の聞き取りと重要表現 (10)
第13回	〃	リーディング：Dead men's life-jackets / 会話の聞き取りと重要表現 (11)
第14回	〃	リーディング：Quiet please / 会話の聞き取りと重要表現 (12)
第15回	〃、小テスト(予定)	リーディング：Finding the car / 会話の聞き取りと重要表現 (14)

教科書

L. A. Hills・安藤賢一 (1991).Twenty Tales. 成美堂.

参考書

教室で適宜指示します。

成績評価

単位認定60点以上：試験(2回の予定)の点数(90%)と教室での発言やその内容など(10%)。

授業時間外の学習

大雑把でいいですから、事前に英会話と英文を読んで、内容を把握しておいてください。そして、講義の後には、その英語がそのまま頭の中に入ってくるまで何度も読んでください。古くさいかもしれませんが、こういった積み重ねが英語力を高めます。

履修のポイント

全く当たり前のことですが、予習・復習をして下さい。つまり、前日には英文を読み、基本的な英語表現を見ておいて下さい。その後、自分の読めない部分や表現を繰り返し練習し、覚えて下さい。でも、これができない人が多いです。

オフィス・アワー

基本的には、私の空いた時間ならいつでも来室してください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。

講義コード	10210001
講義名	基礎英語Ⅱ（Aクラス）
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 女鹿 喜治	指定なし

授業の概要

看護に関わる英語教材を使い、将来、働くことになる医療機関で使われている語彙や表現を身に付け、主に看護に関わる会話と英語表現を身に付ける練習をします。一応、講義計画表通り進めていきますが、みなさんの英語力と予習の出来を見ながら進度を調節します。

教育目標

看護に関わる基本的な会話表現と作文、語彙を身に付けます。

到達目標

看護に関わる基本的な語彙を身に付け、医療現場で、看護に関わる英語表現ができるようになる。TOIECで500点以上を目指します。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	導入	看護と医学に関わる語彙と英語表現について考えます
第2回	看護に関わる基本的な語彙と会話表現の練習	励ましのことば / 医学・看護に関わる語彙と表現(1)
第3回	〃	気分を聞いてみる / 医学・看護に関わる語彙と表現(2)
第4回	〃	行き先を案内する / 医学・看護に関わる語彙と表現(3)
第5回	〃	症状を尋ねる / 医学・看護に関わる語彙と表現(4)
第6回	〃	痛みの場所を尋ねる / 医学・看護に関わる語彙と表現(5)
第7回	〃	症状がどれくらい続くのかを尋ねる / 医学・看護に関わる語彙と表現(6)
第8回	中間試験（予定）	
第9回	看護に関わる基本的な語彙と会話表現の練習	病歴を尋ねる / 医学・看護に関わる語彙と表現(7)
		検査の手順を説明する(1) / 医学・看護に関わる語

第10回	〃	彙と表現(8)
第11回	〃	〃 (2) / 医学・看護に関わる語彙と表現(9)
第12回	〃	入院患者と円滑な会話をする / 医学・看護に関わる語彙と表現(10)
第13回	〃	手術後の説明 / 医学・看護に関わる語彙と表現(11)
第14回	〃	薬の説明をする / 医学・看護に関わる語彙と表現(12)
第15回	〃、小テスト(予定)	退院後の説明をする / 医学・看護に関わる語彙(13)

教科書

井上真紀・佐藤利哉 (2005). 話せる!役立つ!看護英語. マクミラン・ランゲージハウス.

参考書

教室で適宜指示します。

成績評価

単位認定60点以上：試験(2回の予定)の点数(90%)と教室での発言やその内容など(10%)

授業時間外の学習

ことばは知らないと表現できません。自宅では、その日に習った英語を口で言って、書いてください。そして、それがすぐに口から出るように何度も練習してください。英語を通して看護を見ると、看護の別の側面が見えてくることでしょう。英語はやれば必ずできるようになります。才能ではありません。コツコツやりましょう。特に、英語の語彙や表現は地道にやるしかありません。

履修のポイント

ことばですから、日常生活の中でこの場合は英語では何というのだろうと常に考えながら生活してみてください。こうすることで英語の表現力が高まります。

オフィス・アワー

基本的には、私の空いた時間ならいつでも来室してください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。

講義コード	10210002
講義名	基礎英語Ⅱ（Bクラス）
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 女鹿 喜治	指定なし

授業の概要

看護に関わる英語教材を使い、将来、働くことになる医療機関で使われている語彙や表現を身に付け、主に看護に関わる会話と英語表現を身に付ける練習をします。一応、講義計画表通り進めていきますが、みなさんの英語力と予習の出来を見ながら進度を調節します。英語はやれば必ずできるようになります。才能ではありません。コツコツやりましょう。特に、英語の語彙や表現は地道にやるしかありません。

教育目標

看護に関わる基本的な会話表現と作文、語彙を身に付けます。

到達目標

看護に関わる基本的な語彙を身に付け、医療現場で、看護に関わる英語表現ができるようになる。TOIECで500点以上を目指します。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	導入	看護と医学に関わる語彙と英語表現について考えます
第2回	看護に関わる基本的な語彙と会話表現の練習	励ましのことば / 医学・看護に関わる語彙と表現(1)
第3回	〃	気分を聞いてみる / 医学・看護に関わる語彙と表現(2)
第4回	〃	行き先を案内する / 医学・看護に関わる語彙と表現(3)
第5回	〃	症状を尋ねる / 医学・看護に関わる語彙と表現(4)
第6回	〃	痛みの場所を尋ねる / 医学・看護に関わる語彙と表現(5)
第7回	〃	症状がどれくらい続くのかを尋ねる / 医学・看護に関わる語彙と表現(6)
第8回	中間試験（予定）	
第9回	看護に関わる基本的な語彙と	病歴を尋ねる / 医学・看護に関わる語彙と表現(7)

	会話表現の練習	
第10回	〃	検査の手順を説明する(1) / 医学・看護に関わる語彙と表現(8)
第11回	〃	〃 (2) / 医学・看護に関わる語彙と表現(9)
第12回	〃	入院患者と円滑な会話をする / 医学・看護に関わる語彙と表現(10)
第13回	〃	手術後の説明 / 医学・看護に関わる語彙と表現(11)
第14回	〃	薬の説明をする / 医学・看護に関わる語彙と表現(12)
第15回	〃 、 (小テストの予定)	退院後の説明をする / 医学・看護に関わる語彙(13)

教科書

井上真紀・佐藤利哉 (2005). 話せる!役立つ!看護英語. マクミラン・ランゲージハウス.

参考書

教室で適宜指示します。

成績評価

単位認定60点以上：試験(2回の予定)の点数(90%)と教室での発言やその内容など(10%)。

授業時間外の学習

ことばは知らないと表現できません。自宅では、その日に習った英語を口で言って、書いてください。そして、それがすぐに口から出るように何度も練習してください。英語を通して看護を見ると、看護の別の側面が見えてくることでしょう。英語はやれば必ずできるようになります。才能ではありません。コツコツやりましょう。特に、英語の語彙や表現は地道にやるしかありません。

履修のポイント

ことばですから、日常生活の中でこの場合は英語では何というのだろうと常に考えながら生活してみてください。こうすることで英語の表現力が高まります。

オフィス・アワー

基本的には、私の空いた時間ならいつでも来室してください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。

講義コード	10220001
講義名	実践英会話（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

英語のlistening能力の養成を図りながら、多くの日常英語表現を学び、あらゆる状況に応じてspeaking能力を身に付け、実践的な英語の表現能力の向上を目指す。さらに時事・文化的な表現も学習し、国際社会人として、諸外国の人々との相互理解ができる様にする。授業は英語で行い、オンラインデジタル教材も利用する。

教育目標

Develop better listening and speaking abilities while learning foreign culture.
外国の文化を学びながら、英のlisteningや speaking能力を向上すること。

到達目標

- 1.The students can comprehend and respond to various oral directions and questions.
様々な口頭の指示や質問に対応できるようになる。
2. The students will learn how to interact in everyday situations using English.
日常生活で英語を使用して対話ができるようになる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション Basic English Review	授業の進め方、オンライン資料の紹介、デジタル録音の仕方 International Englishについて 英語復習：Time, Dates, Months, Numbers, Directions etc.
第2回	The Rules Scene	Asking permission and learning the rules
第3回	The Time Scene & Culture Talk 1	Talking about time and schedules Culture Talk: Gestures and Taboos
第4回	The Polite Request Scene & Idioms	Making polite requests and offers Commonly used Idioms
第5回	Putting Things Away Scene	Asking about location and where things go
第6回	The Location Scene & Idioms	Asking where places are and giving directions Commonly used Idioms
第7回	Mini-Test The Shopping Scene	Mini-Test Shopping and asking about preferences

第8回	The Directions Scene	Giving directions about how to get somewhere
第9回	The Restaurant Scene & Culture Talk 2	Ordering and Serving Food in a restaurant Culture Talk: Strange Foods
第10回	The Complaint Scene	Making and responding to complaints
第11回	The Illness Scene	Describing a medical problem and asking advice
第12回	Practical English & Culture Talk 3	Reporting an Emergency Culture Talk: Superstitious Beliefs
第13回	The "How To" Scene	Asking for instructions and explaining how to do something
第14回	The Getting Things Done Scene	Getting things done that you do not do yourself
第15回	Test Role Playing	Evaluation Test Pairwork: Role Playing

教科書

Performance -Conversation Scenes from Everyday Life
David Harrington and Charles LeBeau

参考書

イギリスのBBC: <http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/>
学習題材を提示する教材

成績評価

単位認定 60 点以上
授業への積極性 (25%)、課題 (25%)、テスト(50%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

授業時間外の学習時間の増大による英語力の向上につながる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①「基礎英語I、基礎英語II」を履修済みであることが望ましい。
- ②日常生活でよく用いられる英語表現を学び、それらを実践していく。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み
研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）

講義コード	10220002
講義名	実践英会話（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

英語のlistening能力の養成を図りながら、多くの日常英語表現を学び、あらゆる状況に応じてspeaking能力を身に付け、実践的な英語の表現能力の向上を目指す。さらに時事・文化的な表現も学習し、国際社会人として、諸外国の人々との相互理解ができる様にする。授業は英語で行い、オンラインデジタル教材も利用する。

教育目標

Develop better listening and speaking abilities while learning foreign culture.
外国の文化を学びながら、英のlisteningや speaking能力を向上すること。

到達目標

- 1.The students can comprehend and respond to various oral directions and questions.
様々な口頭の指示や質問に対応できるようになる。
2. The students will learn how to interact in everyday situations using English.
日常生活で英語を使用して対話ができるようになる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション Basic English Review	授業の進め方、オンライン資料の紹介、デジタル録音の仕方 International Englishについて 英語復習：Time, Dates, Months, Numbers, Directions etc.
第2回	The Rules Scene	Asking permission and learning the rules
第3回	The Time Scene & Culture Talk 1	Talking about time and schedules Culture Talk: Gestures and Taboos
第4回	The Polite Request Scene & Idioms	Making polite requests and offers Commonly used Idioms
第5回	Putting Things Away Scene	Asking about location and where things go
第6回	The Location Scene & Idioms	Asking where places are and giving directions Commonly used Idioms
第7回	Mini-Test The Shopping Scene	Mini-Test Shopping and asking about preferences

第8回	The Directions Scene	Giving directions about how to get somewhere
第9回	The Restaurant Scene & Culture Talk 2	Ordering and Serving Food in a restaurant Culture Talk: Strange Foods
第10回	The Complaint Scene	Making and responding to complaints
第11回	The Illness Scene	Describing a medical problem and asking advice
第12回	Practical English & Culture Talk 3	Reporting an Emergency Culture Talk: Superstitious Beliefs
第13回	The "How To" Scene	Asking for instructions and explaining how to do something
第14回	The Getting Things Done Scene	Getting things done that you do not do yourself
第15回	Test Role Playing	Evaluation Test Pairwork: Role Playing

教科書

Performance -Conversation Scenes from Everyday Life
David Harrington and Charles LeBeau

参考書

イギリスのBBC: <http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/>
学習題材を提示する教材

成績評価

単位認定 60 点以上
授業への積極性 (25%)、課題 (25%)、テスト(50%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

授業時間外の学習時間の増大による英語力の向上につながる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①「基礎英語I、基礎英語II」を履修済みであることが望ましい。
- ②日常生活でよく用いられる英語表現を学び、それらを実践していく。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み
研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）

講義コード	10230001
講義名	医療保健英語
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 女鹿 喜治	指定なし

授業の概要

最近、少子高齢化や医療の発展に伴い、看護を取り囲む環境が急激に変動しつつあります。このような時代における医療と看護に関わる英文を読みます。一応、講義計画表通り進めていきますが、場合によっては、みなさんの英語力と予習の出来を見ながら進度を調節します。

教育目標

看護に関わる基本的な英文を読み慣れて、将来、英語で書かれた専門的な論文などを読むことのできる下地を作る。

到達目標

看護に関わる英文を読み、基本的な語彙と表現を習得する。TOEIC 550点程度を目指します。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	導入	ある程度専門的な英語を読めるようにするためにはどんなことをしなければならないのかを考えてみます。
第2回	看護に関わる英文の購読	日本の医療、問診票
第3回	//	インフルエンザ
第4回	//	看護師
第5回	//	肝炎
第6回	//	血液検査、臨床検査技師
第7回	//	糖尿病
第8回	//	糖尿病、管理栄養士
第9回	//	外傷性骨折
第10回	//	リハビリテーション、理学療法士
第11回	//	肺がん
第12回	//	CTスキャン、放射線技師
第13回	//	気管支喘息
第14回	//	薬物療法、薬剤師

第15回	//	チーム医療
教科書		
高木久代・小沢淑子 (2015). メディカル英語. 講談社.		
参考書		
教室で適宜指示します。		
成績評価		
単位認定60点以上：試験の点数(80%)と教室での発言やその内容など(20%)。（履修人数が少なければ、平常点のみ。）		
授業時間外の学習		
大雑把でいいですから、事前に英文を読んで、内容を把握しておいてください。そして、講義の後には、その英語が英語のままで左か右にそのまま頭の中に入ってくるまで何度も読んでください。こういった積み重ねが英語力を高めます。		
履修のポイント		
ここで語られている内容そのものは意識の高い学生なら既に知っているものかもしれませんが。英語そのものは難しく感じても、そのような場合、意外に読みやすいものです。恐れずにチャレンジしてみてください。		
オフィス・アワー		
基本的には、私の空いた時間ならいつでも来室してください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。		

講義コード	10240001
講義名	英書講読
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	3 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 女鹿 喜治	指定なし

授業の概要

将来、働くことになる医療機関で使われている語彙や表現は英語ではどのように表されるのでしょうか。看護の事例を英語で読み、看護に関わる英語の語彙力と読解力を身に付けます。

教育目標

みなさんは、卒業後、実践の場に行くことになるでしょうが、しばらくすれば、必ず看護研究に関わることになると思います。その時には、英語で書かれた論文を読むことになるでしょう。その基礎的な訓練になると思います。

到達目標

看護の事例に関わる英文の内容をすばやく、深く読みとる。TOEIC 550点程度。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	導入	看護に関わる英語表現について考えます
第2回	看護に関わる英文の講読	Risk for injury
第3回	//	Self-care deficit
第4回	//	Respiratory disorders
第5回	//	Fluid volume deficit
第6回	//	Insomnia
第7回	//	Chronic pain
第8回	//	Healthy dietary practice
第9回	//	Urinary retention
第10回	//	Constipation
第11回	//	Impaired physical mobility
第12回	//	Impaired skin integrity
第13回		Visual alternations
第14回	//	Surgical client
第15回	//	Memory impairment

教科書

杉田由仁 & R. Caraker(2007). 事例で学ぶ看護英語. 成美堂.

参考書

教室で適宜指示します。

成績評価

単位認定60点以上：試験の点数(80%)と教室での発言とその内容など(20%)。（履修人数が少なければ、平常点のみ。）

授業時間外の学習

大雑把でいいですから、事前に英文を読んで、内容を把握しておいてください。そして、講義の後には、その英語がそのまま頭の中に入ってくるまで何度も読んでください。古くさいかもしれませんが、こういった積み重ねが英語力を高めます。

履修のポイント

英語を通して看護を見ると、看護の別の側面が見えてきます。そのきっかけ作りを覗きたければ、履修して下さい。

オフィス・アワー

基本的には、私の空いた時間ならいつでも来室してください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。

講義コード	10250001
講義名	中国語
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 佐々木 百合	指定なし

授業の概要

中国語を初めて学習する者を対象にした授業です。教科書に沿って中国語の発音の基礎となる声調とピンインの発音練習から行います。また、中国語の基礎的な単語や慣用句、文法を学び、日常会話までを目指します。そして、隣国中国の文化が古くから日本文化に大きな影響を与えてきたことの理解をいっそう深めることです。

教育目標

将来様々な職業に従事し、一般社会において中国人と接した時、中国語で積極的に交流ができること。

到達目標

中国語の正しい発音と簡単なあいさつから日常会話までの読む・聴く・話す・書くを総合的にバランスよく習得する。基礎的な単語を覚え、基礎的な文法を理解することで、簡単な中国語の表現ができることを目標とします。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	発音1	声調・単母音・発音練習
第2回	発音2	子音・複合母音・発音練習
第3回	発音3	ピンインの組み合わせ・発音のまとめ
第4回	第1課 挨拶と自己紹介	人称代名詞・「是」の文
第5回	第1課 挨拶と自己紹介	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題
第6回	第2課 疑問文	指示代名詞1・疑問詞疑問文・「的」の用法・副詞「也」の用法
第7回	第2課 疑問文	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題
第8回	第3課 動詞の文	動詞の文・所有を表す「有」・省略疑問の「呢」
第9回	第3課 動詞の文	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題
第10回	第4課 形容詞の文	量詞・指示代名詞2・形容詞の文・「几」と「多少」
第11回	第4課 形容詞の文	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題

第12回	第5課 数のいろいろ	数字・日付時刻を表す語・動作の時点を言う表現
第13回	第5課 数のいろいろ	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題
第14回	総復習	単語と文法のまとめ
第15回	試験範囲の問題	総合練習

教科書

＜最新 2 訂版＞中国語はじめての一步 尹景春・竹島毅 著 白水社

参考書

特になし。

成績評価

単位認定：60点以上

授業中の問答に 20 %、期末試験を 80 %として、合計 60 %以上を合格とします。

授業時間外の学習

中国語を母国語とする学生の履修は認めません。授業中は中国の様々なことについてたくさん質問して下さい。

講義コード	10270001
講義名	ポルトガル語
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊勢島 セリア 明美	指定なし

授業の概要

基本文法を取り上げた後、練習問題を通して学習を確認します。最後に簡単な会話の発表を行って頂きます。

教育目標

ポルトガル語に親しみを感じて頂き、又、異文化に触れることを目的とします。

到達目標

挨拶を初め、初歩の会話を身につけることを目標とします。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	Qual é o seu nome?	アルファベット、挨拶、基本構文
第2回	Eu sou japonês.	動詞ser、否定文、疑問文、出身地を表す前置詞de
第3回	Meu pai é professor.	所有形容詞とその変化
第4回	Meu irmão é alto.	形容詞とその変化
第5回	O português é mais difícil do que o japonês?	定冠詞、比較の表現
第6回	Quantos anos você tem?	動詞ter、数詞、名詞の数
第7回	Eu gosto de estudar.	動詞gostar、動詞preferir
第8回	Eu quero um computador preto.	不定冠詞、動詞querer、色の名前
第9回	Meu celular está na bolsa.	動詞estar、場所を表す前置詞em
第10回	Meu amigo vai à biblioteca.	動詞ir、方向を表す前置詞a、交通手段を表す前置詞de
第11回	A que horas você acorda?	ar動詞の現在形、時間の表現
第12回	Ela entende português.	er動詞の現在形、同伴を表す前置詞com
第13回	Eu abro o e-mail todos os dias.	ir動詞の現在形、月の名前
第14回	Ele estudou português.	完全過去形、時を表す前置詞em、曜日の名前

第15回	Escreveremos uma carta.	未来形
教科書		
プリントを配布します。		
参考書		
ニューエクスプレス ブラジル ポルトガル語（香川正子著 白水社）		
成績評価		
単位認定60点以上。小テスト（60％）及びミニ会話の発表（40％）で100％評価		
授業時間外の学習		
プリントを基に、復習を行う事が望ましいです。		
履修のポイント		
練習問題及び会話の発表に積極的に取り組むことです。		
オフィス・アワー		
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室で相談に応じます。		

講義コード	10280001
講義名	統計学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要

統計学は、偶然に起きると思われる事象から得られるデータを、数表化、視覚化したり、数学的道具を用いてより科学的に分析したりして、その集団の特徴や傾向を把握し、その結果を人間の活動や社会生活に広く役立てていくことを目的としている。そのために必要となる統計的手法について、記述統計から推測統計まで演習を通して学ぶ。
また、授業ではグループでの学び合いも取り入れたい。予習・復習ではMoodleを活用する予定である。

教育目標

統計学の概念を理解し、科学的に考え、分析するための基礎的な見方を身につける。

到達目標

- ・統計学の概念を理解する
- ・標本を抽出し、度数分布表が作成できる
- ・データを集計し、各種統計量を求められる
- ・正規分布などの確率分布の特性を理解する
- ・母平均などの推定が行える
- ・統計的仮説検定の考え方を理解し、実際に母平均の検定などが行える

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	統計学とは (1)	母集団や標本などの統計学の基本概念と数学知識の確認、電卓の使用方法	電卓を持参すること
第2回	統計学とは (2)	標本抽出、度数分布表の作り方 課題	
第3回	標本分布の特性 値 (1)	中心的傾向の特性値 (平均、中央値、最頻値など) の求め方	
第4回	標本分布の特性 値 (2)	変動の特性値 (不偏分散、標準偏差など) の求め方 課題	
第5回	前半のまとめ	確認テスト①	
第6回	確率分布	確率分布の性質について	

第7回	正規分布	正規分布の性質や標準化、標準正規分布表の見方などについて 課題	
第8回	標本平均の分布	統計的有意性（有意水準、信頼係数など）と標本平均の分布、中心極限定理、推定方法の基本的な考え方	
第9回	母平均の推定（1）	正規分布と母平均の推定 課題	
第10回	母平均の推定（2）	t分布 課題	
第11回	母平均の推定（3）	母平均の推定のまとめ	
第12回	仮説検定（1）	統計的仮説検定の考え方（有意水準、有意確率、棄却域、仮説）	
第13回	仮説検定（2）	母平均に関する仮説検定の方法	
第14回	仮説検定（3）	母平均に関する仮説検定のまとめ 課題	
第15回	まとめ	講義のまとめ、確認テスト②	

教科書

「はじめての統計学」鳥居泰彦（日本経済新聞社）

参考書

「ナースのための統計学」高木廣文（医学書院）「完全独習統計学入門」小島寛之（ダイヤモンド社）「マンガでわかるナースの統計学」（オーム社）など

成績評価

単位認定60点以上。課題への取り組み30%、確認テスト70%。

授業時間外の学習

- ・事前に教科書やMoodleにアップされている資料を確認しておくこと
- ・課題については必ず自分の力で解き、疑問点などは質問すること（その際Moodleを積極的に利用すること）

履修のポイント

数学的な理論には深入りせず、なるべく具体例で統計学の考え方を身に付けられるように配慮していく予定であるが、理解のため演習課題は必ず自分で解くこと。講義には電卓『平方根の機能がついたもの！』を持参すること。

オフィス・アワー

月曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

講義コード	10290001
講義名	情報処理基礎演習（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	4 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

我々の生活や仕事の情報化によって変化している。病院では、患者に関する情報がコンピュータによって処理されている。ICT「情報通信技術」時代の要請にそって、情報処理の教育は必要である。ここで、コンピュータやネットワークの利用を通して、情報処理を学ぶ。演習を通して、コンピュータの基本的な操作法を習得する。更に、インターネットに関する知識や技術も習得する。

教育目標

アプリケーションソフト（Office 2010：Word, Excel, Powerpoint）やインターネットに関する知識や技術を習得するとともに、コンピュータリテラシーを向上すること。

到達目標

- ①コンピュータの基本構成を理解の上で基本操作を習得する。
- ②アプリケーションソフトの基本機能を理解し、基本的なスキルを習得する。
- ③インターネットを利用した情報検索や情報発信を学び、インターネットを使いこなす。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション パソコンの基本操作	パソコンの構成とソフトウェア、WindowsOSの基礎知識、基本操作、E-メールのアカウントの設定
第2回	Wordの活用（1）	Wordの基本操作、基本編集
第3回	Wordの活用（2）	文書作成
第4回	Wordの活用（3）	表の作成
第5回	Wordの活用（4）	図形を描く
第6回	Word応用	WORD応用課題
第7回	インターネットの利用	インターネットの概要、Webブラウザと検索、本大学の図書館資料検索（OPAC）
第8回	PowerPointの活用(1)	プレゼンテーションの概要、スライドの作成

第9回	PowerPointの活用(2)	医療学会の発表会で使えるアニメーションの作成
第10回	Excelの活用 (1)	Excelの基本操作 (アンケート用紙の作成)
第11回	Excelの活用 (2)	数値入力と関数とグラフ
第12回	Excelの活用 (3)	アンケートデータの入力と集計
第13回	Excelの活用 (4)	関係を求める (相関係数)
第14回	Excelの実技	実技テスト (Excel)
第15回	情報発言	医療機関における個人情報保護 最終課題：ポスター作成

教科書

医療系のための情報リテラシー ISBN-978-4489022050
松木秀明 (著), 須藤真由美 (著), 松木勇樹 (著) 東京図書

参考書

Office2010で学ぶコンピューターリテラシー /Windows7対応 ISBN978-4-407-32242-2
小野目 如快 実教出版

成績評価

単位認定 60点以上
課題 (20%)、実技テスト(50%)、最終課題 (30%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①授業時間外での活用が必要である。
- ②なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み
研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）

講義コード	10290002
講義名	情報処理基礎演習（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	4 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

我々の生活や仕事の情報化によって変化している。病院では、患者に関する情報がコンピュータによって処理されている。ICT「情報通信技術」時代の要請にそって、情報処理の教育は必要である。ここで、コンピュータやネットワークの利用を通して、情報処理を学ぶ。演習を通して、コンピュータの基本的な操作法を習得する。更に、インターネットに関する知識や技術も習得する。

教育目標

アプリケーションソフト（Office 2010：Word, Excel, Powerpoint）やインターネットに関する知識や技術を習得するとともに、コンピュータリテラシーを向上すること。

到達目標

- ①コンピュータの基本構成を理解の上で基本操作を習得する。
- ②アプリケーションソフトの基本機能を理解し、基本的なスキルを習得する。
- ③インターネットを利用した情報検索や情報発信を学び、インターネットを使いこなす。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション パソコンの基本操作	パソコンの構成とソフトウェア、WindowsOSの基礎知識、基本操作、E-メールのアカウントの設定
第2回	Wordの活用（1）	Wordの基本操作、基本編集
第3回	Wordの活用（2）	文書作成
第4回	Wordの活用（3）	表の作成
第5回	Wordの活用（4）	図形を描く
第6回	Word応用	WORD応用課題
第7回	インターネットの利用	インターネットの概要、Webブラウザと検索、本大学の図書館資料検索（OPAC）
第8回	PowerPointの活用(1)	プレゼンテーションの概要、スライドの作成

第9回	PowerPointの活用(2)	医療学会の発表会で使えるアニメーションの作成
第10回	Excelの活用 (1)	Excelの基本操作 (アンケート用紙の作成)
第11回	Excelの活用 (2)	数値入力と関数とグラフ
第12回	Excelの活用 (3)	アンケートデータの入力と集計
第13回	Excelの活用 (4)	関係を求める (相関係数)
第14回	Excelの実技	実技テスト (Excel)
第15回	情報発言	医療機関における個人情報保護 最終課題：ポスター作成

教科書

医療系のための情報リテラシー ISBN-978-4489022050
松木秀明 (著), 須藤真由美 (著), 松木勇樹 (著) 東京図書

参考書

Office2010で学ぶコンピューターリテラシー /Windows7対応 ISBN978-4-407-32242-2
小野目 如快 実教出版

成績評価

単位認定 60点以上
課題 (20%)、実技テスト(50%)、最終課題 (30%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①授業時間外での活用が必要である。
- ②なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み
研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）

講義コード	10300001
講義名	情報処理応用演習（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

「情報処理基礎演習」に引き続き、看護研究や学習において欠かせない情報処理能力を向上させるよう、より応用的な形で情報処理方法を学ぶ。PCとインターネットを活用して、看護医療データの収集や整理、Excelによる統計処理方法を含む、データ・情報の解析方法についての演習を行う。

教育目標

看護分野におけるコンピュータと情報の応用的なスキルを身につける。

到達目標

- ①Excelを利用して、医療・看護データを統計処理スキルを身につける。
- ②オープンデータの活用ができる。
- ②音声ファイル、動画ファイルの編集加工ができる。
- ③画像編集ソフトや医用画像ソフトの簡単な操作ができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	Excelの復習	Excelの基本操作の複数
第2回	Excel応用(1)	アンケート調査, クロス集計表, ピボットテーブル
第3回	Excel応用(2)	データの種類 度数分布表によるデータのまとめ方（ヒストグラム）
第4回	Excel応用(3)	平均値と標準偏差によるデータのまとめ方 散布図・相関係数によるデータのまとめ方
第5回	Excel応用(4)	回帰直線によるデータのまとめ方 確率分布とその数表の作り方
第6回	Excel応用(5)	リスク比とオッズ比 区間推定によるデータのまとめ方
第7回	Excel応用(6)	仮説の検定によるデータのまとめ方
第8回	Excel応用(7)	重回帰分析によるデータのまとめ方
第9回	Excel応用(8)	演習課題

第10回	Excel応用(実技)	実技テスト (Excel)
第11回	データの可視化 オープンデータの活用	Gapminderの使い方、Motion Chartの作り方
第12回	マルチメディア情報処理 (1)	音声ファイルの編集・加工 (呼吸音)
第13回	マルチメディア情報処理 (2)	動画ファイルの編集・加工
第14回	コンピュータグラフィックス	画像ファイルの編集・加工
第15回	医療情報	DICOM形式医用画像

教科書

よくわかる統計学 看護医療データ編 第2版 東京図書 ISBN-13: 978-4489021916
石村 貞夫 (著), 石村 友二郎 (著), 久保田 基夫 (著)

参考書

- ①医療系のための情報リテラシー ISBN-978-4489022050 東京図書
- ②参考資料を配布する。

成績評価

単位認定 60点以上
課題 (50%)、実技テスト(50%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。上配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①「情報処理基礎演習」と「統計学」を履修済みであることが望ましい。
- ②なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み
研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）

講義コード	10300002
講義名	情報処理応用演習（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

「情報処理基礎演習」に引き続き、看護研究や学習において欠かせない情報処理能力を向上させるよう、より応用的な形で情報処理方法を学ぶ。PCとインターネットを活用して、看護医療データの収集や整理、Excelによる統計処理方法を含む、データ・情報の解析方法についての演習を行う。

教育目標

看護分野におけるコンピュータと情報の応用的なスキルを身につける。

到達目標

- ①Excelを利用して、医療・看護データを統計処理スキルを身につける。
- ②オープンデータの活用ができる。
- ②音声ファイル、動画ファイルの編集加工ができる。
- ③画像編集ソフトや医用画像ソフトの簡単な操作ができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	Excelの復習	Excelの基本操作の複数
第2回	Excel応用(1)	アンケート調査, クロス集計表, ピボットテーブル
第3回	Excel応用(2)	データの種類 度数分布表によるデータのまとめ方（ヒストグラム）
第4回	Excel応用(3)	平均値と標準偏差によるデータのまとめ方 散布図・相関係数によるデータのまとめ方
第5回	Excel応用(4)	回帰直線によるデータのまとめ方 確率分布とその数表の作り方
第6回	Excel応用(5)	リスク比とオッズ比 区間推定によるデータのまとめ方
第7回	Excel応用(6)	仮説の検定によるデータのまとめ方
第8回	Excel応用(7)	重回帰分析によるデータのまとめ方
第9回	Excel応用(8)	演習課題

第10回	Excel応用(実技)	実技テスト (Excel)
第11回	データの可視化 オープンデータの活用	Gapminderの使い方、Motion Chartの作り方
第12回	マルチメディア情報処理 (1)	音声ファイルの編集・加工 (呼吸音)
第13回	マルチメディア情報処理 (2)	動画ファイルの編集・加工
第14回	コンピュータグラフィックス	画像ファイルの編集・加工
第15回	医療情報	DICOM形式医用画像

教科書

よくわかる統計学 看護医療データ編 第2版 東京図書 ISBN-13: 978-4489021916
石村 貞夫 (著), 石村 友二郎 (著), 久保田 基夫 (著)

参考書

- ①医療系のための情報リテラシー ISBN-978-4489022050 東京図書
- ②参考資料を配布する。

成績評価

単位認定 60点以上
課題 (50%)、実技テスト(50%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。上配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①「情報処理基礎演習」と「統計学」を履修済みであることが望ましい。
- ②なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み
研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）

講義コード	10310001
講義名	文献検索とクリティーク
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

科学論文の検索方法について理解し、実践し、実際の論文を例にとり、論文の背景や目的、研究方法、結果、考察などの記述の仕方を学ぶ。さらに論文に対する批評的な読解法についても学習する。

教育目標

科学論文の検索方法を習得し、研究種類や研究プロセスの基礎を学ぶ。
さらに研究論文に対する批評的な読解法を学び、文献クリティークの基礎能力を養う。

到達目標

- ① 情報・文献検索ができる。
- ② 論文のクリティークを行うことができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、文献とは何か
第2回	情報検索	インターネット情報資源 (サーチエンジンによる情報検索)
第3回	文献検索 (1)	看護の情報源ガイド
第4回	文献検索 (2)	文献の探し方：国内の電子ジャーナル・データベース 医学中央雑誌Web 版、JDreamII、CiNii
第5回	文献検索 (3) (和文編)	文献の探し方：国内の電子ジャーナル・データベース メディカルオンライン
第6回	文献検索 (4) (欧文編)	文献の探し方：外国の電子ジャーナル・データベース PubMed、Cochrane
第7回	文献検索 (5) (欧文編)	文献の探し方：外国の電子ジャーナル・データベース PEN:Practice Based Evidence in Nutrition 実践に基づく栄養学の科学的根拠

第8回	文献検索（実技）	テスト:文献検索の実技
第9回	科学研究論文のクリティーク	研究の種類、研究論文とは、クリティークとは何か
第10回	クリティーク（1）	研究論文のクリティーク1 国内のジャーナルから原著論文(和文)のクリティーク
第11回	クリティーク（2）	研究論文のクリティーク2 外国のジャーナルから原著論文(英文)のクリティーク
第12回	グループワーク（1）	文献レビュー・マトリックスの作成（1） トピックの決定、文献の収集
第13回	グループワーク（2）	文献レビュー・マトリックスの作成（2） 文献の整理
第14回	グループワーク（3）	課題のプレゼンテーション・インタビュー
第15回	グループワーク（4）	課題のプレゼンテーション・インタビュー

教科書

看護研究のための文献検索ガイド 第4版 増補版
（日本看護協会出版会）ISBN-13: 978-4818014985

参考書

1. インターネットで文献検索、JLA図書館実践シリーズ、日本図書館協会
2. 学術情報文献マニュアル、丸善(株)
3. 参考資料を配布する。

成績評価

単位認定 60点以上
課題（20％）、実技テスト（40％）、プレゼンテーション・インタビュー(40％)で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①「統計学」を履修済みであることが望ましい。
- ②授業時間外での活用が必要である。
- ③多くの研究論文を読むことをすすめる。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み
研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）

講義コード	10320001
講義名	医療保健論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 美砂子	指定なし

授業の概要

地域社会は、保健医療の目的である「健康」に大きな影響力を有する。まず、地域社会のいかなる要因が健康に影響を及ぼすかについて、自分が生活する地域の自然環境、生活環境、政治、風土、特産物等の要因について検討し、それに対する現状の保健福祉施策について学習する。その上で今後の地域社会の住民の健康のために必要な保健医療サービスについて考える。

教育目標

日本の国民健康づくり施策から、身近な地域の健康づくり計画とその背景について、学習する。社会環境の質としてのソーシャルキャピタル、社会とのつながりを考えるネットワーク等をキーワードに地域を構成する人々の健康と医療保健サービスについて学ぶ。

到達目標

1. 日本の健康づくりについて理解できる 2. 地域社会での暮らしと健康の関連が理解できる 3. 健康な生活を送りための社会資源とその活用が理解できる 4. 地域力と健康の関係が理解できる 5. これからの日本や身近な地域の保健医療問題を考えることができる

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	医療と保健(1)	・ 授業ガイダンス・日本の保健医療福祉の現状について	
第2回	医療と保健(2)	・ 日本の健康づくり政策の変遷と健康日本21(2次)	
第3回	地域と健康(1)	・ 健康寿命と健康格差とは ・ 日常の生活習慣と生活習慣病について	
第4回	地域と健康(2)	・ 群馬県の特徴と健康づくり施策 ・ みどり市の特徴と健康づくり施策	
第5回	地域と健康(3)	・ 健康づくりワークショップ	
第6回	保健医療と社会資源(1)	・ 地域力としてのソーシャルキャピタルと保健、医療、福祉	
第7回	保健医療と社会資源(2)	・ 保健医療の専門職について・地域ケアシステムとネットワーク（チーム連携）のあり方	
第8回	保健医療の今後展望	・ 本講座のポイント、振り返り・自分の考えを述べる（まとめ）レポート（論述試験）	【授業評価】

教科書
授業時に資料を配布します。
参考書
必要時、紹介します。国民衛生の動向、医療福祉総合ガイドブック(医学書院)、社会福祉士シリーズ17保健医療サービス（弘文堂）
成績評価
単位認定は60点以上。試験60%、ワークショップ30%、ノート10%
授業時間外の学習
自分で調べて、考える学習を取り入れます。体験型学習（ワークショップ）もしますので、準備をしてきてください。
履修のポイント
私たちが生活している地域のことをよく知り、自然環境や習慣、世間体など様々な社会資源と、健康・医療問題を関連付けて考えられる、そんな問題提起をしていきます。
オフィス・アワー
研究室の在室時は対応します。（10号館2階研究室1）

講義コード	10330001
講義名	チーム連携論
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 美砂子	指定なし
教員	林 圭子	指定なし

授業の概要

今日の医療ニーズの多様化に対応したより良質なサービスを提供するためには、医療・保健・福祉などの多様な専門職による役割と機能の有機的な連携や協働が必要不可欠である。本授業では、チーム医療の意義を理解し、チームアプローチの実際についてグループ討議を通して学習する（オムニバス方式全15回）。

教育目標

早期体験合同実習の振り返り、医療・保健・福祉領域の各専門職種の役割、機能、責任についてさらに学習し、より良質なサービス提供を目指すチーム医療実現のための役割と機能について思考する。

到達目標

1. チーム医療の背景、あり方、倫理といった基本的な知識を習得し、説明できる。
2. 各専門職に対する理解を深めるとともに、チーム構成員の役割、機能、責任を説明できる。
3. 情報の伝達やコミュニケーションの重要性について、異なる専攻学生とのグループワークの中で実践できる。
4. 効果的で円滑なチーム医療を展開する方法についてグループ発表やレポート報告ができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	チーム医療とは何か(1)	・ 授業オリエンテーション・チーム連携による患者中心の医療目指して
第2回	チーム医療とは何か(1)	・ 早期体験合同実習を振り返ってのグループワーク
第3回	栄養指導とチーム医療	・ 糖尿病療養指導におけるチーム医療 ・ 褥瘡ケアにおけるチーム医療
第4回	チーム医療とは何か(2)	・ チーム医療の志向性による要素分類とそれらの要素の関係性 ・ チーム医療の論理
第5回	チーム医療における患者医療者関係	・ チームの形態別分類、構成員とその役割 ・ 阻害要因と改善に向けてのアプローチ
		・ チーム医療の倫理性

第6回	チーム医療の倫理	・チーム構成員のあり方とコミュニケーション ・チームとインフォームドコンセント
第7回	在宅医療におけるチーム	・在宅におけるチーム医療の実際（福祉や保健との連携）
第8回	高度医療提供とチーム医療	・高度医療提供施設におけるチーム医療 ・高度医療と管理栄養士・看護師の役割拡大
第9回	パスを用いた連携の取り方	・クリティカルパスを用いたチーム医療（病院と地域連携）
第10回	地域ケアにおけるチーム連携	地域ケアにおけるチーム連携
第11回	地域におけるチーム医療の検討(1)	・事例検討グループワーク(オリエンテーション) ・複数の専門領域によるディスカッション
第12回	地域におけるチーム医療の検討(2)	・事例検討グループワーク(オリエンテーション) ・複数の専門領域によるディスカッション
第13回	地域におけるチーム医療の検討(3)	・事例検討グループワーク(オリエンテーション) ・複数の専門領域によるディスカッション
第14回	地域におけるチーム医療の検討(4)	・事例検討グループワーク 発表・チームで協働することからの気づき
第15回	チーム医療の展望	・患者や地域住民中心のチーム医療、福祉をめざして ・情報の共有と医療過誤の低減・生活の質を保障するとは

教科書

指定の教科書はありません。必要時、資料を配布します。

参考書

必要時、紹介します。

成績評価

単位認定は60点以上とする。授業中の発表状況・グループワークの参加状況(60%)、レポート(40%)

授業時間外の学習

グループワークに向けての事前学習と発表にむけての準備が必要である。

履修のポイント

患者や地域住民を中心とした良質な保健医療サービスを提供するためには、チームによる協働は必要不可欠である。

オフィス・アワー

研究室にいる場合、いつでも対応します。

講義コード	10340001
講義名	早期体験合同実習
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし

授業の概要

学習初期の時期に対象者の立場から、医療・保健施設の現場を知り、施設を利用している人々と関わることを通して、対象者について理解を深める。また、自己の専攻する専門職の役割について考えることで、今後の学習の動機づけとし、主体的に学ぶための方法を理解する。
看護学科・栄養学科合同実習とすることで、自己理解とともに、専攻の異なる学生間で認識を共有し、チーム連携の重要性を知る機会とする。

教育目標

対象者の立場から、医療・保健施設の現場を知り、施設を利用している人々と関わることを通して、対象者について理解を深める。自己の専攻する専門職の役割について考え、今後の学習の動機づけとする。また、実習を通して学生間で認識を共有する。

到達目標

1. 対象者の立場から、医療施設のサービスを観察する。
2. 看護師および管理栄養士の活動を観察し、その役割を知る。
3. 各専門職の役割を知り、その連携について考える。
4. 今後の学習上の課題を明らかにする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	学内実習 ①	オリエンテーション・事前課題	* 詳細は早期体験合同実習要項参照
第2回	学内実習 ②	グループ別演習	* 詳細は早期体験合同実習要項参照
第3回	臨地実習 ①	対象者の立場から医療施設のサービスを観察する	* 詳細は早期体験合同実習要項参照
第4回	臨地実習 ②	看護師・管理栄養士の活動を知る	* 詳細は早期体験合同実習要項参照
第5回	臨地実習 ③	各専門職の活動を知り、連携について考える	* 詳細は早期体験合同実習要項参照
第6回	学内実習 ③	グループ別演習・実習のまとめ	* 詳細は早期体験合同実習要項参照

教科書
プリント等を配布し、別途指示します。
参考書
鷹野和美編著：チーム医療論、医歯薬出版株式会社
成績評価
単位認定60点以上。実習要項評価表参照
授業時間外の学習
前課題を行ない、臨地実習前のグループワークおよび臨地実習に臨む必要があります。さらに、臨地実習では、日々学んだことを記録し、次の日の学習目標を明確化すること、さらにこの授業で学んだことについてレポート作成します。
履修のポイント
事前学習、グループワーク、臨地実習で構成されています。臨地実習前の事前学習やグループワークが重要です。積極的に各々参加してください。
オフィス・アワー
担当教員の教室前に掲示

講義コード	10350001
講義名	人体の構造と機能Ⅰ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 今関 信夫	指定なし

授業の概要

看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正し把握するための非常に多くの知識が必要です。そのためには、正常の体の構造や機能を知ることでも大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているかを知らなければなりません。このような体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造・機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。

教育目標

人体を支える基本システムである、細胞の基本構造と機能、栄養素の消化と吸収課程、呼吸と血液の働きを理解させる。

到達目標

人間の日常的活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が、具体的にどの臓器組織でどの様に行われているかを理解し、その理解に基づいて人間の日常活動を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	人体の構造・機能の概説	解剖学と生理学の歴史、学問の対象、学習方法、細胞・組織の構造と機能
第2回	細胞組織の基礎－1	細胞のATP産生、たんぱく質の合成
第3回	細胞組織の基礎－2	細胞膜の機能、細胞増殖、組織の種類
第4回	細胞組織の基礎－3	人体の方向、位置を示す用語、人体の区分
第5回	細胞組織の基礎－4	体液とホメオスタシス
第6回	栄養の消化と吸収－1	口、咽頭、食道の構造と機能
第7回	栄養の消化と吸収－2	腹部消化管の構造と機能、排便のメカニズム

第8回	栄養の消化と吸収－3	肝臓の構造と機能
第9回	栄養の消化と吸収－4	膵臓、胆嚢の構造と機能、腹膜
第10回	栄養の消化と吸収－5	グルコース代謝、脂質代謝、たんぱく質代謝
第11回	呼吸と血液のはたらき-1	上気道、下気道、縦隔の各構造、外呼吸と呼吸筋
第12回	呼吸と血液のはたらき-2	呼吸気量、ガス交換、酸素と二酸化炭素の運搬
第13回	呼吸と血液のはたらき-3	呼吸運動の調節、病的呼吸、換気障害
第14回	呼吸と血液のはたらき-4	血液の産生と組成、血球の機能、貧血
第15回	呼吸と血液のはたらき-5	血漿たんぱく質のはたらき（血液凝固、血液型）

教科書

人体の構造と機能（１）解剖生理学 坂井建雄・岡田隆夫編集 医学書院

参考書

１）カラー人体解剖学 井上貴央監訳 西村書店
 ２）カラー基本生理学 坂東武彦、小山省三監訳 西村書店
 その他図書館に多数あります。自分の感性にあった参考書を探して下さい。

成績評価

単位認定 60 点以上。
 授業内確認テスト40%、学期末試験60%を総合して評価。

授業時間外の学習

授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。
 予習：教科書を読み、理解できない用語を調べる。
 復習：24時間以内にノートでの復習をしてください。

履修のポイント

自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。
 ・多くの医学・医療用語（漢字の読みと意味、カタカナ）の意味や使い方を理解する。
 ・教員の板書・説明のストーリーをノートに残す。（ノートコーネル式ノート術をすすめる。）

オフィス・アワー

随時可能。 11号館 3階第7研究室にて対応します。

講義コード	10360001
講義名	人体の構造と機能Ⅱ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	2 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 今関 信夫	指定なし

授業の概要

看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正し把握するための非常に多くの知識が必要です。そのなかで、正常の体の構造や機能を知ることでも大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているかを知らなければなりません。この様な体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造・機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。

教育目標

血液の循環とその調節、体液の性状と尿生成、ホルモンの種類、骨格の構造とその機能などを理解させる。

到達目標

人間の日常的活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が、具体的にどの臓器組織でどの様に行われているかを理解し、その理解に基づいて人間の日常活動を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	血液の循環とその調節－1	心臓の位置と構造
第2回	血液の循環とその調節－2	心臓の拍出機能、心電図、血圧、心周期
第3回	血液の循環とその調節－3	末梢循環器系の構造、血圧の調節、微小循環、浮腫
第4回	血液の循環とその調節－4	チアノーゼ、心不全、高血圧、リンパ循環
第5回	体液の調節と尿の生成－1	腎臓の構造、尿生成のメカニズム

第6回	体液の調節と尿の生成－2	傍系球体装置と血圧、腎クリアランスと糸球体の障害
第7回	体液の調節と尿の生成－3	体液の調節、酸塩基平衡、電解質異常
第8回	体液の調節と尿の生成－4	蓄尿と排尿、水の出納、脱水、電解質異常、酸塩基平衡
第9回	内臓機能の調節－1	自律神経系の作りと機能
第10回	内臓機能の調節－2	ホルモンの分類と受容体、下垂体、甲状腺
第11回	内臓機能の調節－3	副甲状腺、膵臓、性腺、その他のホルモン
第12回	内臓機能の調節－4	糖代謝代謝、カルシウム代謝、ストレス、血圧
第13回	体の支持と運動－1	人体の骨格、骨の連結、骨格筋、体幹の骨格と筋
第14回	体の支持と運動－2	上肢の骨格と筋、下肢の骨格と筋
第15回	体の支持と運動－3	頭頸部の骨格と筋、筋の収縮機構

教科書

人体の構造と機能（1）解剖生理学 坂井建雄・岡田隆夫編集 医学書院

参考書

1) カラー人体解剖学 井上貴央監訳 西村書店
2) カラー基本生理学 坂東武彦、小山省三監訳 西村書店
その他図書館に多数あります。自分の感性にあった参考書を探して下さい。

成績評価

単位認定 60 点以上
授業内確認テスト40%、学期末試験60%を総合して評価

授業時間外の学習

授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。
予習：教科書を読み、理解できない用語を調べる。
復習：24時間以内にノートの復習をしてください。

履修のポイント

自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。
・多くの医学・医療用語（漢字の読みと意味、カタカナ）の意味や使い方を理解する。
・教員の板書・説明のストーリーをノートに残す。（ノートコーネル式ノート術をすすめる。）

オフィス・アワー

随時可能。 11号館 3 階第7研究室にて対応します。

講義コード	10370001
講義名	人体の構造と機能Ⅲ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 今関 信夫	指定なし

授業の概要

看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正し把握するための非常に多くの知識が必要です。そのなかで、正常の体の構造や機能を知ることでも大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているかを知らなければなりません。この様な体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造・機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。

教育目標

神経系の構造と機能、感覚器の構造と機能、男女の生殖器と発生・老化の機序を理解させる。

到達目標

人間の日常的活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が、具体的にどの臓器組織でどの様に行われているかを理解し、その理解に基づいて人間の日常活動を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	情報の受容と処理－1	神経系の構造と機能、脊髄の構造と機能
第2回	情報の受容と処理－2	脳の構造と機能1
第3回	情報の受容と処理－3	脳の構造と機能2
第4回	情報の受容と処理－4	髄膜と脳脊髄液
第5回	情報の受容と処理－5	脊髄と脳脊髄神経と脳神経、脳の高次機能、意識障害
第6回	情報の受容と処理－6	運動機能と下行伝導、感覚機能と上行伝導
第7回	感覚器の構造と機能－1	眼の構造と機能、眼の疾患（緑内障、白内障）
第8回	感覚器の構造と機能－2	耳の構造と機能、味覚、嗅覚、痛覚
第9回	外部環境からの防御－2	皮膚の構造と機能

第10回	外部環境からの防御－ 3	生体の防御機構と関連臓器
第11回	生殖、発生と老化の仕組み－ 1	体温とその調節、脱水症、熱中症
第12回	内臓機能の調節－ 4	男性生殖器
第13回	体の支持と運動－ 1	女性生殖器と性周期
第14回	体の支持と運動－ 2	受精と胎児の発生
第15回	体の支持と運動－ 3	胎児の血液循環、成長と老化

教科書

人体の構造と機能（1）解剖生理学 坂井建雄・岡田隆夫編集 医学書院

参考書

1) カラー人体解剖学 井上貴央監訳 西村書店
2) カラー基本生理学 坂東武彦、小山省三監訳 西村書店
その他図書館に多数あります。自分の感性にあった参考書を探して下さい。

成績評価

単位認定 60 点以上
授業内確認テスト40%、学期末試験60%を総合して評価

授業時間外の学習

授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。
予習：教科書を読み、理解できない用語を調べる。
復習：24時間以内にノートの復習をしてください。

履修のポイント

自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。
・多くの医学・医療用語（漢字の読みと意味、カタカナ）の意味や使い方を理解する。
・教員の板書・説明のストーリーをノートに残す。（ノートコーネル式ノート術をすすめる。）

オフィス・アワー

随時可能
11号館 3 階第7研究室にて対応します。

講義コード	10380001
講義名	人体の生化学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	2 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要

生体を構成する成分・分子理解しするために、糖、脂質、タンパク質についてその化学を学びさらに消化吸收・代謝・排泄を学ぶ。また、代謝などを調節する内分泌や遺伝子とその働きも学ぶ。

教育目標

人体の構造と機能、特に各栄養素の働きを生化学的に理解することを目的としている。

到達目標

生体を構成する分子の構造・機能を理解する。また、各分子の代謝を理解する。さらに遺伝子・遺伝情報発現に関することを理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	生化学の概要	化学の基礎と生化学を概説しする。また、国家試験における生化学の概要についても解説する
第2回	糖質の構造と性質	糖の化学、単糖・少糖・多糖の種類、特にグルコースの構造を理解し、糖の化学的性質との関連をみる。
第3回	脂質の構造と性質	脂質の分類と定義、脂肪、複合脂質、ステロイドについて学ぶ。
第4回	脂質の構造と性質（2）	コレステロール・リポタンパク質について学ぶ。
第5回	蛋白質の構造と性質	アミノ酸およびペプチドの構造と性質について学ぶ。
第6回	核酸	塩基、ヌクレオシドとヌクレオチド、DNAとRNAの構造と機能について学ぶ。
第7回	水とミネラル	水の機能と役割、ミネラルの機能について学ぶ。
第8回	ビタミン（1）	脂溶性ビタミンを中心にその種類と生理作用について学ぶ。
第9回	ビタミン（2）	主に水溶性ビタミンの種類と生理作用について学ぶ。
第10回	ホルモンと生理活性物質Ⅰ	ホルモンの定義、ホルモンの種類、作用を学ぶ。

第11回	ホルモンと生理 活性物質Ⅱ	前回に続きホルモンを学び、サイトカインについても学ぶ。また、内分泌疾患の一部を学ぶ。
第12回	糖代謝	グリコーゲンおよびグルコース代謝（解糖・TCAサイクル）などについて学ぶ。
第13回	脂質代謝	脂質の消化吸収、脂肪酸・脂質の生体内の動向および代謝について学ぶ。
第14回	蛋白質代謝	蛋白質の消化吸収・アミノ酸の代謝について学ぶ。
第15回	遺伝情報とその 発現	遺伝子による複製・転写・翻訳および蛋白質合成について学ぶ。

教科書

『系統看護学講座 専門基礎2 人体の構造と機能[2] 生化学』医学書院

成績評価

単位認定60点以上。定期試験100%とする。

授業時間外の学習

事前の学習と授業終了後に、講義ノートを作成すること。両方併せて週4時間以上学習すること

履修のポイント

化学の知識を必要とするので化学（特に有機化学）を復習しておくことが望ましい。

オフィス・アワー

授業開講日の12:30～13:20に11号館3階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

講義コード	10410001
講義名	疾病の成り立ち
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岡安 勲	指定なし

授業の概要

疾病の成り立ち（病理学Pathology）とは病気の本質について研究する医学の一分野であり、病気の過程、つまり病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰といった一連の過程を調べる事により、病気の本態を研究する学問である。したがって、病理学は解剖学、細胞生物学、生理学、生化学などの基礎の上に存在し、他方では臨床医学と密接な関係を持っている。この意味で病理学は医学の一分野と言うより、総合医学とみなすべきであり、臨床医学における診断や治療のみならず看護学の実践も病理学を基礎として行われている。つまり、皆さんが今後、看護学を学び、実践していく上で大変重要であり、基礎となる学問です。双方向の授業を目指して、あらかじめ分担を決めて、学生の皆さんにも説明してもらいます。

教育目標

先天性異常、細胞障害と組織修復、循環障害、炎症、感染症、免疫異常、腫瘍の発生原因・発生のメカニズムと経過を理解し、説明できる。

到達目標

病気の過程、つまり病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰といった一連の病気の過程を病理総論的に理解し、看護の実践に必要な基礎知識として理解する。さらにこれらを自分で説明できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	病理学の概要	病理学の歴史、病理学の概要
第2回	細胞、組織の障害－１	細胞障害、壊死、アポトーシス、萎縮
第3回	細胞、組織の障害－２	再生、化生、肉芽組織、肥大と過形成
第4回	循環障害－１	うっ血、充血、側副循環、血栓
第5回	循環障害－２	塞栓症、梗塞、リンパ循環障害
第6回	炎症－１	炎症の定義、４徴候と組織変化
第7回	炎症－２	急性炎症と慢性炎症、特殊性炎症
第8回	炎症－３	化膿性炎症、蓄膿症、フレグモーネ
第9回	免疫異常－１	免疫不全症、A I D S , 過敏症
第10回	免疫異常－２	自己免疫疾患（S L E , 多発性筋炎、など）

第11回	腫瘍－ 1	腫瘍の定義、腫瘍の疫学
第12回	腫瘍－ 2	上皮性、非上皮性の良性腫瘍と悪性腫瘍
第13回	腫瘍－ 3	腫瘍の原因、腫瘍増殖・再発・転移
第14回	腫瘍－ 4	腫瘍のstage、治療
第15回	まとめと復習	各種疾患の成り立ちを生理、復習する

教科書

大橋 健一・他『《系統看護学講座 専門基礎分野》疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学』(医学書院)

参考書

岡庭豊 編『レビューブック』(メディクメディア)

成績評価

期末試験として、看護師国家試験と同一形式の多岐選択問題などの試験を数回行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。但し、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考慮して評価する。学生発表も考慮。

授業時間外の学習

授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。

履修のポイント

自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。また、興味のある箇所を自分で読み込んでいくと、理解が深まり、楽しくなります。

オフィス・アワー

月・火・金曜日のお昼休み。教員居室ないしは控え室。

講義コード	10420001
講義名	感染と防御
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 今関 信夫	指定なし

授業の概要

微生物としての細菌、真菌、原虫、ウイルスなどについて、その一般的性状と、各種微生物によって引き起こされる代表的な感染症について分りやすく講義する。また、感染防御の基礎となる免疫機構についても概説するとともに、感染予防のための滅菌、消毒、予防接種や、感染症治療のための化学療法剤などについても概要を講義する。

教育目標

病原微生物の種類と特徴、感染症とはどのようなものか、感染症予防などの事項を礎的知識として理解させる。

到達目標

病原微生物の種類と特徴、感染症とはどのようなものかを理解し、実際の看護に役立つ感染症予防方法についての知識を深める。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	微生物と人間	微生物とはなにか、微生物の発見と歩み、細菌の形態と構造
第2回	細菌、真菌の性質	細菌の増殖、遺伝、病原性、真菌の形態と構造
第3回	原虫、ウイルスの性質	原虫の特徴と基本構造、ウイルスの特徴、構造、分類、増殖
第4回	感染症とは	感染症の概念、感染のメカニズム、感染の予防
第5回	感染の予防、診断、治療	消毒と滅菌、病原体の検出、化学療法、薬剤耐性菌、院内感染
第6回	免疫－１	免疫とは、免疫に関与する細胞と組織、細胞性免疫と液性免疫
第7回	免疫－２	抗体の構造と機能、抗体産生、補体
第8回	免疫－３	抗原抗体反応、Ｔ細胞の分化と成熟、抗原認識
第9回	免疫－４	サイトカイン、アレルギー、ＭＨＣと移植
第10回	細菌感染症－１	グラム陽性球菌、グラム陰性桿菌と球菌の各感染症

第11回	細菌感染症－2	グラム陽性桿菌、らせん菌、抗酸菌、嫌気性菌の各感染症
第12回	リケッチア、クラミジア、真菌 原虫感染症	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真 菌原虫感染症
第13回	ウイルス感染症－1	胎児、小児のウイルス感染症、持続感染するウ イルス
第14回	ウイルス感染症－2	肝炎ウイルス感染症、HIV感染症など
第15回	ウイルス感染症－3	腫瘍ウイルス

教科書

微生物学、牛島廣治・西條政幸編集、医学芸術社

参考書

レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行

成績評価

単位認定 60 点以上

授業内確認テスト20%、学期末試験80%を総合して評価

授業時間外の学習

授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。

予習：教科書を読み、理解できない用語を調べる。

復習：24時間以内にノートでの復習をしてください。

履修のポイント

自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。

- ・多くの医学・医療用語（漢字の読みと意味、カタカナ）の意味や使い方を理解する。
- ・教員の板書・説明のストーリーをノートに残す。（ノートコーネル式ノート術をすすめる。）

オフィス・アワー

随時可能。 11号館 3 階第7研究室にて対応します。

講義コード	10430001
講義名	臨床検査
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 立崎 國男	指定なし

授業の概要

病気に悩む人々やその他の人々の健康を増進するには、各種の医療専門職が理念及び知識を共有し対応することが重用である。例えば、医療現場では臨床討論（カンファレンス）が行われ、医療専門職が話し合っ患者個々に最適の医療を行う計画が立てられる。こうした討論をスムーズに行うには医療専門職すべてが共通の言語を使って患者の治療方針、治療効果、などについて話し合わなくてはならない。その共通言語の一つが臨床検査であることを理解していく。

教育目標

臨床検査の基礎知識を学習することを目的とする。

到達目標

授業（後期）では系統看護学講座 別巻 臨床検査 第7版（医学書院）を15回にわたり授業を行い、授業終了時に単位認定筆記試験を実施し、成績評価が合格点に達した場合に単位を与える。合格点に達しない場合は再試験を行い評価を行う。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	「臨床検査の基礎」①	臨床検査の役割・種類・目的について
第2回	「臨床検査の基礎」②	臨床検査の評価・変動・測定誤差
第3回	臨床検査の流れと看護師の役割①	検査の流れ・準備・説明と注意
第4回	臨床検査の流れと看護師の役割②	検体の採取法・保存・移送法・危険とその防止・簡易迅速検査の実施・介助・検査結果の取り扱い
第5回	「各論」一般検査	尿検査・便検査・体内貯留液・髄液・間接液他
第6回	血液検査①	血液検査・出血凝固・溶血性貧血の検査・骨髓検査
第7回	血液検査②	血液一般検査の概要について (各血球成分・白血球分類・凝固因子について)

第8回	臨床化学検査 ①	血清酵素の検査・糖代謝の検査・脂質代謝の検査・胆汁排泄関連物質の検査・窒素化合物の検査
第9回	臨床化学検査 ②	骨代謝関連物質の検査・腎機能の検査・水電解質の検査・血液ガス分析・鉄代謝関連物質・銅代謝関連物質検査・ビタミンの検査・血中薬物濃度の検査
第10回	免疫・血清検査 ①	炎症マーカー・液性免疫・細胞性免疫・自己抗体・アレルギー検査
第11回	免疫・血清検査 ②	免疫学的妊娠反応・腫瘍マーカー・輸血
第12回	内分泌学的検査	下垂体前葉ホルモン・下垂体後葉ホルモン・甲状腺ホルモン
第13回	微生物検査	感染症の診断と検査・各種病原体と検査
第14回	病理検査・生体検査	生理検査・画像検査・細胞診・病理組織検査・剖検診断
第15回	臨床検査総括・試験	総括・試験

教科書

『系統看護学講座 別巻 臨床検査』 第7版（医学書院） 2014,1,15発行 ISBN 978-4-260-01803-6

成績評価

単位認定60点以上

講義コード	10440001
講義名	栄養学
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし
教員	旭 久美子	指定なし

授業の概要

身体の成長発達や生命維持に必要な各種栄養素の代謝、生体エネルギー源としての栄養素と生体機能との関連について学ぶ。さらにこれらの知識に基づき、各対象者に適した栄養アセスメント、栄養ケアの方法について習得する。

教育目標

栄養学の知識を習得し、演習を通して栄養マネジメントについて学ぶ

到達目標

栄養学の知識を習得し、食と健康の関連を理解する。さらに演習を通して対象者に適した栄養マネジメントの実践能力を取得する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	栄養学を学ぶということ	栄養と栄養素、栄養学の歴史、人間栄養学等について学ぶ	榮担当
第2回	看護と栄養	食事における看護師の役割、経口摂取と栄養補給、食欲を低下させる原因他について学習する。	榮担当
第3回	栄養素のはたらき（1）	糖、脂質の栄養について学習する	榮担当
第4回	栄養素のはたらき（2）	たんぱく質の栄養について学習する	榮担当
第5回	栄養素のはたらき（3）	ビタミンについて学習する。	榮担当
			榮

第6回	栄養素のはたらき（4）	ミネラルについて学習する。	担当
第7回	栄養素の消化吸収	消化器・消化の過程および吸収について学ぶ	榮担当
第8回	エネルギー代謝	エネルギーの出納、呼吸商、エネルギー代謝の測定法、エネルギー消費量、安静時代謝量、基礎代謝量、活動時の代謝量について学習する	榮担当
第9回	食物繊維と水	食物繊維の機能、水の機能について学ぶ	榮担当
第10回	栄養状態の判定と評価（1）	栄養アセスメント、栄養状態の評価判定法	榮担当
第11回	栄養状態の判定と評価（1）	臨床検査データに基づく評価判定	榮担当
第12回	日本人の食事摂取基準	日本人の食事摂取基準と各食品の栄養素について学ぶ	旭担当
第13回	ライフステージと栄養（1）	成長期の栄養管理について（食事バランスガイドの活用）	旭担当
第14回	ライフステージと栄養（2）	妊娠期・授乳期の生理的特徴と栄養管理について	旭担当
第15回	ライフステージと栄養（3）	乳児期・幼児期の生理的特徴と栄養管理について	旭担当

教科書

『系統看護学講座 専門基礎3 人体の構造と機能[3] 栄養学』医学書院

成績評価

60点以上で単位認定。

定期試験100% 第3回～15回の各担当の分野について問題を作成する。

授業時間外の学習

事前の学習と授業終了後に、講義ノートを作成すること。両方併せて週4時間以上学習すること

履修のポイント

生化学を復習しておくことが望ましい

オフィス・アワー

授業開講日の12:30～13:20に11号館3階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

講義コード	10450001
講義名	食品学（1年）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要

食品に含まれる個々の成分の特徴を把握しておくことは、食品自体を理解するためだけではなく、栄養学的あるいは生理学的な視点から食生活を考えていくためにもたいへん重要である。本講義では看護学科の学生（養護教諭資格取得を目指している学生）にとって知っておく必要のある基礎的な知識や最新の食に関わるニュースをわかりやすく解説していく。

教育目標

看護師・養護教諭として必要な“食品”や“栄養”に関する基礎知識を理解・習得することを目的とする。

到達目標

“食品とは何か”を理解するために、食品中に含まれている主要成分のそれぞれの科学的な特徴を理解し、食品成分に関する知識を習得する。食品の機能性や食品表示や規格、食品加工・貯蔵技術などについて理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	食品の種類と分類	食品とは、食品の特性、食品の分類など
第2回	食品の成分Ⅰ 水分・炭水化物	水分（食品中の水の状態、水分活性など）・炭水化物（単糖類、二糖類、多糖類、食物繊維など）
第3回	食品の成分Ⅱ 脂質	脂質の働き、分類（脂肪酸、リン脂質、コレステロール）、油脂の化学的特性など
第4回	食品の成分Ⅲ たんぱく質	アミノ酸・たんぱく質の構造・種類・働きなど
第5回	食品の成分Ⅳ ビタミン・ミネラル	ビタミン（ビタミンの分類と働きについて）・ミネラル（ミネラルの種類および生理作用について）
第6回	食品のおいしさにかかわる要因と成分	色、味、香り、テクスチャー（物性）など
第7回	食品の機能性	食品の機能、栄養強調表示と健康強調表示、保健機能食品、特別用途食品、「いわゆる健康食品」の概略
第8回	食品の表示と規格	国内規格、国際規格、品質規格制度の歴史、期限表示、成分表示など

教科書
『身近な食品学 第2版』豊沢 功・能岡 浄・阿倍史子共著（化学同人）
参考書
单元ごとにプリント教材を配布する。
成績評価
単位認定60点以上 学期末試験 100%
授業時間外の学習
单元ごとに復習問題を配付するので、必ず解いて理解を深めること。
履修のポイント
教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。
オフィス・アワー
授業内容等の質問については、授業終了後、または11号館3F研究室13で随時受け付ける。

講義コード	10450002
講義名	食品学（2年）
（副題）	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要

食品に含まれる個々の成分の特徴を把握しておくことは、食品自体を理解するためだけではなく、栄養学的あるいは生理学的な視点から食生活を考えていくためにもたいへん重要である。本講義では看護学科の学生（養護教諭資格取得を目指している学生）にとって知っておく必要のある基礎的な知識や最新の食に関わるニュースをわかりやすく解説していく。

教育目標

看護師・養護教諭として必要な“食品”や“栄養”に関する基礎知識を理解・習得することを目的とする。

到達目標

“食品とは何か”を理解するために、食品中に含まれている主要成分のそれぞれの科学的な特徴を理解し、食品成分に関する知識を習得する。食品の機能性や食品表示や規格、食品加工・貯蔵技術などについて理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	食品の種類と分類	食品とは、食品の特性、食品の分類など
第2回	食品の成分Ⅰ 水分・炭水化物	水分（食品中の水の状態、水分活性など）・炭水化物（単糖類、二糖類、多糖類、食物繊維など）
第3回	食品の成分Ⅱ 脂質	脂質の働き、分類（脂肪酸、リン脂質、コレステロール）、油脂の化学的特性など
第4回	食品の成分Ⅲ たんぱく質	アミノ酸・たんぱく質の構造・種類・働きなど
第5回	食品の成分Ⅳ ビタミン・ミネラル	ビタミン（ビタミンの分類と働きについて）・ミネラル（ミネラルの種類および生理作用について）
第6回	食品のおいしさにかかわる要因と成分	色、味、香り、テクスチャー（物性）など
第7回	食品の機能性	食品の機能、栄養強調表示と健康強調表示、保健機能食品、特別用途食品、「いわゆる健康食品」の概略
第8回	食品の表示と規格	国内規格、国際規格、品質規格制度の歴史、期限表示、成分表示など

教科書
『身近な食品学 第2版』 豊沢 功・能岡 浄・阿倍史子共著（化学同人）
参考書
单元ごとにプリント教材を配布する。
成績評価
単位認定60点以上 学期末試験 100%
授業時間外の学習
单元毎に復習問題を配付するので、解いて理解を深めること。
履修のポイント
教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。
オフィス・アワー
授業内容等についての質問については、授業終了後、または11号館3F研究室13で随時受け付ける。

講義コード	10460001
講義名	臨床薬理学
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要

疾患の治療において薬は重要な位置を占めている。薬は疾患の原因を取り除くために使用されることが多いので、疾患の原因を理解しながら、投薬される医薬品の薬理作用について学習する。講義では代表的な疾患に対する治療薬について、作用と副作用（有害反応）および禁忌事項を習得する。

教育目標

薬物治療を行うために、必要な臨床薬理学の基礎知識を習得し、臨地実習や将来臨床の現場で役立つようにする。

到達目標

疾患に対する代表的な薬物の薬品名、その薬理作用および副作用（有害反応）等を理解できるようにする。また病院で処方された医薬品やドラッグストア等で売られている医薬品がどのような症状に効くのかを説明できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	医薬品の総論	医薬品の総論（定義、エラーの予防）
第2回	薬の作用・自律神経	医薬品の作用機序、自律神経
第3回	抗炎症薬	アレルギーと炎症時に使用する医薬品
第4回	血液・輸液	貧血、輸血と輸液に使う医薬品
第5回	循環器疾患で使用する医薬品	降圧剤、狭心症・心筋梗塞心不全に使用する医薬品、利尿薬など
第6回	呼吸器疾患で使用する医薬品	気管支喘息など
第7回	消化器疾患で使用する医薬品 1	消化性潰瘍治療薬、健胃薬、制吐薬、瀉下薬
第8回	消化器疾患で使用する医薬品 2	止瀉薬、肝疾患、その他の消化器疾患に対する医薬品
第9回	内分泌・代謝疾患で使用する医薬品 1	糖尿病、痛風
第10回	内分泌・代謝疾患で使用する医薬品 2	脂質異常症、ホルモン薬

第11回	中枢神経系の異常に対して使用する医薬品 1	パーキンソン病に対する医薬品、抗不安薬、睡眠薬
第12回	中枢神経系の異常に対して使用する医薬品 2	向精神病薬、抗うつ薬、抗てんかん薬、麻酔
第13回	抗菌薬	抗生物質、抗ウイルス薬など
第14回	抗がん薬	様々な抗がん薬
第15回	特殊な薬	散瞳薬・縮瞳薬、緑内障治療薬、解毒薬、消毒薬

教科書

イラストで学ぶ薬理学（医学書院）

成績評価

単位認定60点以上。期末試験（100％）で評価します。

授業時間外の学習

予習は教科書の主題の項目のところを必ず目を通すこと。講義ノートを自身で作りながら、復習しましょう。また医薬品の作用を理解するためには「疾病の回復促進」の講義で出てくる疾患に対する治療法でもあるので、あわせて復習して下さい。

履修のポイント

教科書を使って、生理学と医薬品の薬理作用を中心に講義していきます。だいたい教科書15ページくらいの速さで講義します。

オフィス・アワー

月曜日から木曜日までの9:00-18:00 11号館3階第10研究室にて対応します。

講義コード	10470001
講義名	臨床心理学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	3 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀岡 聖朗	指定なし

授業の概要

臨床心理学は、心理学で蓄積された理論や技法を用いた応用的・実践的な学問領域である。人のこころの安定をはかるための臨床心理援助活動の実際について理解を深めることが求められるが、その基本はこころの疾患の特徴を理解し、その理解のもとに対象者を看る視点を養うことにある。本講義では、こころの疾患に関すること、発達上の障がいに関すること、心理アセスメントの実際、カウンセリングの理論、という4つのテーマに沿って、臨床心理学に関連する内容を取り上げる。授業は講義形式だが、テーマによってVTR視聴や実習を取り入れることもある。

教育目標

心理臨床の現場で用いられる考え方や技法は、看護の場面でも応用可能なものがある。一方で、通常の心理臨床で用いられる対象者に対するアプローチが、看護場面では適用しにくいこともある。心理臨床の基本的な考え方や技法の学習を通して、それらが看護場面でどのように生かすことができるのかについての視点を獲得する。

到達目標

1. 心理的な疾患の種類、特徴について理解する。
2. 臨床心理学で用いられる専門用語について理解する。
3. こころの疾患、疾患を抱える患者・家族の状態を理解する視点を養う。
4. 対人場面におけるコミュニケーションの特徴について理解する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	ガイダンス 臨床心理学 で扱う 問題	授業の進め方、成績評価のしかたなどについて 臨床心理学・心理臨床学・カウンセリング・心理 療法など類似する概念の整理、臨床心理学の起 り、日本の臨床心理学	
第2回	こころの疾 患の理解①	こころの疾患を概観する① ～こころの疾患の基本的な見方・考え方、病因論 と症候論	1 年次「心理 学」 “臨床の心理 学”参照
第3回	こころの疾 患の理解②	こころの疾患を概観する② ～精神病圏に属するもの（統合失調症と気分障 がいの特徴と対処）	1 年次「心理 学」 “臨床の心理

			学”参照
第4回	こころの疾患の理解③	こころの疾患を概観する③ ～神経症圏に属するもの（不安障がい、その特徴と対処）	1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照
第5回	こころの疾患の理解④	こころの疾患を概観する④ ～境界例圏に属するもの（パーソナリティ障がい、その特徴と対処）	1年次「心理学」 “個人差の心理学”参照 ※小テスト①実施予定
第6回	発達上の障がいの理解①	発達障がいの基本的な理解① ～自閉症スペクトラム障がいを中心にして	
第7回	発達上の障がいの理解②	発達障がいの基本的な理解② ～注意欠如・多動性障がい（ADHD）、学習障がい	
第8回	発達上の障がいの理解③	その他の発達上の障がいの基本的な理解 摂食障がいの特徴と対処、依存症（アルコール、薬物等）や虐待の特徴と対処	※小テスト②実施予定
第9回	心理アセスメントの実際①	病院で心理アセスメントが生じる場合、精神的な疾患による「入院」の取り扱い	
第10回	心理アセスメントの実際②	心理検査の種類、心理検査の実践	1年次「心理学」 “個人差の心理学”参照 ※実習を含む予定
第11回	心理アセスメントの実際③	心理検査を解釈する際の背景理論（発達、パーソナリティ）	1年次「心理学」“発達の心理学”“個人差の心理学” 1年次「人間発達学」参照 ※小テスト③実施予定
第12回	カウンセリングの理論①	カウンセリングの起こりと心理療法の起こり（カウンセリングと心理療法の相違）、看護場面でのカウンセリングの実際（その過程と心構え）	1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照 ※実習を含む予定
第13回	カウンセリングの理論②	催眠と精神分析療法	1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照
第14回	カウンセリングの理論③	来談者中心療法	1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照
	カウンセリ		1年次「心理学」

第15回	ングの理論 ④ まとめ	認知行動療法	“臨床の心理学”参照 ※小テスト④実施予定
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績評価			
単位認定60点以上。筆記試験70%、小テスト（レポート・課題を含める）30%			
授業時間外の学習			
各回の主題に該当する1年次科目の「心理学」や「人間発達学」の講義資料の見直しを予習として勧める。本講義の配布資料・ノートまとめと小テストの見直しを復習として勧める。			
履修のポイント			
授業への積極的な取り組みを期待します。			
オフィス・アワー			
毎週水曜もしくは木曜の昼休み（12：30～13：20）、11号館第8研究室。 あるいは、講義終了前後などに、適宜受け付けます。			

講義コード	10480001
講義名	ヘルスカウンセリング
(副題)	【教職必修】 【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	2 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 齊藤 敦子	指定なし

授業の概要

健康に関する悩みや問題を抱えている人の心理を理解し、カウンセリングの基本的な理論と技法を学習する。援助を必要としている患者に対し、健康の維持及び改善のための援助について理解を深める。

教育目標

1. 健康の概念について学習し、健康上の問題に直面している患者の心理状態について理解する。
2. 患者の心理状態を正確に理解するために、カウンセリングの理論に基づいて援助の方法を学ぶ。
3. 疾患を抱える患者が直面している身体的・心理的な症状に対し、適切な援助について考察する。

到達目標

1. 人間の成長発達段階を理解した上で、個人的な背景に基づいた健康の定義を考えることができる。
2. 病気に直面している患者の身体的・心理的な問題を改善するために、カウンセリング理論や技法を活用できる
3. 患者に対して適切な援助を選択し、健康の維持・増進、疾病予防のための援助について理解する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	成長発達段階と健康観	心理社会的な成長発達段階を理解し、個別的な健康のあり方について考える	
第2回	ヘルスカウンセリングとは	ヘルスカウンセリングの定義を学習し、カウンセリングの役割について理解する	
第3回	疾患を抱えた患者の心理とそれに伴う問題点	疾患をもつ患者が日常生活の中で経験する不適応状態について学習し、身体的・心理的・社会的に引き起こされる問題について理解する	グループワーク
第4回	心理的な危機状態とその行動	危機状態に直面した際の心理的变化とそれに伴う行動について学習する	

第5回	カウンセラーに求められる資質	カウンセリングを行う際に、カウンセラーに求められる自己成長及び自己管理、そして倫理道徳的な原則について学習する	小テスト (1)
第6回	カウンセリングにおける話し方	自分自身の話し方について客観的に評価し、改善点などを考察する	演習： レポート (1)
第7回	カウンセリング理論 (1)	クライアント中心療法について	
第8回	カウンセリングの基本的技法	傾聴・強調技法・質問技法など	演習
第9回	カウンセリング理論 (2)	認知行動療法について	
第10回	カウンセリング過程	カウンセリングを始める際の留意点とカウンセリングプロセスについて	小テスト (2)
第11回	疾患を抱える患者の心理	疾患を抱える患者が経験する心理状態について考える	グループワーク
第12回	心と身体の関係性について	心の働きが身体に与える影響と、身体の働きが心に与える影響について理解し、その仕組みについて学習する	グループワーク
第13回	疾患における診断基準と身体的症状について (1)	循環器疾患（高血圧症・心疾患など）の診断基準を学習し、疾患に伴う身体症状や心理状態について理解し、その援助について考える	
第14回	疾患における診断基準と身体的症状について (2)	内分泌疾患（糖尿病・甲状腺疾患など）の診断基準を学習し、疾患に伴う身体症状や心理状態について理解し、その援助について考える	
第15回	疾患における診断基準と身体的症状について (まとめ)	疾患にかかわらず患者が体験する心理状態について考え、援助の方法について共有し理解を深める	グループワーク レポート (2)

教科書

講義資料はクラス内で配付します。

参考書

クラス内で紹介することもあります。

成績評価

小テスト (1) ・ (2) : 各 25 点 レポート (1) : 20 点 レポート (2) : 30 点の合計点を100点として60点以上で単位取得とします。

授業時間外の学習

レポートのために図書館を利用し、文献検索が必要な内容もあります。

履修のポイント

演習の教科なので欠席をしないようにしてください。

オフィス・アワー

講義や会議、出張等なければ随時オフィス・アワーを設けたいと思いますが、講義が終了した時点で申し出てくださいれば予定を入れることも可能です。

講義コード	10490001
講義名	疾病の回復促進Ⅰ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 今関 信夫	指定なし
教員	岡田 克之	指定なし

授業の概要

疾病の回復促進は、全ての疾患の原因から症状検査、治療までを扱う学問分野で、医療・看護の根幹をなすものである。疾病の成り立ちでは病気を数種類に大別して学ぶのに対し、疾病の回復促進では各器官のそれぞれの疾患についてその原因、症状、経過、検査、治療を学ぶもので、看護の理解を深める上でも不可欠な学問である。

教育目標

代表的な頻度の高い疾患の原因、症状などを理解し、看護に展開できる様な理解をさせる。

到達目標

各種疾患の原因から、必要な検査法、代表的な症状そして治療方法などについて理解することが出来て、それぞれの疾患ごとに看護の視点を取り入れる事ができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	疾患の診断と治療	疾患の診断と治療について概説
第2回	皮膚・体温調節のしくみとその異常	体温調節機序、発熱のしくみ、熱中症、低体温症
第3回	免疫による防御のしくみとその異常-1	免疫能の低下する異常（先天性、後天性、続発性）
第4回	免疫による防御のしくみとその異常-2	アレルギー性疾患、自己免疫性疾患
第5回	体液調節のしくみとその異常-1	脱水症、高・低ナトリウム血症、高・低カリウム血症、高・低カルシウム血症
第6回	体液調節のしくみとその異常-2	アシドーシスとアルカローシス
第7回	皮膚疾患－1	アレルギー性皮膚炎、炎症性皮膚炎、水胞症など
第8回	皮膚疾患－2	皮膚腫瘍（皮膚線維腫、メラノーマ、扁平上皮癌、皮膚T細胞リンパ腫など）

教科書
系統看護学講座、病態生理学、疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ。医学書院
参考書
レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行
成績評価
単位認定 60 点以上 授業内確認テスト40%、学期末試験60%を総合して評価
授業時間外の学習
授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回状業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。 予習：教科書を読み、理解できない用語を調べる。 復習：24時間以内にノートの復習をしてください。
履修のポイント
自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。 ・多くの医学・医療用語（漢字の読みと意味、カタカナ）の意味や使い方を理解する。 ・教員の板書・説明のストーリーをノートに残す。（ノートコーネル式ノート術をすすめる。）
オフィス・アワー
随時可能。 11号館 3 階第7研究室にて対応します。

講義コード	10500001
講義名	疾病の回復促進Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 今関 信夫	指定なし

授業の概要

疾病の回復促進は、全ての疾患の原因から症状検査、治療までを扱う学問分野で、医療・看護の根幹をなすものである。疾病の成り立ちでは病気を数種類に大別して学ぶのに対し、疾病の回復促進では各器官のそれぞれの疾患についてその原因、症状、経過、検査、治療を学ぶもので、看護の理解を深める上でも不可欠な学問である。

教育目標

代表的な頻度の高い疾患の原因、症状などを理解し、看護に展開できる様な理解をさせる。

到達目標

各種疾患の原因から、必要な検査法、代表的な症状そして治療方法などについて理解することが出来て、それぞれの疾患ごとに看護の視点を取り入れる事ができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	血液のはたらきとその異常-1	貧血、白血病・悪性リンパ腫、GVHD
第2回	血液のはたらきとその異常-2	多発性骨髄腫、血小板減少性紫斑病、DIC
第3回	循環のしくみとその異常-1	狭心症、心筋梗塞、不整脈、先天性心疾患
第4回	循環のしくみとその異常-2	心弁膜症、心不全、高血圧症
第5回	循環のしくみとその異常-3	動脈硬化症（大動脈解離、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症）、肺塞栓症
第6回	呼吸のしくみとその異常	肺炎、肺結核、気管支喘息、COPD（肺気腫、慢性気管支炎）、気胸、肺腫瘍
第7回	消化・吸収のしくみとその異常-1	嚥下障害、逆流性食道炎、食道静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍、クローン病、潰瘍性大腸炎
第8回	消化・吸収のしくみとその異常-2	腸閉塞、過敏性腸症候群、イレウス、肝炎、肝硬変

第9回	消化・吸収のしくみとその異常-3	胆石症、膵炎、消化器の腫瘍
第10回	腎・泌尿器のはたらきとその異常	糸球体の疾患（原発性と続発性）、急性腎不全と慢性腎臓病（慢性腎不全）、排尿障害
第11回	内分泌・代謝のしくみとその異常-1	クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、アジソン病、尿崩症、副甲状腺機能亢進症
第12回	内分泌・代謝のしくみとその異常-2	高血圧、糖尿病、脂質異常症、痛風、肥満、メタボリック症候群
第13回	生殖のしくみとその異常	性感染症、子宮内膜症、子宮筋腫、子宮がん、卵巣がん、乳がん
第14回	感覚器のはたらきとその異常	白内障、緑内障、中耳炎、メニエール病、難聴
第15回	運動器疾患	骨粗鬆症（骨折）、変形性膝関節症、関節リウマチ、椎間板ヘルニア、脊髄損傷、側弯症

教科書

系統看護学講座、病態生理学、疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ。医学書院

参考書

レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行

成績評価

単位認定 60 点以上

授業内確認テスト40%、学期末試験60%を総合して評価

授業時間外の学習

授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。

予習：教科書を読み、理解できない用語を調べる。

復習：24時間以内にノートでの復習をしてください。

履修のポイント

自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。

- ・多くの医学・医療用語（漢字の読みと意味、カタカナ）の意味や使い方を理解する。
- ・教員の板書・説明のストーリーをノートに残す。（ノートコーネル式ノート術をすすめる。）

オフィス・アワー

随時可能。 11号館 3 階第7研究室にて対応します。

講義コード	10550001
講義名	社会福祉学概論
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 河村 俊一	指定なし

授業の概要

わが国における社会福祉、社会保障の成り立ちについて学ぶとともに、保健、医療、福祉が密接な関係をもって私たちの暮らしを支えていることについて学習を行う。また、現在における人口の変化や世帯構造の変化が及ぼす社会福祉、社会保障のあり方について具体的事例などを踏まえて、様々な専門職との連携の重要性や地域における生活者としての視点の大切さを講義や演習により学習を進める。

教育目標

社会福祉、社会保障の基本的理解を行い、生活を支えるための福祉サービス等のあり方と視点について学ぶことを目的とする。

到達目標

1. 社会福祉、社会保障の成り立ちについて理解する。
2. 社会構造の変化による社会福祉のあり方について理解する。
3. 具体的な事例を通じて、医療、福祉の連携や生活支援のあり方について理解する。
4. 社会における福祉的課題について関心をもち、地域支援への視点を養う。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	身近な福祉政策	私たちの暮らしと密接な関係にある福祉政策	1章
第2回	社会福祉の歴史	わが国の社会福祉の成り立ちと現在	9章
第3回	社会保障の現状と課題	医療、所得、介護等の保障制度の理解	3章
第4回	現代社会の変化と福祉動向	人口、世帯構造の変化と今後の福祉施策	2章
第5回	生活に関わる社会福祉①	事例による具体的な福祉サービス等利用とその実際	5,6章
第6回	生活に関わる社会福祉②	事例による具体的な福祉サービス等利用とその実際	5,6章
第7回	社会福祉と医療との関係性	医療機関、福祉サービスとの連携、社会福祉援助のあり方	8章
第8回	今後の福祉課題と取り組み	福祉施策の抱える課題と今後の展開	

教科書
福田素生著者代表「社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3」医学書院
参考書
適宜紹介をする。
成績評価
単位認定：60点以上 筆記試験90% レポート・課題等10% ※授業態度も加味する
授業時間外の学習
各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となる。配布資料・ノートの整理を復習として勧める。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。
オフィス・アワー
講義終了前後などに、適宜受け付けます。

講義コード	10560001
講義名	社会保障論（2年生）
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要

看護学科教育課程において「健康支援と社会保障制度」の中でも「社会保障の理念と基本的な制度の考え方」を理解するのがこのコースである。ここでは、疾病・老齢・要介護・失業などの危機に対応する医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険などの公的保険制度と理念、さらには生活保護、障害者福祉、児童福祉、老人福祉などの社会福祉諸法の制度と理念が、福祉・医療制度の中で、また私たちの生活の中でどのような機能を果たしているかを考えていく。このコースでは、医療保健職として不可欠な知識を得るだけでなく、生活者として知っておくべきことからについても学習していく。

教育目標

医療保健職として必要な社会保障の理念と社会保障の基本的制度の考え方等を学修・理解させる。

到達目標

現在の社会保障制度の枠組み、現実の社会保障に関するしくみを理解する。社会保障制度に対する、医療保健職としての役割・責務・倫理等を理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	社会保障制度と社会福祉 社会保障・社会福祉の動向	社会保障の概念・目的について理解した後、社会保障の概要・法制度について学習する。さらに、現代の社会保障を取り巻く環境の変化と、それに対する社会福祉政策の近年の動向と社会福祉の現状について学習する。
第2回	医療保険(1)	わが国の医療制度の沿革・特徴について学習し、また医療保険の種類を正しく理解する。
第3回	医療保険(2)	それぞれの医療保険の特徴・内容を知り、また高齢者医療制度について学習する。
第4回	介護保険(1)	介護保険制度が創設された背景と現在までの沿革を学習する。また、介護保険制度の概要やしくみについて、学習する。

第5回	介護保 障(2)	具体的な介護保険のしくみについて学習する。また、近年の介護保険改 革とその内容について、学習する。
第6回	所得保 障	所得保障制度の概要について学習する。具体的な所得保障制度の中 心である年金保険制度について沿革・具体的内容及び課題を学習した 後、各種社会手当、労働保険制度のしくみ・内容について概観する。
第7回	公的扶 助	社会保障制度における公的扶助の位置づけを理解し、生活保護制度を中 心にその概要と具体的内容を学習する。公的扶助の現代の課題と生活保 護以外の低所得層対策について学習する。
第8回	社会福 祉の分 野と サービ ス	対象者別の社会福祉サービスについて学習する。高齢者・障害者・児童 家庭に対する福祉の概要と具体的内容について理解し、またそれらの福 祉分野において、近年特に問題となっている課題について学習する。

教科書

福田素生・他著『<<系統看護学講座 専門基礎分野>> 健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉』（医学書院）

参考書

厚生労働省編『厚生労働白書 平成27年度版』（ぎょうせい）

成績評価

平常点(授業時間内の課題・チェックテスト等)20%、定期テスト80%を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。

授業時間外の学習

次回の授業について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、チェックテストの解答をよく読み、間違った問題に関する該当部分を教科書・ハンドアウト等で復習しておく。

履修のポイント

社会保障・社会福祉関連の資料を多数配布するので、整理しておくこと。

オフィス・アワー

月・火・木曜日，11時～15時（授業時間以外）， 9号館3階第9研究室

講義コード	10560002
講義名	社会保障論（4年生）
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要

看護学科教育課程において「健康支援と社会保障制度」の中でも「社会保障の理念と基本的な制度の考え方」を理解するのがこのコースである。ここでは、疾病・老齢・要介護・失業などの危機に対応する医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険などの公的保険制度と理念、さらには生活保護、障害者福祉、児童福祉、老人福祉などの社会福祉諸法の制度と理念が、福祉・医療制度の中で、また私たちの生活の中でどのような機能を果たしているかを考えていく。このコースでは、医療保健職として不可欠な知識を得るだけでなく、生活者として知っておくべきことからについても学習していく。

教育目標

医療保健職として必要な社会保障の理念と社会保障の基本的制度の考え方等を学修・理解させる。

到達目標

現在の社会保障制度の枠組み、現実の社会保障に関するしくみを理解する。社会保障制度に対する、医療保健職としての役割・責務・倫理等を理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	社会保障制度と社会福祉 社会保障・社会福祉の動向	社会保障の概念・目的について理解した後、社会保障の概要・法制度について学習する。さらに、現代の社会保障を取り巻く環境の変化と、それに対する社会福祉政策の近年の動向と社会福祉の現状について学習する。
第2回	医療保険(1)	わが国の医療制度の沿革・特徴について学習し、また医療保険の種類を正しく理解する。
第3回	医療保険(2)	それぞれの医療保険の特徴・内容を知り、また高齢者医療制度について学習する。
第4回	介護保険(1)	介護保険制度が創設された背景と現在までの沿革を学習する。また、介護保険制度の概要やしくみについて、学習する。

第5回	介護保 障(2)	具体的な介護保険のしくみについて学習する。また、近年の介護保険改 革とその内容について、学習する。
第6回	所得保 障	所得保障制度の概要について学習する。具体的な所得保障制度の中 心である年金保険制度について沿革・具体的内容及び課題を学習した 後、各種社会手当、労働保険制度のしくみ・内容について概観する。
第7回	公的扶 助	社会保障制度における公的扶助の位置づけを理解し、生活保護制度を中 心にその概要と具体的内容を学習する。公的扶助の現代の課題と生活保 護以外の低所得層対策について学習する。
第8回	社会福 祉の分 野と サービ ス	対象者別の社会福祉サービスについて学習する。高齢者・障害者・児童 家庭に対する福祉の概要と具体的内容について理解し、またそれらの福 祉分野において、近年特に問題となっている課題について学習する。

教科書

福田素生・他著『<<系統看護学講座 専門基礎分野>> 健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉』（医学書院）

参考書

厚生労働省編『厚生労働白書 平成27年度版』（ぎょうせい）

成績評価

平常点(授業時間内の課題・チェックテスト等)20%、定期テスト80%を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。

授業時間外の学習

次回の授業について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、チェックテストの解答をよく読み、間違った問題に関する該当部分を教科書・ハンドアウト等で復習しておく。

履修のポイント

社会保障・社会福祉関連の資料を多数配布するので、整理しておくこと。

オフィス・アワー

月・火・木曜日，11時～15時（授業時間以外）， 9号館3階第9研究室

講義コード	10570001	
講義名	医療関係法規	
(副題)		
開講責任部署	看護学科	
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日		
代表時限		
区分	専門基礎科目	
必修/選択	必修	
学年	4学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要

本講座は、「健康支援と社会保障制度」の一分野として位置づけられる「関係法規」に関する講座である。医療に関する法規としては、すでにさまざまなものが存在しているが、毎年さらに多くの法規が誕生し、また改廃されている。医療従事者にとっては、それらの法規に従い、医療を提供する義務を有するものであるから、関係法規への知識は、医療従事者にとって、不可欠な要素である。

本講座では、医療、保健衛生、社会福祉などに関連する具体的な法規について学習するだけでなく、患者の人権や医療過誤等に関する現代的問題についても、学習していく予定である。

教育目標

医療を提供する基本理念、医療提供体制の基礎について、実体的に理解できるように、体系的に教育する。

到達目標

医療従事者として知っておくべき基本的ルールや、保健医療の各分野の制度について、基本原則を理解した上で、それと関連づけて具体的なルールを理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	法規の概念、厚生行政のしくみ	授業の進め方、看護師国家試験におけるこの教科目の位置づけについて説明した後、法規とその種類について、法学の基礎的知識を学習する。そして、衛生法規とは具体的に何を指すのか、それに基づく厚生行政はどのように実施されているかを学習する。
第2回	医事法規(1)	医療を行う人に関する法規のうち、看護業務に関わりの深い医療従事者に関する法規について、その目的と主な規定内容について、学習する。具体的には、保健師助産師看護師法、医師法、看護師人材確保法等を学習する。
第3回	医事法規(2)	主に医療を行う場・環境に関して規定している医療法について、その目的、具体的内容を学習する。特に、医療の目的、医療者の責務、医療機関、医療計画等、重要なことから中心に学習する。また、医療に関して規定しているその他の法規(臓器移植法、他)についても学習する。
		薬務法規と薬剤等を扱う人に関する法を学習する。医薬品等に関する一般

第4回	薬事法規	法である薬事法について学習し、さらに薬剤を主に扱う医療専門職に関する薬剤師法を学習する。また、さらに取り扱いに注意すべき薬剤・毒物等に関する法令を取り上げ、医療従事者の役割と規制内容について学習する。
第5回	保健衛生法規(1)	保健に関する全般的な行政施策・担当組織等を規定している地域保健法と健康増進法について、その目的・主な内容等を学習した後、個別分野の保健方針・行政施策等を規定している各種保健法のうち、精神保健福祉法について学習する。
第6回	保健衛生法規(2)	保健に関して個別分野ごとに保健方針・行政施策等を規定している各種保健法のうち、母子保健法・母体保護法、学校保健安全法について、その目的、主な行政施策の内容等を学習する。さらに具体的な保健対策法のうち、近年の大きな課税となっているがん対策基本法、自殺対策基本法等について、学習する。
第7回	保健衛生法規(3)	保健衛生に関する法の中でも、感染症に関する法について学習する。具体的には、感染症予防法・予防接種法・検疫法について、その目的・沿革・とりうる行政施策等について学習する。また、食品に関する法のうち、代表的な食品安全基本法と食品衛生法について、概観する。
第8回	環境衛生法規、環境保全法規	日常生活を取り巻く環境に関する法令について、特に水とゴミに関する法令を中心に学習する。さらに環境保全に関する法令について、環境基本法をはじめ、個別の公害防止法、さらには環境に関する主な条約についても学習する。
第9回	労働関係法規	労働者に関する法規である労働法のうち、働く人たちの健康を守る立場である医療従事者として知っておく必要のある法令の内容について学習する。労働基準法、労働安全衛生法に加えて、特に働く女性の保護を規定している男女雇用機会均等法、育児休業・介護休業法について学習する。
第10回	社会保険法(1)	前期の「社会保障論」の授業で学習した「医療保障」「所得保障」に係る社会保険法について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。医療保険に関するいくつかの法規と年金に関する法規等を中心に学習する。
第11回	社会保険法(2)	前期の「社会保障論」の授業で学習した「介護保障」に係る社会保険法について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。介護保険に関する規定を中心に学習する。
第12回	福祉法	前期の「社会保障論」の授業で学習した「公的扶助」「社会福祉の分野とサービス」について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。分野ごとに学習したことから法規別に学習していく。
第13回	患者・高齢者の人権保障 社会基盤整備等	患者や高齢者の権利を守るための各種制度について学習する。生命や健康に関する権利の基礎となる自己決定権を学習した後、権利擁護の具体的施策である成年後見制度や地域福祉権利擁護事業、各虐待防止法等について学習する。また、少子・高齢化対策に関する法、情報保護に関する法についても学習する。
第14回	医療保健福祉行政課題への対策	近年の医療保健福祉行政に関する課題への行政対応について、学習する。具体的には、難病対策、少子化対策、高齢化対策、生活習慣病対策のための具体的な施策・計画について学習する。
第15回	全体のまとめ	これまで学習したことからについて、課題演習を行って、理解度を確認し、不足している部分について、補足説明をする。

教科書

森山幹夫『《系統看護学講座 専門基礎分野》健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令』(医学書院)

参考書
『医療六法〈平成28年版〉』（中央法規出版） 手嶋豊・他、編『別冊ジュリスト・医事法判例百選（第2版）』（有斐閣）
成績評価
平常点(授業時間内の課題・チェックテスト等)20%、定期テスト80%を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。
授業時間外の学習
次回の授業について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、チェックテストの解答をよく読み、間違った問題に関する該当部分を教科書・ハンドアウト等で復習しておく。
履修のポイント
医療行政に関する法令、社会保障・社会福祉関連の資料を多数配布するので、整理しておくこと。
オフィス・アワー
月・火・木曜日，11時～15時（授業時間以外）， 9号館3階第9研究室

講義コード	10580001
講義名	看護学原論Ⅰ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 礼子	指定なし

授業の概要

看護における対象理解の中で個別的な価値観、信条や生活背景をもつ人について理解する。また、看護の対象としての人間の健康に関する定義を学ぶことで、実際の看護についての理解を深める。

教育目標

看護の歴史的発展や看護の基本概念である人間・健康・社会・看護について学習し、看護とは何か、看護学とは何か、について自己の考えを深められるようにする。

到達目標

- 1.看護の歴史的発展を通して、看護概念の変遷を理解し、知識として修得できる
- 2.看護職の目標・対象・役割と機能について学び、今後の学習に関連付けることができる
- 3.看護の対象である人間・健康のとらえ方について理解し、看護について考えることができる

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	看護とは何か	科目ガイダンス、看護とは、看護学とは	講義
第2回	看護の歴史的変遷	看護の起源、職業としての看護の誕生からナイチンゲールまで	講義
第3回	現代における看護	近代アメリカにおける看護の発展と日本の看護の発展	講義
第4回	看護の対象 人間のとらえ方	人間のさまざまなとらえ方	講義
第5回	看護における家族	人間にとっての家族の意味	講義
第6回	健康と病気	健康のとらえ方の変遷と健康の指標	講義
第7回	看護の概念	看護の諸定義	講義
	看護活動の場と	①保健医療システム ②保健医療福祉サービスの場合 ③医療施設	講

第8回	看護実践	における看護 ④医療施設以外の看護の場と役割	義
教科書			
ライダー島崎玲子著『看護学概論 看護追求へのアプローチ 第3版』医歯薬出版 F.ナイチンゲール著、湯槇ます・薄井坦子・小玉香津子他訳『看護覚え書 改訂第7版』現代社 V.ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会			
参考書			
アドルフ・ポルトマン著、高木正孝訳『人間はどこまで動物か』岩波書店 V.E.フランクル著、山田邦夫・松田美佳訳『それでも人生にイエスと言う』春秋社 ミルトン・メイヤロフ著、田村真也訳『ケアの本質－生きることの意味－』ゆみる出版			
成績評価			
単位認定は60点以上 ミニレポート（授業ごとに受講カードを兼ねて提出）40％・筆記試験60％			
授業時間外の学習			
自分の周囲の先輩や友人と自分はなぜ看護職を選んだのか話し合い、「看護」について視野を広げ、4年後の自分を想像してみましょう。			
履修のポイント			
看護とは何かを先駆者の活動の歴史や関連学問から深く考え学ぶ授業です。			
オフィス・アワー			
在室中で時間があればいつでも対応します。11号館3階第5研究室です。			

講義コード	10590001
講義名	看護学原論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 礼子	指定なし
教員	三木 園生	指定なし

授業の概要

看護が専門職であるためには、科学的根拠のある看護実践が必要であり、看護理論は看護にその科学的根拠を与えている。看護構築の初期に開発された理論と、看護理論を活用して対象理解について学ぶ。

教育目標

看護理論の発展の歴史と看護理論の成り立ちや看護理論の機能と特徴を理解できるようにする。

到達目標

- 1.看護の概念と理論の意味と重要性を理解する。
- 2.看護理念の構築の初期に開発された理論を理解する。
- 3.興味・関心のある看護理論における対象理解の方法について特徴を理解する。
- 4.看護理論が具体的な看護実践にどのように活用されるかを理解する。"

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	学科目ガイダンス 看護理論概説	学科目ガイダンス・看護理論に関連した用語の定義 主な看護理論	講義
第2回	フローレンス・ナイチンゲール	①背景 ②看護理論の特徴	講義
第3回	ヴァージニア・ヘンダーソン	①理論的背景、②看護理論の特徴、③対象理解	講義
第4回	シスター・カリスト・ロイ	①理論的背景、②看護理論の特徴、③対象理解	講義
第5回	松木光子	①理論的背景、②看護理論の特徴、③対象理解	講義
第6回	アーネスティン・ウィーデンバック	①理論的背景、②看護理論の特徴、③対象理解	講義

第7回	パトリシア・ベナー	①理論的背景、②看護理論の特徴、③対象理解	講義
第8回	まとめ	各理論家の対象把握の特徴	講義

教科書

ライダー島崎玲子著『看護学概論 看護追求へのアプローチ 第3版』医歯薬出版
F.ナイチンゲール著、湯楨ます・薄井坦子・小玉香津子他訳『看護覚え書 改訂第7版』現代社
V.ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会

参考書

都留伸子監訳『看護理論家とその業績(第3版)』医学書院，横尾京子『看護理論と看護過程』医学書院

成績評価

単位認定60点以上 課題レポート（授業ごとのミニレポートおよびまとめのレポート）50%、筆記試験50%

授業時間外の学習

看護理論的背景を理解するためには、時代背景や人としての理解も必要です。看護の歴史なども調べてみましょう。

履修のポイント

看護の対象を看護理論家はどのように捉えているか、自分はそれに対してどう考えるかと意見をもっていると授業が楽しくなると思います。

オフィス・アワー

在室中で時間があればいつでも対応します。11号館3階第5研究室です。

講義コード	10600001
講義名	看護技術学概論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 礼子	指定なし

授業の概要

看護技術という概念や看護技術を構成する要素は何か、その対象を学習し、看護技術の修得が、より効果的な看護を展開するためにいかに重要であるか理解する。また、看護技術の提供に共通する安全－安楽の技術、対象を自立に向けて支援する技術など看護技術学Ⅰ～Ⅵの特徴をオムニバス方式で講義・演習を通して学習する。

教育目標

- 1.看護技術の概念、看護技術を構成する要素および、その対象を理解できるようにする
- 2.看護技術の提供に共通する安全・安楽・自立に向けた教育的支援について理解できるようにする

到達目標

- 1.看護技術とはなにか、構成要素・対象・用語について説明できる
- 2.看護技術における安楽の意義、安楽確保の技術について説明できる
- 3.看護技術における安全の意義、安全管理の技術について説明できる
- 4.看護技術における自立に向けた教育的支援の意義、教育支援技術について説明できる
- 5.看護過程の基本について説明できる

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	看護技術学概説	看護技術とはなにか？ 看護技術はどのように構成されているか？ 看護技術の対象とは？ 看護技術の用語について	講義：吉田
第2回	安楽確保の技術	安楽の意義、安楽な体位の基本	講義：三木
第3回	安楽確保の技術	ボディメカニクスの基本	講義：三木
第4回	安全管理の技術	安全の意義 療養環境における危険防止	講義：三木
	安全管		

第5回	理の技術	感染予防の技術、日常的手洗い	講義・演習：三木
第6回	教育指導技術	自立に向けた教育的支援の意義	講義：吉田
第7回	看護過程の基本	クリティカルシンキングとはなにか？	講義：吉田
第8回	看護過程の基本	看護過程とはなにか？ 看護過程の5つの段階について	講義：吉田

教科書

深井喜代子編『新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社

参考書

三上れつ・小松万喜子編『演習・実習に役立つ基礎看護技術』根拠に基づいた実践をめざして第3版、ヌーヴェルヒロカワ

成績評価

筆記試験で評価する。総合得点が60点以上で単位認定とする

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと

履修のポイント

主体的に学習することを望む

オフィス・アワー

在室中で時間があればいつでも対応します。
11号館3階 研究室5（吉田）、10号館2階 研究室7（三木）です。

講義コード	10610001
講義名	看護技術学Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし
教員	吉田 礼子	指定なし
教 員	豊田 省子	指定なし

授業の概要

様々な健康レベルや環境下で生活している人々の生活環境を整え、自然治癒力を高めるための支援技術を学習する。その支援技術は、環境を調整する、清潔を保持する、安楽な体位を保持する、栄養状態を保つ、排泄の支援と調整、衣類の選択と更衣など、対象の生活に必要な支援技術である。その技術は対象の生活機能を維持・促進し自立に向けて支援するための技術で、科学的根拠をもとに学習する。

教育目標

1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供する意義を理解する
2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を実施する
3. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明確にする

到達目標

1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を根拠とともに説明する
2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、自立に向けた教育的支援を考慮した日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を説明する
3. 自力で日常生活行動が行えない患者に、個別性を考慮した日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を説明する
4. 決められた手順に則って日常生活行動の援助技術を実施する
5. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明らかにする

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	環境を整える技術	入院患者を取り巻く生活環境 病床環境の調整に必要な基礎知識 環境調整における看護の役割と看護技術 実習室の使用方法について	講義
		入院患者を取り巻く生活環境	

第2回	環境を整える技術	病床環境の調整に必要な基礎知識 環境調整における看護の役割と看護技術 実習室の使用方法について	講義
第3回	活動・休息の援助技術	運動の意義と援助 休息の意義と援助 睡眠とその援助 移動の援助	講義
第4回	活動・休息の援助技術	運動の意義と援助 休息の意義と援助 睡眠とその援助 移動の援助	講義
第5回	ベッドメイキング	ベッドメイキング (課題レポート)	演習
第6回	ベッドメイキング	ベッドメイキング (課題レポート)	演習
第7回	清潔の援助技術	皮膚の清潔・粘膜の清潔 清潔の意義と援助方法	講義
第8回	清潔の援助技術	皮膚の清潔・粘膜の清潔 清潔の意義と援助方法	講義
第9回	体位変換 移動	体位変換 車椅子・ストレッチャーでの移動 (課題レポート)	演習
第10回	体位変換 移動	体位変換 車椅子・ストレッチャーでの移動 (課題レポート)	演習
第11回	環境整備 臥床患者のシーツ交換	病床の環境整備 臥床患者のシーツ交換 (課題レポート)	演習
第12回	環境整備 臥床患者のシーツ交換	病床の環境整備 臥床患者のシーツ交換 (課題レポート)	演習
第13回	衣生活の援助技術	衣生活の意義と援助方法	講義
第14回	寝衣交換	寝衣交換 (課題レポート)	演習
第15回	全身清拭	全身清拭 (課題レポート)	演習
第16回	全身清拭	全身清拭 (課題レポート)	演習
第17回	洗髪	洗髪 (課題レポート)	演習
第18回	洗髪	洗髪 (課題レポート)	演習
第19回	食生活の援助技術	食事の意義 食生活の基本的援助	講義
第20回	食事介助	食事の援助方法 (課題レポート)	演習
第21回	排泄の援助技術	人間にとっての排泄の意義 排泄のメカニズム 基本的援助	講義
22		人間にとっての排泄の意義	

第 回	排泄の援助技術	排泄のメカニズム 基本的援助	講義
第23回	排泄の援助 陰部洗浄	便器・尿器の当て方 陰部洗浄 (課題レポート)	演習
第24回	排泄の援助 陰部洗浄	便器・尿器の当て方 陰部洗浄 (課題レポート)	演習
第25回	感染予防の技術	感染予防とは 感染予防の意義・重要性 スタンダードプリコーション	講義
第26回	感染予防の技術	感染予防とは 感染予防の意義・重要性 スタンダードプリコーション	講義
第27回	感染予防の技術	日常的手洗い 無菌操作 ガウンテクニック 滅菌手袋の着脱 (課題レポート)	演習
第28回	感染予防の技術	日常的手洗い 無菌操作 ガウンテクニック 滅菌手袋の着脱 (課題レポート)	演習
第29回	実技試験	技術テスト	試験
第30回	実技試験	技術テスト	試験

教科書

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

参考書

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験60%、実技試験30%、課題レポート10%を総合して評価。

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと
演習終了時に配布する課題レポートに記述すること
実習室で技術の練習をすること

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7

講義コード	10610002
講義名	看護技術学Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし
教員	吉田 礼子	指定なし
教 員	豊田 省子	指定なし

授業の概要

様々な健康レベルや環境下で生活している人々の生活環境を整え、自然治癒力を高めるための支援技術を学習する。その支援技術は、環境を調整する、清潔を保持する、安楽な体位を保持する、栄養状態を保つ、排泄の支援と調整、衣類の選択と更衣など、対象の生活に必要な支援技術である。その技術は対象の生活機能を維持・促進し自立に向けて支援するための技術で、科学的根拠をもとに学習する。

教育目標

1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供する意義を理解する
2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を実施する
3. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明確にする

到達目標

1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を根拠とともに説明する
2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、自立に向けた教育的支援を考慮した日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を説明する
3. 自力で日常生活行動が行えない患者に、個別性を考慮した日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を説明する
4. 決められた手順に則って日常生活行動の援助技術を実施する
5. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明らかにする

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	環境を整える技術	入院患者を取り巻く生活環境 病床環境の調整に必要な基礎知識 環境調整における看護の役割と看護技術 実習室の使用方法について	講義
		入院患者を取り巻く生活環境	

第2回	環境を整える技術	病床環境の調整に必要な基礎知識 環境調整における看護の役割と看護技術 実習室の使用方法について	講義
第3回	活動・休息の援助技術	運動の意義と援助 休息の意義と援助 睡眠とその援助 移動の援助	講義
第4回	活動・休息の援助技術	運動の意義と援助 休息の意義と援助 睡眠とその援助 移動の援助	講義
第5回	ベッドメイキング	ベッドメイキング (課題レポート)	演習
第6回	ベッドメイキング	ベッドメイキング (課題レポート)	演習
第7回	清潔の援助技術	皮膚の清潔・粘膜の清潔 清潔の意義と援助方法	講義
第8回	清潔の援助技術	皮膚の清潔・粘膜の清潔 清潔の意義と援助方法	講義
第9回	体位変換 移動	体位変換 車椅子・ストレッチャーでの移動 (課題レポート)	演習
第10回	体位変換 移動	体位変換 車椅子・ストレッチャーでの移動 (課題レポート)	演習
第11回	環境整備 臥床患者のシーツ交換	病床の環境整備 臥床患者のシーツ交換 (課題レポート)	演習
第12回	環境整備 臥床患者のシーツ交換	病床の環境整備 臥床患者のシーツ交換 (課題レポート)	演習
第13回	衣生活の援助技術	衣生活の意義と援助方法	講義
第14回	寝衣交換	寝衣交換 (課題レポート)	演習
第15回	全身清拭	全身清拭 (課題レポート)	演習
第16回	全身清拭	全身清拭 (課題レポート)	演習
第17回	洗髪	洗髪 (課題レポート)	演習
第18回	洗髪	洗髪 (課題レポート)	演習
第19回	食生活の援助技術	食事の意義 食生活の基本的援助	講義
第20回	食事介助	食事の援助方法 (課題レポート)	演習
第21回	排泄の援助技術	人間にとっての排泄の意義 排泄のメカニズム 基本的援助	講義
22		人間にとっての排泄の意義	

第 回	排泄の援助技術	排泄のメカニズム 基本的援助	講義
第23回	排泄の援助 陰部洗浄	便器・尿器の当て方 陰部洗浄 (課題レポート)	演習
第24回	排泄の援助 陰部洗浄	便器・尿器の当て方 陰部洗浄 (課題レポート)	演習
第25回	感染予防の技術	感染予防とは 感染予防の意義・重要性 スタンダードプリコーション	講義
第26回	感染予防の技術	感染予防とは 感染予防の意義・重要性 スタンダードプリコーション	講義
第27回	感染予防の技術	日常的手洗い 無菌操作 ガウンテクニック 滅菌手袋の着脱 (課題レポート)	演習
第28回	感染予防の技術	日常的手洗い 無菌操作 ガウンテクニック 滅菌手袋の着脱 (課題レポート)	演習
第29回	実技試験	技術テスト	試験
第30回	実技試験	技術テスト	試験

教科書

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

参考書

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験60%、実技試験30%、課題レポート10%を総合して評価。

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと
演習終了時に配布する課題レポートに記述すること
実習室で技術の練習をすること

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7

講義コード	10620001
講義名	看護技術学Ⅱ（Aクラス）
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし

授業の概要

看護師は、医師の治療目標に向かって他の医療チームと協働で治療効果を上げる責任がある。治療過程を支援する技術は、特に安全に配慮した確実な技術や倫理的配慮が求められる。様々な症状、疼痛、発熱、呼吸困難、排泄障害などについて、看護の視点で症状緩和方法について学習する。

教育目標

1. 治療過程の支援に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な治療過程支援技術を提供する意義を理解する
2. 症状緩和に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な症状緩和技術を提供する意義を理解する
3. 安全・安楽な治療過程支援技術および、症状緩和技術を提供するための技術を実施する
4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明確にする

到達目標

1. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の目的・方法を説明する
2. 安全・安楽に治療過程支援技術および、症状緩和技術を行うための環境調整を実施する
3. 決められた手順に則って治療過程支援技術および、症状緩和技術を実施する
4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明らかにする

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	バイタルサイン	バイタルサインとは？ バイタルサインの観察方法 記録・報告	講義
第2回	バイタルサイン	バイタルサインとは？ バイタルサインの観察方法 記録・報告	講義
第3回	バイタルサインの測定	バイタルサインの測定・記録・報告 (課題レポート)	演習
第4回	バイタルサインの測定	バイタルサインの測定・記録・報告 (課題レポート)	演習

第5回	呼吸・循環を整える技術	呼吸の意義 酸素吸入療法 吸引（一時的・持続的） 人工呼吸	講義
第6回	呼吸・循環を整える技術	呼吸の意義 酸素吸入療法 吸引（一時的・持続的） 人工呼吸	講義
第7回	酸素吸入療法 吸引	酸素吸入療法 一時的吸引法 （課題レポート）	演習
第8回	酸素吸入療法 吸引	酸素吸入療法 一時的吸引法 （課題レポート）	演習
第9回	食生活と栄養摂取の援助 技術	経腸栄養法と静脈栄養法	講義
第10回	経管栄養法	経管栄養法 （課題レポート）	演習
第11回	排泄の援助技術	排便障害と援助方法 排尿障害と援助方法	講義
第12回	排泄の援助技術	排便障害と援助方法 排尿障害と援助方法	講義
第13回	浣腸、導尿	グリセリン浣腸 一時的導尿 （課題レポート）	演習
第14回	浣腸、導尿	グリセリン浣腸 一時的導尿 （課題レポート）	演習
第15回	与薬の技術	薬物療法の意義・目的、看護師の役割 与薬に関する基本知識	講義
第16回	与薬の技術	薬物療法の意義・目的、看護師の役割 与薬に関する基本知識	講義
第17回	与薬の技術 検査に伴う看護技術	与薬の援助に関する共通事項、各種与薬の援助方法 検査に伴う看護と検査の種類、血液検査（静脈血採血法）	講義
第18回	与薬の技術 検査に伴う看護技術	与薬の援助に関する共通事項、各種与薬の援助方法 検査に伴う看護と検査の種類、血液検査（静脈血採血法）	講義
第19回	静脈血採血法	静脈血採血の方法 感染性廃棄物の取扱い （課題レポート）	演習
第20回	静脈血採血法	静脈血採血の方法 感染性廃棄物の取扱い （課題レポート）	演習
第21回	各種注射法	筋肉内注射法 点滴静脈内注射法 （課題レポート）	演習
第22回	各種注射法	筋肉内注射法 点滴静脈内注射法	演習

		(課題レポート)	
第23回	症状緩和技術	症状緩和技術とは 代替療法とは 看護の視点からみた症状緩和方法	講義
第24回	症状緩和技術	症状緩和技術とは 代替療法とは 看護の視点からみた症状緩和方法	講義
第25回	足浴・マッサージ 電法	足浴・マッサージ 冷電法・温電法 (課題レポート)	演習
第26回	足浴・マッサージ 電法	足浴・マッサージ 冷電法・温電法 (課題レポート)	演習
第27回	実技試験	技術テスト	試験
第28回	実技試験	技術テスト	試験
第29回	総合演習	総合演習 (課題レポート)	演習
第30回	総合演習	総合演習 (課題レポート)	演習

教科書

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社
 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

参考書

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア
 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験60%、実技試験30%、課題レポート10%を総合して評価。

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと
 演習終了後に配布する課題レポートに記述すること
 実習室で技術の練習をすること

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7

講義コード	10620002
講義名	看護技術学Ⅱ（Bクラス）
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし

授業の概要

看護師は、医師の治療目標に向かって他の医療チームと協働で治療効果を上げる責任がある。治療過程を支援する技術は、特に安全に配慮した確実な技術や倫理的配慮が求められる。様々な症状、疼痛、発熱、呼吸困難、排泄障害などについて、看護の視点で症状緩和方法について学習する。

教育目標

1. 治療過程の支援に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な治療過程支援技術を提供する意義を理解する
2. 症状緩和に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な症状緩和技術を提供する意義を理解する
3. 安全・安楽な治療過程支援技術および、症状緩和技術を提供するための技術を実施する
4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明確にする

到達目標

1. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の目的・方法を説明する
2. 安全・安楽に治療過程支援技術および、症状緩和技術を行うための環境調整を実施する
3. 決められた手順に則って治療過程支援技術および、症状緩和技術を実施する
4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明らかにする

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	バイタルサイン	バイタルサインとは？ バイタルサインの観察方法 記録・報告	講義
第2回	バイタルサイン	バイタルサインとは？ バイタルサインの観察方法 記録・報告	講義
第3回	バイタルサインの測定	バイタルサインの測定・記録・報告 (課題レポート)	演習
第4回	バイタルサインの測定	バイタルサインの測定・記録・報告 (課題レポート)	演習

第5回	呼吸・循環を整える技術	呼吸の意義 酸素吸入療法 吸引（一時的・持続的） 人工呼吸	講義
第6回	呼吸・循環を整える技術	呼吸の意義 酸素吸入療法 吸引（一時的・持続的） 人工呼吸	講義
第7回	酸素吸入療法 吸引	酸素吸入療法 一時的吸引法 （課題レポート）	演習
第8回	酸素吸入療法 吸引	酸素吸入療法 一時的吸引法 （課題レポート）	演習
第9回	食生活と栄養摂取の援助 技術	経腸栄養法と静脈栄養法	講義
第10回	経管栄養法	経管栄養法 （課題レポート）	演習
第11回	排泄の援助技術	排便障害と援助方法 排尿障害と援助方法	講義
第12回	排泄の援助技術	排便障害と援助方法 排尿障害と援助方法	講義
第13回	浣腸、導尿	グリセリン浣腸 一時的導尿 （課題レポート）	演習
第14回	浣腸、導尿	グリセリン浣腸 一時的導尿 （課題レポート）	演習
第15回	与薬の技術	薬物療法の意義・目的、看護師の役割 与薬に関する基本知識	講義
第16回	与薬の技術	薬物療法の意義・目的、看護師の役割 与薬に関する基本知識	講義
第17回	与薬の技術 検査に伴う看護技術	与薬の援助に関する共通事項、各種与薬の援助方法 検査に伴う看護と検査の種類、血液検査（静脈血採血法）	講義
第18回	与薬の技術 検査に伴う看護技術	与薬の援助に関する共通事項、各種与薬の援助方法 検査に伴う看護と検査の種類、血液検査（静脈血採血法）	講義
第19回	静脈血採血法	静脈血採血の方法 感染性廃棄物の取扱い （課題レポート）	演習
第20回	静脈血採血法	静脈血採血の方法 感染性廃棄物の取扱い （課題レポート）	演習
第21回	各種注射法	筋肉内注射法 点滴静脈内注射法 （課題レポート）	演習
第22回	各種注射法	筋肉内注射法 点滴静脈内注射法	演習

		(課題レポート)	
第23回	症状緩和技術	症状緩和技術とは 代替療法とは 看護の視点からみた症状緩和方法	講義
第24回	症状緩和技術	症状緩和技術とは 代替療法とは 看護の視点からみた症状緩和方法	講義
第25回	足浴・マッサージ 電法	足浴・マッサージ 冷電法・温電法 (課題レポート)	演習
第26回	足浴・マッサージ 電法	足浴・マッサージ 冷電法・温電法 (課題レポート)	演習
第27回	実技試験	技術テスト	試験
第28回	実技試験	技術テスト	試験
第29回	総合演習	総合演習 (課題レポート)	演習
第30回	総合演習	総合演習 (課題レポート)	演習

教科書

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社
 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

参考書

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア
 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験60%、実技試験30%、課題レポート10%を総合して評価。

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと
 演習終了後に配布する課題レポートに記述すること
 実習室で技術の練習をすること

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7

講義コード	10630001
講義名	看護技術学Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 礼子	指定なし
教員	伊藤 美鈴	指定なし
教員	三木 園生	指定なし

授業の概要

看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、対象者の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントをするための知識と基本的技術を学ぶ。特に身体的アセスメントについては、看護実践の基盤となる観察技術を中心に正確な身体情報を把握する。さらにその情報から対象者の健康レベルや正常・異常を判断できるまでの一連のアセスメント技術と看護者として望ましい基本的態度を修得する。

教育目標

看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、あらゆる健康レベルにある人々の身体構造と機能の系統的観察・測定技術の必要性と方法を学べるようにする。さらに対象者の健康状態を実際にアセスメントできる基本的技術と看護者としての基本的態度を習得できるようにする。

到達目標

- 1.ヘルスアセスメントの意義及び必要性を述べることができる
- 2.人間を身体的・心理・社会的存在として捉える重要性を述べることができる
- 3.対象者を総合的にアセスメントするために、ヘルスアセスメントの基本的技術を用い実施できる
- 4.ヘルスアセスメント時の看護者としての基本的態度について考えることができる

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	ヘルスアセスメントの概要	ヘルスアセスメントの目的・意義と基本的技法	講義
第2回	系統的アセスメント	看護面接の進め方	講義
第3回	演習	看護面接の実際：クラス別	演習
第4回	系統的アセスメント	皮膚・頭頸部のフィジカルアセスメントの進め方	講義

	ト		義
第5回	演習	皮膚・頭頸部のアセスメントと身体各部の計測の実際：クラス別	演習
第6回	系統別アセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメントの進め方	講義
第7回	演習	呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別	演習
第8回	系統別アセスメント	循環器系のフィジカルアセスメントの進め方	講義
第9回	演習	循環器系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別	演習
第10回	系統別アセスメント	消化器系のフィジカルアセスメントの進め方	講義
第11回	演習	消化器系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別	演習
第12回	系統別アセスメント	感覚器系・運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメントの進め方	講義
第13回	演習	感覚器系・運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別	演習
第14回	事例を用いたアセスメント	情報収集および解釈・分析：ゴードンの機能的健康パターンを用いて	演習
第15回	事例を用いたアセスメント	情報収集および解釈・分析の発表と修正	演習

教科書

松尾 ミヨ子他 編著『ヘルスアセスメント (ナースング・グラフィカー基礎看護学)』メディカ出版

参考書

山内豊明『フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる(第2版)』医学書院
医療情報科学研究所編『フィジカルがみえる第1版』メディックメディア

成績評価

講義・演習参加状況・演習レポート30%、事例レポート20%、筆記試験50%を総合して評価する。
総合得点が60点以上で単位認定とする。ただし、事例レポートが合格することを必須とする。

授業時間外の学習

系統別アセスメントの演習を効果的に行うために人体の構造のレポートを作成する。演習前にフィジカルアセスメントのDVDを視聴する。

履修のポイント

事前事後の学習課題を行い、主体的・積極的に参加すること。記録類の提出は、時間厳守すること。

オフィス・アワー

在室中で時間があればいつでも対応します。11号館3階第5研究室です。

講義コード	10640001
講義名	看護技術学Ⅳ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 礼子	指定なし
教員	伊藤 美鈴	指定なし
教員	三木 園生	指定なし

授業の概要

看護過程の展開は看護理論をもとに、対象にどのような問題点があるか、どのような看護ケアが必要か、どのような事象が展開されるかを予測的に説明することができる方法である。この科目は専門基礎で学んだ知識と看護学を統合する学習であり、既修学習した様々な知識を想起して、これからはじまる看護学各論の科目、特に臨地実習と関連させる方法論を学ぶ。

教育目標

科学的な根拠に基づく、個別性のある看護を実践するための方法論を理解できるようにする

到達目標

- 1.看護過程とはなにか説明できる
- 2.看護過程の各段階とその機能を説明できる
- 3.看護過程の展開方法について説明できる
 - ①「アセスメント」を展開する方法、②「看護診断（問題の明確化）」を展開する方法
 - ③「計画」を展開する方法、④「実施」を展開する方法、⑤「評価」を展開する方法

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	看護過程概説 看護過程の各段階と機能	看護過程とは 看護過程の各段階と機能とは	講義 合同
第2回	アセスメント	情報収集	講義 合同
第3回	アセスメント	情報の解釈分析	講義 合同
第4回	診断	関連図を用いた問題の明確化	講義 合同
第5回	計画	看護診断(問題の明確化)	講義 合同
		期待される成果とは（患者目標）	講義 合同

第6回	計画		同
第7回	実施	実施、記録	講義 合同
第8回	評価、	目標達成の評価、看護計画の修正、結果の伝達 HW：事例展開に向けた学習（病態・治療、発達段階）	講義 合同
第9回	アセスメント	事例をもとに情報整理（課題レポート）	演習 クラス別
第10回	アセスメント	レポート発表、情報修正、情報の解釈・分析（課題レポート）	演習 クラス別
第11回	診断	関連図作成（課題レポート）	演習 クラス別
第12回	診断	レポート発表 関連図修正、診断リスト作成（課題レポート）	演習 クラス別
第13回	計画	レポート発表 診断リスト修正、患者目標立案（課題レポート）	演習 クラス別
第14回	計画	レポート発表 患者目標修正・具体策立案（課題レポート）	演習 クラス別
第15回	まとめ	レポート発表、具体策修正 看護過程のまとめ：個別性のある看護（その人にあった看護）を行うためには・・・	演習 クラス別

教科書

江川隆子編；ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第4版、ヌーヴェル・ヒロカワ
L.J.カルペニート著、新道幸恵監訳；看護診断ハンドブック第10版、医学書院

参考書

ロザリンダ・アルファロ・ルフィーヴァ著、本郷久美子訳；基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版、医学書院
T.H.ハードマン・上鶴重美編、日本看護診断学会監訳；NANDA-I 看護診断 定義と分類 2015-2017 原著第10版、医学書院
古橋洋子；患者さんの情報収集ガイドブック第2版、メヂカルフレンド社
NCブックス 関連図の書き方をマスターしよう 改訂・増補版、医学芸術社

成績評価

事例展開（課題レポート）50%、筆記試験50%を総合して評価する。どちらも60点以上取れることを必須とする。

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと。示された課題について記録用紙に記述すること。

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる
事例展開は個人ワークだが、グループ間で共有し相談して進める

オフィス・アワー

在室中で時間があればいつでも対応します。11号館3階第5研究室です。

講義コード	10650001
講義名	看護技術学Ⅴ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 豊田 省子	指定なし

授業の概要

看護活動のなかで教育的な活動は、健康についての知識の獲得や態度の形成、保健行動の獲得や変容のために重要な活動である。本授業では健康の保持増進のための正しい知識を理解し自らの健康を守るというセルフケアに必要な「健康教育の方法」を学ぶ。

教育目標

看護における教育的関わりについて理解し、さまざまな健康レベルにある対象者が健康に対する望ましい考えや行動を獲得できるように側面から支援する方法がわかる。

到達目標

1. 看護における教育・指導とは何かを理解できる。
2. 健康教育とは何かを理解できる。
3. 健康教育に活用できる理論を知る。
4. 健康教育のプロセスを、看護過程の展開を一例として理解できる。
5. 看護過程の展開における教育計画をグループ・ワークを通して立案できる。
6. 教育計画の展開に必要な教材をグループ・ワークを通して作成できる。
7. 教育計画の実際と作成した教材に関して、発表できる。
8. 授業と演習を通して学んだこと・考えたことを「課題レポート」にまとめ提出できる。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	看護における教育・指導	1. 「教育」とは？・「指導」とは？ 2. 「看護」と「教育指導」との関係 3. 健康に生きることを支える教育・指導	講義
第2回	健康教育とは	1. 健康教育の定義 2. 健康教育の目的 3. 健康教育の担い手 4. 保健医療の5段階と健康教育 5. 健康教育と保健行動（＝健康行動）	講義
第3回	健康教育に活用できる理論	1. セルフケア論 2. 自己効力（感） 3. 健康行動理論	講義

		4. エンパワメント 5. 成人教育	
第4回	健康教育のプロセス	1. アセスメント 2. 看護診断 3. 計画 4. 実施 5. 評価	講義
第5回	教育計画の立案・教材の作成	1. 記録用紙を用いて、教育計画を創り上げる（グループで1部） 2. 教育計画にそった教材を創り上げる（グループで1部）	演習
第6回	//	//	//
第7回	教育計画と教材の発表	1. 教育計画の概要と教材を発表する 2. まとめ	演習
第8回	//	//	//

教科書

指定する教科書は特にありません。必要な教材は、授業資料として毎回配布します。

参考書

- ・NPO法人日本健康教育士養成機構編：新しい健康教育 理論と事例から学ぶ健康増進への道、保健同人社、2011年
- ・松本千明：行動変容のための健康教育パワーアップガイド 効果を高める32のヒント、医歯薬出版、2011年
- ・津下一代：図解相手の心に届く保健指導のコツ 行動変容につながる生活習慣改善支援10のポイント、東京法規出版、2008年
- ・安酸史子：改定2版糖尿病患者のセルフケアマネジメント教育 - エンパワメントと自己効力 -、メディカ出版、2010年

成績評価

単位認定：60点以上

授業内小テスト40%・教育計画と教材40%、課題レポート20%で総合的に評価します。再試験は実施しません。

授業時間外の学習

- ①毎回の授業をしっかりと聞くことが大切です。小テストでできなかったところはその日のうちに「復習」をして下さい。
- ②関連する科目としては、「教育方法論」「セルフケア論」「看護技術学Ⅳ（対人援助方法）」「成人看護学概論」「成人看護学方法」などが考えられます。これらの科目の予習・復習をすることによって、「看護技術学Ⅴ（教育指導論）」の理解を深め、知識の統合を図りましょう。

履修のポイント

- ①授業中に「小テスト」を行います。臨床実習で困らないよう学びを着実に身に付けましょう。
- ②毎回、自筆による「リアクション・ペーパー」の提出を求めます。その日の授業内容に即した感想・意見・要望・質問などが書かれていることによって、授業に出席したことを認めます。したがって白紙で提出された場合（出席証明にならない）や学籍番号と氏名が不一致の場合（個人の特定ができない）は、「欠席扱い」となります。リアクション・ペーパーは、「授業終了直後にのみ受領」します。後日の提出はできません。
- ③理論を用いて教育計画を展開すること。理論を用いずに展開した場合は再提出を求めます。

オフィス・アワー

「授業内」あるいは「授業終了直後」に、教室で相談に応じます。

講義コード	10660001
講義名	看護技術学VI
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 裕子	指定なし

授業の概要

看護の対象はライフサイクルや健康レベルのあらゆる段階にある人を対象にすることから、より高い対人援助力が必要となる。若い看護職のコミュニケーション力の低下も指摘されている。対人援助における、人間関係やコミュニケーションについての理解を深めながら授業を進める。行動科学に基づく手法を用いる。具体的には心理測定尺度などを活用し、自己理解や他者理解、人間関係理解を深めながら対人援助方法としての手法を実践的に学ぶ。人間関係やコミュニケーションの知識を深めスキルを高めることを中心に看護における対人援助方法を学ぶ。

教育目標

- ①対人援助、コミュニケーションや相談技術について、行動科学に基づく手法を理解し、実践的に学ぶ。
- ②身体的、精神的、社会的存在としての個人・家族・集団への対象理解と関わり方について学び考える。
- ③また対人援助のチームワークや関係職種との連携、看護の機能と役割へと視野を広める。

到達目標

- ①行動科学に基づく手法を用いた対人援助方法について理解し、知識と技術を身につける。
- ②自己理解、他者理解、人間関係理解を深め、コミュニケーションと相談、保健指導、教育の技術を高める。
- ③個人・家族・集団、また環境との相互関係の中で統合的・全体的に対象と関わり方について理解を深める。
- ④対人援助のチームワークや関係職種との連携について理解を深め、対人援助技術の実際と役割について考える。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	対人援助方法とは	行動科学に基づくヘルスコミュニケーション
第2回	人間関係理解	心理測定尺度を用いた自己理解、他者理解、人間関係理解
第3回	看護に役立つコミュニケーションスキル	アサーティブ・コミュニケーションとネゴシエーション ほか
第4回	看護相談と保健指導	自己決定を支える看護相談と保健指導技術

第5回	看護における教育	ヘルスリテラシーとエンパワメントを高める教育的関わり
第6回	ピア・サポート	看護ピア・サポートの実際
第7回	対象別援助	対象別対人援助方法を考える
第8回	保健医療福祉関係職種との連携	保健医療福祉関係職種との連携における看護職の対人援助機能

教科書

宗像恒次 感情と行動の大法則 ヘルスカウンセリング学会

参考書

保健同人社 新しい健康養育, トレーバー・コール 亀山静子訳 ピア・サポート実践マニュアル
仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス

成績評価

単位認定：60点以上
レポート：50%、リアクションペーパー：40%、授業態度：10%

授業時間外の学習

自己と他者、人間関係理解を深めるために、自己の内面や関係性を振り返る。図書や新聞、そして芸術に親しみ見聞を広める。

履修のポイント

行動科学、ヘルスコミュニケーション、健康相談、保健指導、看護教育（個人、集団）、連携における役割と機能がキーワードとなる。

オフィス・アワー

アポイントをとること。

講義コード	10670001
講義名	基礎看護学実習Ⅰ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし
教員	吉田 礼子	指定なし

授業の概要

看護の対象である患者および患者を取り巻く生活の場を理解し、実際に観察、コミュニケーションの技術を活用しながら、対象者の基本的ニーズを満たすための援助の必要性を考え、日常生活行動の援助を実践する。また、看護の主要な対象である患者がどのような健康上の問題をもって生活しているかを理解し、看護が担う役割と責任について理解する。

教育目標

看護者の立場から、コミュニケーションや観察を通して患者がどのような健康上の問題をもって生活しているかを理解する。また、患者の基本的ニーズを満たすための援助の必要性を考え、日常生活行動の援助を実践する。本実習を通して看護の役割と責任について理解を深める。

到達目標

1. 患者に必要な日常生活行動の援助について、原理・原則に基づき実施方法を計画する
2. 患者に必要な日常生活行動の援助を実施する
3. 患者とより良い援助関係を築くよう努力する
4. 患者に質の高い技術を提供するための看護師のあり方について考える

授業計画

	主題	授業内容
第1回	臨地実習	病棟オリエンテーション、日常生活行動の観察 カンファレンス
第2回	臨地実習	日常生活行動および援助の観察、健康状態の観察 必要な援助の抽出、日常生活行動の援助計画立案
第3回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス
第4回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス
第5回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス

教科書

使用せず
参考書
看護技術学概論、看護技術学Ⅰ、Ⅱで使用した教科書および授業プリント 看護学原論Ⅰ、Ⅱで使用した教科書および授業プリント
成績評価
行動目標の達成状況により評価し60点以上を合格とする。
授業時間外の学習
既修学習をもとに、示された課題について記録用紙に記述する 事前に技術練習・学習を十分行う
履修のポイント
主体的・積極的な学習への取り組みを期待します
オフィス・アワー
在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7（三木）

講義コード	10680001
講義名	基礎看護学実習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 礼子	指定なし

授業の概要

健康障害を体験している一人の患者を受け持ち、患者を全人的にとらえ、ニーズの充足を目指して科学的根拠に基づく日常生活行動の援助を計画・実施・評価するプロセスを学習する。実施においては修得した技術の提供を通し、看護技術の個別化の意義を学ぶ。さらに、看護者としてふさわしい態度を考え、自己を振り返り、看護への理解と関心を深める。

教育目標

健康障害を体験している一人の患者を受け持ち、患者を全人的にとらえ、ニーズの充足を目指して科学的根拠に基づく日常生活行動の援助を計画・実施・評価するプロセスを学ぶ。

到達目標

1. 一人の患者を受け持ち、アセスメント、診断、計画、実施、評価の一連の過程を展開する
2. 看護理論に基づいて看護技術を個別化する方法を説明する
3. 質の高い看護を提供するために、倫理観や科学的根拠に基づき、看護を展開することの看護師の責任を確認する
4. 実習の体験を通して看護学の学習上の課題を明示する

授業計画

	主題	授業内容
第1回	臨地実習	病棟オリエンテーション、患者紹介、情報収集カンファレンス
第2回	臨地実習	情報収集、意味のあるデータの抽出カンファレンス
第3回	臨地/学内実習	情報収集、情報の解釈・分析、関連図作成
第4回	臨地実習	情報の解釈・分析、関連図修正、問題の明確化カンファレンス
第5回	臨地実習	問題の明確化、優先順位の決定 看護診断の選択、（目標の設定、計画立案） カンファレンス
第6回	臨地実習	看護診断の選択、目標の設定、計画立案 カンファレンス

第7回	臨地/学内実習	目標の設定 計画立案：観察計画・直接ケア計画・教育計画
第8回	臨地実習	計画の実施・評価 カンファレンス
第9回	臨地実習	計画の実施・評価 カンファレンス
第10回	臨地実習	計画の実施・評価 カンファレンス

教科書

使用せず

参考書

看護技術学Ⅰ～Ⅳで使用した教科書および授業プリント
看護学原論Ⅰ、Ⅱで使用した教科書および授業プリント
関連する領域の資料

成績評価

行動目標の達成状況により評価し60点以上を合格とする

授業時間外の学習

既修学習をもとに、示された課題について記録用紙に記述する
事前に技術練習・学習を十分行う

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取り組みを期待します
根拠をもって判断し行動することを求めます。

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。11号館3階 研究室5（吉田）

講義コード	10690001
講義名	母性看護学概論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 マツ子	指定なし

授業の概要

少子化に伴う女性のライフサイクルをリプロダクティブヘルス・ライツの視点で概観し、その成長発達過程における健康問題と課題について学習する。思春期から更年期におけるライフステージの健康問題に対応できる看護の知識及び実践について学習する。母性の概念を明らかにし、母性看護の目的・対象・役割について理解し、母性と社会・生命倫理、母子保健より、今日の課題とそれに対する対応について学習する。

教育目標

母性のライフステージにおける健康問題に対する看護を理解し、母性看護学の目的に応じた、看護の実践ができる基礎を養う。

到達目標

1. 母性の概念について理解する。2. 母性看護の目的・対象、展開について理解する。3. リプロダクティブヘルス・ライツについて理解する。4. 人間の生と性、性反応、セクシュアリティについて理解する。5. 思春期・成熟期・更年期の健康問題と対処について理解する。6. 母性看護と生命倫理の意義について考察できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	母性の概念と母性看護の意義・役割	母性とは何か。母性看護の目的・対象・方法・展開について、母性看護の意義と役割
第2回	リプロダクティブ・ヘルス・ライツの概念と母性看護学	リプロダクティブ・ヘルス・ライツの背景、母性看護学
第3回	ヒューマンセクシュアリティ	多面性、性の生物学的側面、性反応、性の文化・社会的側面、ライフサイクル各期のセクシュアリティ
第4回	母性と社会	少子化、若年妊娠・高齢妊娠、環境問題、DV、アルコールと喫煙、薬物
第5回	思春期女性の健康と看護	第二次性徴、セルフケアへの援助、健康教育、健康・予防・早期発見・キュアへの援助
第6回	成熟期女性の健康と看護	成熟期女性の健康問題、セルフケアへの援助、健康教育、健康・予防・異常発見・キュアへの援助
	更年期女性の健康と看護	更年期女性の理解と健康課題、セルフケアへの援助、健

第7回	護	康教育、健康・予防・早期発見・キュアへの援助
第8回	母性看護と生命倫理	科学の進展と生命倫理、生殖医療と人の尊厳、人の生命と再生医療

教科書

医歯薬出版「母性看護学1、概論」プリントを修得し女性・家族に寄り添い健康を支える 有森直子著

成績評価

単位認定テスト 60点以上で単位認定、レポート加点あり

履修のポイント

性の問題を自己の健康問題として身近に感じて学習してください。

オフィス・アワー

水・木・金は研究室在中であればいつでも応じます

講義コード	10700001
講義名	母性看護方法
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 マツ子	指定なし

授業の概要

女性のライフサイクルの中で、妊婦・産婦・褥婦・新生児の生理的変化を理解し看護を学ぶ。具体的には、①妊娠、分娩の生理的な経過とその診断・検査を理解し、正常に経過するための援助能力を養う。②妊娠・分娩期に起こりやすい異常徴候を理解し、早期発見と健康回復のための援助能力を養う。③褥婦、新生児の生理的な経過とその診断・検査を理解し、正常な経過のための援助を学ぶ。④産褥・新生児期に起こりやすい異常徴候を早期発見し、健康回復への援助を学ぶ。授業形式は講義のほか、母性・小児実習室での演習をとうして、母性特有の看護技術を習得する。また、看護過程展開と技術演習はグループワークを取り入れオムニバスで行う。

的な経過とその診断・検査を理解し、正常に経過するための援助能力を養う。②妊娠・分娩期に起こりやすい異常徴候を理解し、早期発見と健康回復のための援助能力を養う。③褥婦、新生児の生理的な経過とその診断・検査を理解し、正常な経過のための援助を学ぶ。④産褥・新生児期に起こりやすい異常徴候を早期発見し、健康回復への援助を学ぶ。授業形式は講義のほか、母性・小児実習室での演習をとうして、母性特有の看護技術を習得する。また、看護過程展開と技術演習はグループワークを取り入れオムニバスで行う。

妊娠、分娩の生理的な経過とその診断・検査を理解し、正常に経過するための援助能力を養う。②妊娠・分娩期に起こりやすい異常徴候を理解し、早期発見と健康回復のための援助能力を養う。③褥婦、新生児の生理的な経過とその診断・検査を理解し、正常な経過のための援助を学ぶ。④産褥・新生児期に起こりやすい異常徴候を早期発見し、健康回復への援助を学ぶ。授業形式は講義のほか、母性・小児実習室での演習をとうして、母性特有の看護技術を習得する。また、看護過程展開と技術演習はグループワークを取り入れオムニバスで行う。

教育目標

看護教育目標の「人の成長発達段階・健康レベルに応じて、科学的根拠に基づく看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。人間のライフサイクルの中でも成熟期、周産期に起こる様々な現象を科学的に分析し、看護ケアの実践能力を目指す。

到達目標

1. 妊娠による女性の身体的・精神・社会的変化が理解できる。2. 胎児の発育・発達が理解できる。3. 妊婦の健康診査、保健指導の必要性と内容が理解できる。4. 分娩の3要素が理解できる。5. 分娩各期の援助が理解できる。6. 異常妊娠・分娩の看護が理解できる。7. 褥婦の退行性変化・進行性変化が理解でき、促進のための援助ができる。8. 母子関係・父子関係・家族関係構築の理解ができる。9. 新生児の生理的変化、成熟徴候、原始反射が判断できる。10、母乳哺育促進の援助ができる。11、異常産褥、新生児の鑑別及び新生児の鑑別及び及び健康回復のための援助ができる。12、母性看護過程の展開ができる。13母性看護に必要な看護技術8触

診・聴診・計測診・申請時の取り扱い、沐浴他）を習得する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	母子保健統計に関する理解、今日の母子保健課題	1) 母子保健政策 2) 母子保健法 3) 母体保護法 4) 健やか親子21	
第2回	妊娠の生理	1) 妊娠成立 2) 妊娠の兆候・診断 3) 予定日の確定診断 4) 妊娠による生理的变化	
第3回	妊娠期にある人の看護①	1) 妊娠期の身体的特性 2) 妊娠期の心理・社会的特性	
第4回	妊娠期にある人の看護②	1) 妊婦の健康管理・健康診査 2) 検査 3) マイナートラブル	
第5回	妊娠期にある人の看護③	1) 胎児の発育とその付属物 2) NST 3) モニタリング	
第6回	妊娠・分娩期の看護	1) 妊婦の日常生活とケア 2) 妊婦のアセスメント 3) 妊婦保健指導 4) 分娩準備教育	
第7回	分娩期にある人の看護①	1) 分娩の生理（三要素、分娩経過） 2. 産婦・胎児・家族のアセスメント	
第8回	分娩期にある人の看護②	1) 分娩第1期～4期の看護 2) 産痛の緩和・補助動作	ビデオ
第9回	産婦の看護・出生直後の新生児の看護	1) 分娩後2時間の看護 2) 出生直後から2時間までのケア	
第10回	妊婦・産婦の看護技術演習	1) 妊婦健康診査技術（触診・計測診・聴診・視診） 2) 妊婦体操 3) 呼吸法、産痛緩和法 4) 妊婦のアセスメント	グループ演習
第11回	”	”	
第12回	異常妊産婦の看護①	1) 妊娠悪阻 2) 妊娠高血圧症候群 3) 妊娠貧血	
第13回	異常妊産婦の看護②	1) 流・早産 2) 前置胎盤 3) 常位胎盤早期剥離	
第14回	異常妊産婦の看護③	1) 妊娠合併症（心疾患・糖尿病） 2) 微弱陣痛 3) 前期破水 4) 臍帯異常 5) 胎児胎盤機能不全	
第15回	褥婦の看護①	1) 産褥の生理 2) 退行性変化 3) 進行性変化	
第16回	褥婦の看護	1) 復古助成のための援助 2) 進行性変化促進のための援助（乳房ケア、授乳、栄養、睡眠、清潔・・・）	
第17回	褥婦の看護③、新生児看護①	1) 母親役割の獲得 2) 新生児の生理 3) 新生児のアセスメント	
第18回	新生児の看護②	1) 看護の原則 2) 計測 3) 原始反射 4) マスクリーニング	
第19回	新生児の看護③	体温調節、体重管理、皮膚の特徴、栄養、排せつの援助	
第20回	褥婦の異常	① 子宮復古不全 2) 乳房の異常 3) 産後うつ病など	
第21回	新生児の異常と看護	1) 呼吸障害 2) 体温の異常 3) 低血糖 4)	

	護	発疹 5) 哺乳障害 6) 嘔吐	
第22回	新生児の異常と看護②	1) 低出生体重児 2) 新生児病的黄疸 3) 新生児メレナ	
第23回	ハイリスク新生児の理解と看護	1) ハイリスク新生児とは 2) ハイリスク新生児の看護	
第24回	母性看護過程の展開	1) ウェルネス思考母性看護過程とは 2) 演習についてのオリエンテーション	
第25回	事例紹介	褥婦及び新生児の看護アセスメント、記録用紙への記載と情報分析	
第26回	母性看護過程の展開・技術演習	看護過程展開、母性看護技術演習（褥婦の子宮復古、新生児バイタルサイン測定、計測、観察、抱き方、おむつ交換、排気、沐浴）	グループワークまたは個人ワーク 看護技術演習はグループ制
第27回	”	”	演習については具体的計画を後日発表
第28回	”	”	
第29回	”	”	
第30回	まとめ	”	

教科書

森恵美：系統看護学講座 専門分野母性看護学【2】医学書院

参考書

授業中に適宜紹介する

成績評価

単位認定60点以上（単位認定試験80%、宿題、レポート）

授業時間外の学習

技術演習は時間外で行うことが必須です。臨地実習前は率先してグループ単位で行うこと。ノート記載で学習に臨む姿勢を評価します。

履修のポイント

母性看護は日本古来の風習や伝統が色濃く残っている。但し、近代科学の発展とともにエビデンスに基づく判断が求められている。対象を理解する確かな観察力とアセスメント、セルフケアを高める援助（ウェルネス思考）を提供できる力を養うため、知識・技術・態度＜対象への感謝の気持ち＞を身に付けてほしい

オフィス・アワー

在席中はいつでもOKです

講義コード	10710001
講義名	母性看護学実習
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 矢野 美紀	指定なし

授業の概要

妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象者の特徴を理解し、ウェルネスの視点に基づく看護を学習する。

教育目標

周産期にある対象者身体的・心理的・社会的変化を理解し、産褥母児を受け持ち、計画・実施・評価するプロセスを通し、周産期にある対象のニーズの充足や役割獲得への看護実践を学ぶ。

到達目標

- 《知識》
 ①周産期にある対象の身体的・心理的・社会的変化の基礎知識に基づいた情報収集ができる。②周産期にある対象を個別性に応じてアセスメントする内容が理解できる。③周産期にある対象者の健康維持・増進、正常からの逸脱のための援助ができる。④母子関係を促進したり、母親役割獲得への援助について理解できる。⑤周産期における看護の役割とチーム医療について説明できる。
- 《技術》
 ①周産期にある対象者への看護技術を安全・安楽に実施できる。②周産期にある対象者への保健指導へのフィードバックができる。
- 《態度》
 ①対象者の人権を尊重し擁護できる。プライバシー・看護倫理に配慮した看護ができる。②対象者とその家族、臨地実習指導者やその他の医療者に対して適切なコミュニケーションをとることができる。③自主的に行動して学びを深めることができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	臨地実習	臨地実習：病棟オリエンテーション、 病棟：受持ち母児紹介、情報収集、情報分析、目標設定・看護計画に基づく計画看護過程の展開、カンファレンス 周産期関連セクション：妊娠期では外来・母親学級、分娩期では経膈分娩・帝王切開術式分娩・新生児では新生児室で見学を行い、周産期の看護を学び統合する。

教科書
系統看護学講座 専門分野母性看護学【2】医学書院
参考書
病気がみえるVol10産科 メディックメディア ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版会社
成績評価
単位認定60点以上
授業時間外の学習
実習前後に母性看護学概論・母性看護学での授業資料などのポイントを振り返り、学びを深めることを繰り返すことで知識・技術を定着させることにつながります。
履修のポイント
周産期における対象の特に身体的変化を理解し、アセスメントできるためのポケットブック等の準備をおすすめします。臨地実習の際、これを活用できることが成功体験と到達目標達成への成功法です。
オフィス・アワー
随時対応します。10号館2階研究室6

講義コード	10720001
講義名	小児看護学概論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 豊田 省子	指定なし

授業の概要

「小児看護学概論」は、小児看護学への入り口である。子どもを「絶えず成長・発達し続ける存在」「限りない可能性を持つ存在」「人格を持ち尊重されるべき存在」としてとらえ、その家族も含めて小児看護の対象であることを学ぶ（対象論）。子どもと家族の健やかな成長・発達をめざして（目的論）、その各期における対象特性に応じた養育と看護について学ぶ（方法論）。

教育目標

成長・発達の過程にある子どもの身体的・心理的・社会的特徴を理解し、健全な成長・発達と健康の保持増進および疾病予防のために必要な基礎的な看護援助の知識を修得する。もって小児観、家族観を深め、小児看護観を育む。

到達目標

1. 小児看護の対象、目標、変遷を知り、小児看護の理念や目標について理解できる。
2. 子どもの成長・発達の進み方、影響因子を理解し、成長・発達を評価できる。
3. 子どもの成長・発達に必要な栄養の意義と栄養摂取量のめやすについて説明できる。
4. 虐待を現代家族の課題として理解し、子どもの権利を尊重した望ましい家族のあり方を考えられる。
5. 子どもと家族を取り巻く環境について理解し、アセスメントができる。
6. 小児各期における形態的・身体生理の特徴、各機能の発達、養育と看護について説明できる。
7. 子どもや家族の健康の保持増進、疾病予防のために必要な支援について理解し、支援の方法がわかる。
8. 授業と演習を通して学んだこと・考えたことを「課題レポート」にまとめ提出できる。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	小児看護の特徴と理念	小児看護の対象、目標、変遷、役割、子どもの権利など	講義（第1章）
第2回	子どもの成長・発達	成長・発達とは、進み方、影響因子、評価など	講義（第2章）
第3回	子どもの栄養 / 虐待と看護	栄養の意義、食育、食事摂取基準、栄養の特徴、虐待とは	講義（第3章・総論第7章） グループワーク

第4回	家族の特徴とアセスメント	家族とは、現代家族の特徴、家族アセスメントなど	講義（第7章）
第5回	新生児・乳児期	形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達、養育と看護など	講義（第4章） DVD
第6回	幼児・学童	形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達、養育と看護など	講義（第5章） DVD
第7回	思春期・青年期	形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達、不適応など	講義（第6章） DVD
第8回	子どもと家族を取り巻く社会	児童福祉、母子保健、医療費の支援、予防接種、学校保健など	講義（第8章）

教科書

奈良間美保他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『小児看護学Ⅰ』 医学書院

参考書

授業の中で、適宜紹介します。

成績評価

単位認定60点以上：授業内小テスト50%、GWレポート25%、課題レポート25%で総合的に評価します。再試験は実施しません。

授業時間外の学習

- ①毎回の授業をしっかりと聞くことが大切です。小テストでできなかったところは「復習」をして下さい。
- ②関連する科目としては、「小児看護学方法」「小児看護学実習」「学校保健Ⅳ（小児救急）」などがあります。これらの科目との知識の統合を図りましょう。

履修のポイント

- ①講義やグループワークを通して、子どもは「単に大人を小さくしたものではない」こと、「何もできない無力な存在」ではないことをしっかりと理解して下さい。
- ②毎回、自筆による「リアクション・ペーパー」の提出を求めます。その日の授業内容に即した感想・意見・要望・質問などが書かれていることによって、授業に出席したことを認めます。したがって白紙で提出された場合（出席証明にならない）や学籍番号と氏名が不一致の場合（個人の特定ができない）は、「欠席扱い」となります。リアクション・ペーパーは、「授業終了直後にのみ受領」します。後日の提出はできません。

オフィス・アワー

「授業内」あるいは「授業終了直後」に、教室で相談に応じます。

講義コード	10730001
講義名	小児看護方法
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 丸本 真理	指定なし

授業の概要

成長・発達過程で抱える健康問題（疾病・障害）をもつ子どもを理解し、子どもの発達段階と健康段階にあった基本的援助方法を見出せるよう、学習する。

教育目標

小児看護学概論で学んだ知識を基に、成長・発達で抱えた健康問題（疾病・障害）を通して、子どもとその家族に及ぼす影響を理解する。
成長・発達段階と健康段階に応じた子どもと家族への基本的な援助を提供できるよう知識の習得をめざす。

到達目標

1. 様々な発達段階、健康状態にある子どもについて理解できる。
2. 子どもの健康問題の病態生理と治療、処置について理解し、記述することがきる。
3. 様々な状況にある子どもとその家族への看護について考えることがきる。
4. 病態生理を基に根拠を考え、看護を理解することができる。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	健康障害や入院が子どもに及ぼす影響とその看護	子どもと家族の影響、子どもと入院、病院での遊び	
第2回	遺伝・先天性疾患の看護	遺伝・先天性疾患と看護	
第3回	新生児の看護	新生児によくみられる症状、主な疾患と看護	
第4回	代謝性疾患と看護	小児の代謝性疾患、内分泌疾患の特徴と看護	
第5回	免疫性疾患、アレルギー性疾患・リュウマチ性疾患と看護	小児の主要なアレルギー疾患、全身性自己免疫疾患と看護	
第6回	感染症と看護	小児の主な感染症疾患と看護	
第7回	呼吸器疾患と看護	小児の主な呼吸器疾患と看護	
第8回	循環器疾患と看護	小児期の主な循環器疾患と看護	

第9回	循環器疾患と看護	小児期の主な循環器疾患と看護	
第10回	消化器疾患と看護	小児期の主な消化器疾患と看護	
第11回	消化器疾患と看護	小児期の主な消化器疾患と看護	
第12回	血液・造血器疾患と看護	小児期の主要血液・造血器疾患と看護	
第13回	悪性新生物と看護	小児期に多い腫瘍性疾患と看護	
第14回	腎・泌尿器疾患と看護	小児の腎疾患、尿路疾患と看護	
第15回	腎・泌尿器疾患と看護	小児の腎疾患、尿路疾患と看護	
第16回	神経疾患と看護	小児の主要な神経疾患と看護	
第17回	運動器疾患と看護	小児の主要な運動器疾患と看護	
第18回	皮膚疾患と看護	主要な皮膚疾患と看護	
第19回	ハイリスク新生児の看護	N I C U看護：ハイリスク新生児の生涯発達を考慮した看護の実際	N I C U 認定看護師 中井さん
第20回	眼疾患と看護	主要な眼科疾患と看護	
第21回	耳鼻咽喉頭疾患と看護	主要な耳の疾患、鼻の疾患の看護	
第22回	精神疾患・心身医学的問題と看護	発達障害の概要、行動・情緒の障害の概要	
第23回	精神疾患・心身医学的問題と看護	精神疾患・心身医学的問題を抱える児と治療	
第24回	事故・外傷と看護	小児期によくみられる事故、外傷の理解と看護	
第25回	子どもと家族の看護	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	
第26回	子どもと家族の看護	子どもの状況に特徴づけられる看護 子どもにおける疾病の経過と家族の看護	
第27回	小児の基本的な看護技術	小児の基本的な看護技術	
第28回	小児の基本的な看護技術	小児の基本的な看護技術	
第29回	小児の事例の展開方法	小児期の特徴をふまえた情報収集の視点とアセスメント方法	
第30回	小児の事例の展開方法	関連図、看護計画立案	

教科書

系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論・小児臨床看護各論（医学書院）
写真で見る小児看護技術（インターメディカ）

参考書

子どもの病気の地図帳（講談社）
子どものフィジカルアセスメント（金原書店）

成績評価

単位認定60点以上：テスト80%、提出物20% 総合100%で評価します。

授業時間外の学習

毎回の授業をしっかりと聞いて下さい。配布資料と教科書で復習を心がけて下さい。

履修のポイント

毎回、直筆による「リアクション・ペーパー」の提出を求めます。

授業の内容、感想を記入して頂くことで、出席とみなします。
オフィス・アワー
在室時に研究室で対応します。

講義コード	10740001
講義名	小児看護学実習
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 丸本 真理	指定なし

授業の概要

NICU、幼稚園、小児病棟、小児外来の実習を通して、子どもの成長・発達を学び、健康上の問題とそれに伴う生活の変化を、身体・心理・社会的な視点から捉え、個々の成長・発達を考えることができる。発達段階に応じた健康回復、健康の維持・増進への看護を実践する能力を習得する。

教育目標

様々な成長・発達段階にある子どもとその家族の特徴を理解し、個別性を捉えながら必要な援助を考え、実践することができる。

到達目標

- 1.小児期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。
- 2.病態生理を理解し、発達・成長について考え、全体像を捉えることができる。
- 3.子どもの健康段階、成長・発達段階、個別性に応じた看護を理解することができる。
- 4.健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解できる。
- 5.小児期にある対象とその家族のニーズを知り、看護過程を展開し、実践することができる。
- 6.子どもの安全管理に関する看護者の責任を自覚し、感染管理および事故防止に努めることができる。
- 7.子どもに関わる保健・医療・福祉・教育チームの各役割と連携、チームの中における看護師の役割を理解できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	病棟実習	入院患児を受け持つ。病態生理をふまえた上で、成長・発達を考えながら、看護展開を行い、看護目標の達成を行う。
第2回	外来実習	外来診療の場面にに関わり、様々な発達段階にある子どもとその家族の診療の介助を行い、小児科外来における看護師の役割や家族の援助を知る。また、継続看護の実際を知る。
第3回	NICU実習	周産期におけるハイリスク乳児とその家族に対する看護の実際を知る。
	幼稚	

第4回	園 実習	健康な児の成長・発達を学ぶ。「成長すること」を様々な視点から捉え、発達段階を理解する。
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

教科書

「小児臨床看護各論 小児看護学2」 医学書院
「小児看護学概論/小児保健」「健康障害をもつ小児の看護」 メジカルフレンド社
「写真でわかる小児看護技術」 インターメディカ

参考書

「子どものフィジカルアセスメント」 金原出版

成績評価

単位認定60点以上 実習目標の達成度、事前学習、学習内容、記録物の内容、提出物の提出状況などを総合的に臨床指導者とともに評価します。

授業時間外の学習

記録物を実習終了後、その日のうちにまとめて下さい。翌日の実習に備え、予習及び、必要な資料等をそろえて下さい。

履修のポイント

受け持ち児の発達段階、病態生理を把握し「子どもの成長」を様々な視点で考えながら、前向きに取り組んで下さい。

オフィス・アワー

在室時及び実習病院で対応をします。

講義コード	10750001
講義名	成人看護学概論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 かおり	指定なし

授業の概要

成人期は幅広く、人口層が厚く社会的にも重要な役割を担っている人々である。この時期の人々の健康問題を健康レベルに沿ってヘルスプロモーションから治療を必要とする対象、健康の再構築を必要としている対象、ソーシャルサポート、ターミナルケアが必要な対象などにわけて理解を深める。

また、成人看護学に有効な看護理論・モデルを用いることで健康問題を客観的視点から考える視点を習慣化できるようにしていく。

対象への継続看護や家族との関わりおよび社会資源の活用についてまで理解を深める。

教育目標

成人期の対象とは何か、成人各期の特徴を習得する。

成人期の健康問題に対する援助論について習得をする。

健康増進または疾病予防を必要とする成人期の対象を知る。

成人期に有効な理論・モデルはどのようなときに使用されるかを考え、特徴をとらえた看護過程のたどり方を知る。

対象のみでなくその家族を含めた看護方法を知る。

現在活用できる社会資源について知る。

到達目標

成人にとっての健康保持増進の意義を理解する。

成人期の保健動向から成人看護の特徴を理解する。

成人の健康増進の必要性及び予防方法について理解をする。

対象に必要な看護展開の方法の理解をし、実習で応用できる。

対象だけではなく対象に関わる家族を含めた看護の方法を理解する。

ケースによる社会資源の種類や活用方法について理解をする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	成人看護学の概念	1. 看護理論の応用 2. 成人看護学の対象と援助
第2回	成人看護学の特性	1. 成人保健の動向 2. ライフサイクルの中での成人の位置づけと意義 3. 成人の発達段階（身体的・精神的・社会的等）

第3回	保健・医療・福祉における動向と課題	1. 成人期における健康障害の特徴 2. 疾病予防の現状と対応（ヘルスプロモーション）
第4回	成人看護における理論と看護者の役割	1. 成人期における倫理的課題 2. 看護者としての倫理 3. 倫理的問題の解決過程
第5回	成人期にある人の健康	1. 健康レベルの定義 2. ヘルスプロモーション 3. 治療が必要に対象への援助（生活習慣病・健康の再構築者・ターミナル期の患者等）
第6回	成人期にある人への看護援助	1. 理論から成人看護を考える （ニード論・ケアリング・ストレスコーピング理論・危機理論・家族看護理論・エンパワーメント・健康モデル等）
第7回	成人におけるヘルスアセスメント	1. ヘルスアセスメント 2. 成人を対象としたヘルスアセスメント 3. 成人期をとらえた看護過程
第8回	継続看護と健康教育	1. 継続看護の重要性 2. 患者・家族への健康教育 3. 社会資源の活用

教科書

大西和子、岡部聡子編集『成人看護学概論』

参考書

厚生労働統計協会編（各年）『国民衛生の動向』

成績評価

筆記試験90% 課題・出席10%

授業時間外の学習

既習学習である『看護理論』を確認しておくこと。

履修のポイント

主体的に積極的に授業に参加をすること。2年次後期または3年次の実習時に必要になることを意識して授業に臨むこと。ニュース、新聞等で成人の健康についての記事に興味を持と問題意識を持つこと。

オフィス・アワー

在室時に対応をします。（臨地実習で不在が多いので連絡をしてから来室して下さい）

講義コード	10760001
講義名	成人看護方法Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 かおり	指定なし

授業の概要

慢性期にある対象の特徴について学び、必要な看護援助の方法について理解を深める。

教育目標

慢性期における対象の理解から看護方法の実践的知識を習得する。

到達目標

1. 慢性期にある対象の看護上の問題を理解する。
2. 対象の健康の維持・増進及び健康障害からの回復に必要な看護方法について理解をする。
3. 慢性期疾患の対象へのセルフケア支援（患者教育）方法について理解をする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	慢性期看護の考え方①	慢性期とは 慢性期看護の特徴
第2回	慢性期看護の考え方②	慢性期にある疾患の特徴 慢性期疾患の治療の特徴
第3回	ヘルスプロモーション	生活習慣病とは ヘルスプロモーションの促進
第4回	慢性期にある対象と社会環境	慢性期にある対象の医療や看護を取り巻く社会環境 慢性期にある対象を取り巻く社会環境が及ぼす影響
第5回	慢性期にある対象の特徴と理解①	慢性期にある対象の心理・社会的特徴 疾病の受け入れ過程 慢性期にある人の自己概念
第6回	慢性期にある対象の特徴と理解②	慢性疾患がライフサイクルに及ぼす影響 慢性疾患とアドヒアランス 慢性疾患を持つ対象と家族
第7回	慢性疾患に対する看護援助①	慢性呼吸器機能障害をもつ患者の看護
第8回	慢性疾患に対する看護援助②	慢性呼吸器機能障害をもつ患者の看護

第9回	慢性疾患に対する看護援助③	慢性の循環器機能障害をもつ患者の看護
第10回	慢性疾患に対する看護援助④	慢性の循環器機能障害をもつ患者の看護
第11回	慢性疾患に対する看護援助⑤	慢性の脳・神経機能障害をもつ患者の看護
第12回	慢性疾患に対する看護援助⑥	慢性の脳・神経機能障害をもつ患者の看護
第13回	慢性疾患に対する看護援助	慢性の栄養摂取・消化器機能障害をもつ患者の看護
第14回	慢性疾患に対する看護援助⑧	慢性の代謝機能障害をもつ患者の看護
第15回	慢性疾患に対する看護援助⑨	慢性の内部環境調節障害をもつ患者の看護
第16回	慢性疾患に対する看護援助⑩	慢性の造血機能障害をもつ患者の看護
第17回	慢性疾患に対する看護援助⑪	慢性の生体防御機能の障害をもつ患者の看護
第18回	慢性疾患に対する看護援助⑫	慢性の運動機能障害をもつ患者の看護
第19回	慢性疾患に対する看護援助⑬	慢性の排泄機能・生機能障害をもつ患者の看護
第20回	看護過程の展開：演習①	事例による看護展開
第21回	看護過程の展開：演習②	事例による看護展開
第22回	慢性疾患に対する看護援助⑭	慢性の感覚機能障害をもつ患者の看護
第23回	慢性疾患に対する看護援助⑮	慢性の感覚機能障害をもつ患者の看護
第24回	慢性疾患に対する看護援助⑯	慢性の感覚機能障害をもつ患者の看護
第25回	慢性疾患に対する看護援助⑰	化学療法を受ける患者の看護 外来で化学療法を受ける患者の看護
第26回	慢性疾患に対する看護援助⑱	放射線療法を受ける患者の看護 外来で放射線療法を受ける患者の看護
第27回	慢性疾患に対する看護援助⑲	糖尿病患者への看護 セルフケアが困難な糖尿病患者の看護
第28回	慢性疾患に対する看護援助⑳	透析を受ける患者への看護
第29回	慢性疾患に対する看護援助㉑	在宅療養をしている患者の看護 終末期にある患者への看護
第30回	慢性期看護のまとめ	慢性期看護の今後と動向 看護の方法と考え方

教科書

「慢性期看護論」ニューヴェルヒロカワ

参考書

各疾患と看護に関連する書籍

例：成人看護学 [1] ～ [15] 系統看護学講座 医学書院

成績評価

60点以上

筆記試験80%、レポート・演習等の課題内容20%

授業時間外の学習

講義資料を活用し、臨地実習でも使用できるようなノートを作成することを工夫して下さい。

履修のポイント

既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加をすること。

オフィス・アワー

在室時に対応をします。

講義コード	10770001
講義名	成人看護学実習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 かおり	指定なし

授業の概要

慢性の疾患を持つ成人期の対象の問題を理解し、健康の維持・増進、健康障害からの回復と社会復帰に向けて必要な看護の実践能力を養う。

教育目標

成人各期の特徴をとらえ、慢性疾患を持ちながら生活をしていく対象の理解をする。
対象の障害された健康段階を知り、必要な援助がわかりその実践ができる。
慢性疾患患者の健康維持増進のためのセルフケア行動について学び、指導につなげることができる。

到達目標

1. 慢性疾患を持つ対象の成人各期の特徴を理解し、必要な看護援助を立案し実施及び評価修正をすることができる。
2. 対象がセルフケア行動をとることができるように健康教育を指導できる。

授業計画

	授業内容
第1回	慢性疾患を持つ対象の理解をすることができる。
第2回	対象の障害された健康段階を知ることができる。
第3回	対象の疾患および病態生理を理解することができる。
第4回	治療過程にある患者の特徴をアセスメントをすることができる。
第5回	対象の全体像をとらえその中から必要な援助について優先順位を考え具体的な方法論を組み立てることができる。
第6回	具体的（個別性のある）看護援助を実践することができる。 援助に対して評価・修正を加えることができる。
第7回	優先順位の高い援助や患者の意向を取り入れて実践に結び付けていくことができる。
第8回	慢性の疾患や障害を持ちながら社会生活を送るために自己管理が必要な対象者に対しどのようなセルフケア行動が必要であるか検討することができる。
第9回	実際に健康教育を行い評価・修正をしていく。

第10回	治療から回復過程に沿った必要な看護援助が実践できる。
第11回	対象の全体像をとらえサマリーを作成する。
第12回	身体的に障害を持ちながら生活する対象への理解を深め、その人なりのQOLについて考え必要な援助を実践することができる。
第13回	対象を取り巻く家族・地域・職場の環境を理解し、その対象に必要な援助のための保健医療福祉チームによるアプローチの必要性和、活用できる社会資源について理解することができる。
第14回	家族のサポート能力等をアセスメントすることができる。 家族への健康教育を考え実施することができる。
第15回	慢性疾患を持ちながら退院後療養生活を送るなかで利用可能な医療サービスや必要な社会的資源について考えることができる。

教科書

「慢性期看護論」：ヌーベルヒロカワ
「成人看護学概論」：医学書院

参考書

各種疾病に関する看護の書籍
成人看護方法論Ⅰで使用した資料
演習で使用した資料等

成績評価

60点以上とします。
実習目標の達成度、実習記録、事前学習の内容等によって総合的に、臨床指導者とともに評価をします。

授業時間外の学習

記録物を実習終了後、その日のうちにまとめること、翌日の実習に備えての予習及び資料等をそろえて下さい。

履修のポイント

既存学習をふまえ、主体的・積極的に実習にのぞむこと。
受け持ち患者の病態生理を把握すること。
慢性の疾患を持ちながら生活をしていくという視点を常にもつこと。

オフィス・アワー

実習病院及び大学で対応をします。

講義コード	10780001
講義名	成人看護方法Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 かおり	指定なし

授業の概要

周手術期及び急性期にある対象の特徴について学ぶ。
手術が必要な対象に対しての看護援助の方法について理解を深める。
外科的治療を疾患別に学習し、その特徴や必要な看護の視点について学ぶ。

教育目標

周手術期及び急性期における対象の理解から看護方法の実践的知識を習得する。

到達目標

1. 周手術期及び急性期にある対象の看護上の問題を理解する。 2. 対象の健康の維持・増進及び健康障害からの回復に必要な看護方法について理解をする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	周手術期看護論	周手術期の考え方 概念や理論から考える周手術期看護の援助方法	
第2回	周手術期に起こる生体の変化	外科的侵襲からの回復期の生体反応、外科的侵襲の種類	
第3回	手術過程に応じた看護支援①	手術前・中の看護、麻酔導入前後の看護	
第4回	手術過程に応じた看護支援②	手術後の全身管理の方法、術後合併症について及び発症時の看護	
第5回	手術過程に応じた看護支援	術後の継続看護、術後看護のポイント	
第6回	手術過程に応じた看護支援④	回復期の看護、身体機能変化と必要となるセルフケア能力 リハビリテーション看護	

第7回	手術過程に応じた看護支援⑤	術後合併症の機序、看護のポイント	
第8回	各手術時の看護支援①	消化代謝器官に障害のある人の手術（上部消化管）	
第9回	各手術時の看護支援②	消化代謝器官に障害のある人の手術（下部消化管）	
第10回	各手術時の看護支援③	その他の消化管手術を受ける人の看護	
第11回	各手術時の看護支援④	運動器に障害のある人の手術（大腿骨頸部骨折等）	
第12回	各手術時の看護支援⑤	運動器に障害のある人の手術（脊髄疾患等）	
第13回	各手術時の看護支援⑥	脳神経器官に障害のある人の手術	
第14回	各手術時の看護支援⑦	脳神経器官に障害のある人の手術	
第15回	各手術時の看護支援⑧	排泄器官に障害のある人の手術	
第16回	各手術時の看護支援⑨	排泄器官に障害のある人の手術	
第17回	各手術時の看護支援⑩	感覚器官に障害のある人の手術（眼・耳・鼻）	
第18回	各手術時の看護支援⑪	感覚器官に障害のある人の手術（皮膚・神経系各種）	
第19回	各手術時の看護支援⑫	性・生殖器に障害のある人の手術	
第20回	各手術時の看護支援⑬	内分泌器官に障害のある人の手術	
第21回	看護過程の展開：演習①	事例による看護展開・事例による看護展開、まとめ等	
第22回	看護過程の展開：演習②	事例による看護展開・事例による看護展開、まとめ等	
第23回	各手術時の看護支援⑭	呼吸器官に疾患のある人の手術	
第24回	各手術時の看護支援⑮	呼吸器官に疾患のある人の手術	
第25回	各手術時の看護支援⑯	内視鏡的手術の適応のある人の手術	
第26回	各手術時の看護支援⑰	内視鏡的手術の適応のある人の手術	
第27回	周手術期専門部門での看護①	救急時の看護、ICU入室患者の看護（非常勤講師による講義）	桐生厚生総合病院ICU師長からの講義
第28回	周手術期専門部門での看護②	日帰り手術・外来での手術を必要とする人の看護	
第29回	周手術期専門部門での看護③	手術室看護と専門性について（非常勤講師による講義）	桐生厚生総合病院手術室師長からの講義

第30回	周手術期看護 のまとめ	周手術期の考え方 周手術期看護の援助方法 外科系実習での応用の仕方	
教科書			
「周手術期看護論」：ヌーベルヒロカワ、「急性期・周手術期Ⅰ」：中央法規			
参考書			
系統看護学講座 各科専門分野：医学書院、竹内登美子「術中/術後の生体反応と急性期看護」 医歯薬出版株式会社			
成績評価			
60点以上を合格とします。 筆記試験80%、レポート・演習等の課題内容20%			
授業時間外の学習			
講義資料を活用し、臨地実習でも使用できるようなノートを作成することを工夫して下さい。			
履修のポイント			
既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加をすること。			
オフィス・アワー			
在室時に対応をします。			

講義コード	10790001
講義名	成人看護学実習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 かおり	指定なし

授業の概要

1. 外科領域の病棟・手術室・ICUで実習を行う。2. 周手術期または急性期にある患者を受け持ち、看護過程の展開、必要な援助を考え、実施及び評価をする。

教育目標

成人各期の健康のあらゆる段階における患者の健康上の問題を理解し、健康の維持・増進、健康障害からの回復と社会復帰に向けて必要な看護の実践能力を養う。

到達目標

1. 周手術期及び急性期にある患者の特徴をふまえて、対象の理解をする。2. 手術を受ける患者の看護について理解をする。3. 回復過程の段階をふまえ、患者に必要な援助を考案し実施できる。4. 患者が健康の維持及び増進を図るための社会資源の活用と援助について理解をする。5. 患者を支える家族の役割を理解し、その家族をも含めた援助の必要性について理解をする。6. 保健医療チームの一員としての看護師の役割について理解をする。

授業計画

	授業内容
第1回	周手術期患者の特徴を知り看護援助を考え実施・評価・修正をする
第2回	成人各期の特徴をふまえて対象を理解する
第3回	障害された健康段階と健康障害の状況にある対象の理解をする
第4回	健康の維持・増進のための社会資源活用と援助について理解をする
第5回	各健康段階にある対象に対して必要な援助がわかり、実践ができる
第6回	急性期にある患者の特徴が述べられる
第7回	急性期にある患者の特徴を踏まえた看護の理解ができる
第8回	手術患者の特徴を理解し手術前・中・後に必要な看護が理解できる
第9回	手術後、身体機能に障害を持ちながら生活する人への理解を深める
第10回	保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を認識できる
第11回	病棟以外での看護を学ぶ（手術室）
第12回	病棟以外での看護を学ぶ（ICU・回復室）
第13回	病棟以外での看護を学ぶ（リハビリ室）

第14回	退院後の健康増進と生活の再構築について考え、セルフケア行動が確立できる退院時指導を患者及び家族にすすめることができる
第15回	退院後社会的資源の活用について考えることができる

教科書

「周手術期看護論」：ヌーベルヒロカワ
「急性期・周手術期Ⅰ」：中央法規

参考書

各種疾病に関する看護の書籍
成人看護方法論Ⅱで使用した資料等

成績評価

単位認定：60点以上
実習目標の達成度、実習記録、事前学習の内容、提出期限の厳守等によって総合的に、臨床指導者とともに評価をする。

授業時間外の学習

記録物を実習終了後、その日のうちにまとめること、翌日の実習に備えての予習及び資料等をそろえて下さい。
臨床側または大学から指導や課題を出された場合はその日のうちに行い翌日には結果を示して下さい。

履修のポイント

既存学習をふまえ、主体的・積極的に実習にのぞむこと。
受け持ち患者の病態生理を把握し現状をアセスメントすること。
患者の立場に立ち必要な看護援助の優先順位を決定すること。

オフィス・アワー

実習病院及び学内で対応をします。

講義コード	10800001
講義名	セルフケア論
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 豊田 省子	指定なし

授業の概要

セルフケア論の概要と背景を理解することで、その成り立ちと看護への活用方法を学ぶ。

教育目標

健康の保持増進のための正しい知識を理解し自らの健康を守るという「セルフケア論」を理解する。本授業ではオレムの看護理論をとりあげ、その理論的背景や概要を学ぶことでセルフケア論を理解する。

到達目標

1. セルフケア論の位置づけを知る。
2. オレムの看護論を通して、セルフケア論を理解できる。
3. 事例演習を通して、オレムの看護理論の活用方法を理解できる。

"

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	看護理論の中におけるセルフケア論の位置づけ	看護の本質と看護理論 各理論家における理論の中でのセルフケア論 看護理論に関する国家試験問題の紹介	講義
第2回	看護理論をわかるためにその骨組みを見てみよう	セルフケア論と看護理論 システム理論と看護理論 ドロセア・オレムの概念構造 基礎的前提 オレムは人間をどう見ているか（人間観） 理論的概念など	講義 ビデオ
第3回	オレムの看護理論における主要な概念とは何か	セルフケア 治療的セルフケア・デマンド セルフケア・エージェンシー セルフケア不足 看護エージェンシー 看護システム	講義

第4回	//	//	//
第5回	事例を用いてオレムの看護理論を理解しよう	事例紹介 対象の把握 援助について（看護目標・計画） セルフケアができない人に対する援助が看護師の役割	演習
第6回	//	//	//
第7回	//	//	//
第8回	まとめ ・患者が持っているセルフケア能力に着目しよう ・患者の自立を促す援助をしよう	エンパワメント 動機づけへの援助 意思決定への援助	講義

教科書

指定する教科書は特にありません。必要な教材は、授業資料として毎回配布します。

参考書

授業の中で、適宜紹介します。

成績評価

単位認定：60点以上

授業内小テスト40%、演習40%、課題レポート20%で総合的に評価します。再試験は実施しません。

授業時間外の学習

①毎回の授業をしっかりと聞くことが大切です。小テストでできなかったところは「復習」をして下さい。

②関連する科目としては、「看護学原論ⅠとⅡ」「看護技術学Ⅳ（看護過程演習）とⅤ（健康教育）」「基礎看護学実習Ⅰ（日常生活支援技術）とⅡ（看護過程の展開）」「機能看護学概論」などが考えられます。これらの科目との知識の統合を図りましょう。

履修のポイント

①看護理論は看護実践の道しるべとなるもので、さまざまな現象場面で揺るぎない考え方を示唆してくれます。積極的に討議に参加することで主体的に学び取って、自己の看護実践のいしずえにしていきましょう。

②毎回、自筆による「リアクション・ペーパー」の提出を求めます。その日の授業内容に即した感想・意見・要望・質問などが書かれていることによって、授業に出席したことを認めます。したがって白紙で提出された場合（出席証明にならない）や学籍番号と氏名が不一致の場合（個人の特定ができない）は、「欠席扱い」となります。リアクション・ペーパーは、「授業終了直後にのみ受領」します。後日の提出はできません。

オフィス・アワー

「授業内」あるいは「授業終了直後」に、教室で相談に応じます。

講義コード	10810001
講義名	クリティカルケア論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 陽子	指定なし

授業の概要

重症患者の多いクリティカルケア看護で最も要なことは全身管理の知識とその応用方法である。特に中枢神経、呼吸、循環、水・電解質その他に関する最新理論・知識を深める。また、過大侵襲を受け、クリティカルな状態に陥った患者および家族に対して必要な看護とは何かを論理的、かつ潜在的問題を客観的に判断・解決する方法を学ぶ。

教育目標

クリティカルケア看護の知識と実践能力を身につける

到達目標

- ・クリティカルケアについて理解できる
- ・クリティカルケアを必要とする患者家族のニーズが理解できる
- ・クリティカル患者のアセスメント、主要病態の特徴とケアが理解できる
- ・クリティカルケアの看護実践を支える理論的枠組みを説明できる

授業計画

	主題	授業内容
第1回	クリティカルケア看護について	クリティカル看護のスペシャリストの役割をDVDから看護実践の本質を理解する
第2回	クリティカルケア看護における患者・家族の反応	・ICU患者の心理的な過程を理解する ・家族のニードを理解する
第3回	クリティカルケア看護における臨床判断・問題解決	・臨床において原因を考える場合の思考法の特徴を理解する ・EBPとは何かを理解する
第4回	クリティカルケア看護におけるアセスメント	中枢神経系・循環動態・呼吸器系のアセスメントの実際を理解する
第5回	水と電解質のアセスメント	体液管理の基本と輸液療法について理解する
第6回	鎮静と沈痛 せん妄	・安楽を確保することの重要性を理解する ・適切な疼痛評価を理解する ・せん妄の特徴を理解する
	酸素療法と人工呼吸による	・酸素療法の種類とそれぞれの種類の長所と短所を理解する

第7回	サポート	・自然呼吸と人工呼吸の違いを理解する ・調節呼吸の違いを理解する
第8回	人工呼吸中の合併症予防	・人工呼吸器関連肺炎(VAP)とは何かを知る ・人工呼吸器関連肺炎(VAP)の一般的な予防法を理解する
教科書		
授業時に資料を配布する		
参考書		
・道又元裕ら．クリティカルケア看護学．医学書院・卯野木健．クリティカルケア看護入門．学研メディカル秀潤社 ・安酸史子ら．健康危機状況 ナーシング・グラフィカ．MCメディカ出版		
成績評価		
単位認定60点以上		

講義コード	10820001
講義名	精神看護学概論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 永井 道子	指定なし

授業の概要

精神医療看護の歴史と現状、人権尊重と倫理的配慮の重要性、及び看護師の役割について学ぶ。体験学習を通して精神の健康を保持増進するための看護援助方法を理解する。精神障がい者を支える精神保健福祉対策の現状と課題について考える。

教育目標

精神看護の歴史・現状・援助方法を学ぶことにより、精神看護を実践するための基礎的能力を修得する。

到達目標

- 1.精神医療看護の歴史と現状を理解し、今後の課題について考えることができる。
- 2.精神看護を展開する上で基本となる様々な看護理論について理解できる。
- 3.精神看護において患者と看護師の人間関係が重要であると理解できる。
- 4.心の健康を保持増進させるための援助方法について理解できる。
- 5.精神障がいに関係する法制度について理解できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	メンタルヘルスの現状と課題	精神/心の健康 世界と日本におけるメンタルヘルスの現状
第2回	精神医療看護の歴史	欧米における精神医療看護の歴史 日本における精神医療看護の歴史
第3回	精神看護における援助方法①	精神看護の主な理論 患者-看護師関係 信頼関係の確立
第4回	精神看護における援助方法②	危機の概念と危機介入 リエゾン精神看護 リラクセーション技法
第5回	看護カウンセリング①	心の健康と人間関係
第6回	看護カウンセリング②	自己理解と自己表現
第7回	看護カウンセリング③	傾聴、受容、共感
		地域精神保健活動

第8回	精神保健福祉の現状と看護活動	法制度
教科書		
武井麻子・他『《系統看護学講座 専門分野Ⅱ》精神看護学〔1〕精神看護の基礎』（医学書院）		
参考書		
授業中に紹介します。		
成績評価		
単位認定：60点以上 筆記試験（50％）、課題レポート（20％）、授業後の振り返りレポート（20％）、受講態度（10％）を合計して評価する。		
授業時間外の学習		
課題レポートを作成する。予習復習を行う。		
履修のポイント		
講義と体験学習により、心の健康と看護について深く考えることができるように授業を進めていきます。積極的に授業に参加してください。		
オフィス・アワー		
随時。事前にメールでアポイントをとってください。		

講義コード	10830001
講義名	精神看護方法
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 光子	指定なし

授業の概要

精神看護学概論で学んだ知識をもとに、精神疾患を有する人、または精神的困難を抱えている人を理解し、多角的にアセスメントを行い、ケアプランを立案できる能力を養う。更に精神疾患を持つ人や家族に対して、看護が果たす役割と課題を習得することを目指す。

教育目標

精神疾患及び精神的困難を持つ人について理解でき、必要な看護を実践するための知識とアセスメント技術および看護実践の方法を習得する。

到達目標

1. 精神を病む人の生活背景を尊重し、その心理を理解して看護の役割について考えることが出来る。
2. 精神科看護における治療的コミュニケーションについて理解する。
3. 事例を通して看護の展開方法を理解する。
4. 当事者の体験から、自己の看護観を育み、生活者としての視点を理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	ケアの人間関係	ケアの原則 ケアの方法 患者－看護師間でおこること
第2回	精神障害をもつ人の抱える症状と診断	精神症状の分類と症状 精神科的診察と検査
第3回	主な精神疾患	主な精神症状・障害
第4回	精神科における看護の役割	入院治療の意味を理解する 治療的環境 安全を守る
第5回	精神科における看護の役割	緊急事態に備える 精神科におけるリハビリテーション 回復得お支えるさまざまな方法
第6回	精神科における看護の役割	退院支援 訪問看護

第7回	身体ケア	精神科の治療と身体ケアの実際
第8回	身体ケア	身体合併症 日常生活援助
第9回	地域における精神看護	地域で生活するための原則 生活を支える制度 地域における看護の実際
第10回	災害時の精神保健	災害時地域精神保健医療活動 こころのケア
第11回	精神科での代表的な看護	幻覚・妄想状態にある患者の看護 無為・自閉状態にある患者の看護 他
第12回	統合失調症の人の看護	精神障害をもつ人とのコミュニケーション 精神障害をもつ人との関係の振り返り・プロセスレコード
第13回	統合失調症の人の看護	情報収集・アセスメント・看護問題・援助計画 看護過程の展開
第14回	統合失調症の人の看護	看護過程の展開
第15回	当事者の方の体験	伊勢崎地域活動支援センターの概要 当事者としてのピアカウンセラー

教科書

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学2 医学書院
2. 全人的視点にもとづく精神看護過程 白石壽美子・武政奈保子編 医歯薬出版株式会社

成績評価

単位認定：60点以上 筆記試験70%＋授業内におけるレポート・参加態度30%

授業時間外の学習

精神看護学演習、精神看護学実習の基盤となる知識であるため、配布資料やテキストの熟読を予・復讐として、勧めます。

履修のポイント

授業には主体的・積極的に参加してください。

オフィス・アワー

在室時常に対応いたします。

講義コード	10840001
講義名	精神看護学実習
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 光子	指定なし

授業の概要

1. 精神看護学領域の病棟・地域活動支援センターにおいての実習を行う。
2. 精神疾患で入院中の患者を受け持ち、看護過程の展開・セルフケアを踏まえた援助を考え実施・評価する。

教育目標

精神に障がいを持つ人を、一人の生活者として捉える視点を養い、その人のセルフケア能力を高める看護の実際を学ぶ。さらに、地域で生活を営む上での必要な援助を理解する。

到達目標

1. 身体的・心理的・社会的側面から対象を理解することができる。
2. 対象とのかかわりを通し、コミュニケーションスキルを高めることができる。
3. 対象の個別性を考慮し、援助を実践することができる。
4. 地域保健活動の重要性を理解し、チーム医療や看護者の役割を学ぶことができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	精神看護学領域実習を行う。	・事前学習を行い疾病等の知識をもつことができる。 ・対象のプロファイルを把握して、情報収集することができる。 ・薬物の作用・副作用を知り、注意事項や観察点を把握することができる。 ・対象の持てる力・問題点を知ることができる。 ・対象の個別性を考えた、看護の方向性を見出すことができる ・精神障がい者の対人関係の特徴を知り、基本的コミュニケーション技法をもとに関係を築くことができる。 ・プロセスレコードから自分の言動を振り返ることができる。 ・対象の人権を尊重し、安全・安楽に考慮した援助をすることができる。 ・地域支援活動の必要性と、その実際を知ることができる。 ・精神に障害がある人が地域で生活することの意義を知ることができる。
第2回	同上	同上

第3回	同上	同上
第4回	同上	同上
第5回	同上	同上
第6回	同上	同上
第7回	同上	同上
第8回	同上	同上
第9回	同上	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	同上	同上
第15回	同上	同上
第16回	同上	同上
第17回	同上	同上
第18回	同上	同上
第19回	同上	同上
第20回	同上	同上
第21回	同上	同上
第22回	同上	同上
第23回	同上	同上
第24回	同上	同上
第25回	同上	同上
第26回	同上	同上
第27回	同上	同上
第28回	同上	同上
第29回	同上	同上
第30回	同上	同上

教科書

系統的看護学講座 精神看護の展開 精神看護学2：医学書院
全人的視点にもとづく精神看護過程 白石壽美子ほか：医歯薬出版会社

参考書

今日の治療薬 2016 南江堂（貸出あり）
多飲症・水中毒 ケアと治療の新機軸 医学書院（貸出あり）

成績評価

単位認定60点以上 実習目標の達成度、実習録記録、事前学習の内容などによって総合的に評価する。

授業時間外の学習

その日のうちに、臨地で学んだ内容や看護展開などの記録物は整理して、翌日の実習に備えてください。

履修のポイント

事前学習を活かして、主体的・積極的に臨地実習に参加してください。

オフィス・アワー

在室時・実習場所で随時対応します。

講義コード	10850001
講義名	高齢期看護学概論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	5 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 圭子	指定なし

授業の概要

65歳以上の高齢者が増加し、医療、福祉に関する話題は社会的関心事になっている。本授業では、高齢者を理解するために必要な知識を学習する。さらに高齢者を取り巻く社会環境とその課題について学ぶ。

教育目標

高齢者の特徴を学び、高齢社会の現状を理解する。特に加齢にともなう生理的变化や高齢者看護の基本的考え方を理解する。

到達目標

1. 老いについて学び、高齢期の発達課題を理解できる
2. 高齢社会の現状を理解できる
3. 高齢者看護の基本的考え方を理解できる
4. 高齢者の加齢による変化を理解できる

授業計画

	主題	授業内容
第1回	高齢者とは？	1. 老いとは？ 2. 老年期とは？ 3. 老年期の発達課題
第2回	高齢者を取り巻く社会①	1. 高齢化の特徴 2. 高齢者医療
第3回	高齢者を取り巻く社会②	1. 高齢者の介護・福祉 2. 高齢社会における権利擁護
第4回	高齢者の特徴	1. からだ 2. こころ 3. 関わり 4. 暮らし 5. 生きがい 6. 歳月の積み重ね
第5回	高齢者看護の理念と目標	1. 高齢者看護の理念 2. 高齢者看護の目標 3. 理論・概念の活用
第6回	高齢期看護学における対象者理解①	1. 対象の特性 2. 対象理解 3. 対象理解に活用できる指標・アセスメント

第7回	高齢期看護学における対象者理解②	1. 加齢による身体機能の変化 2. 加齢による精神機能の変化
第8回	生活療養の支援と尊厳ある介護と看取り	1. 老年症候群 2. 廃用症候群 3. 尊厳ある介護 4. 尊厳ある看取り

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子他著 医学書院

参考書

ナーシンググラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害 堀内ふき他著 メディカ出版

成績評価

単位認定60点以上。授業内確認テスト20%、学期末試験80%。

授業時間外の学習

配布資料を整理し、本日の授業のまとめの項目について復習する。

履修のポイント

授業の復習が重要です。身近な高齢者に目を向けて考えてください。

オフィス・アワー

金曜日 12時30分～13時20分
在室時に対応します。

講義コード	10860001
講義名	高齢期看護方法
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 圭子	指定なし

授業の概要

高齢期を生きる人々の持つ多様な特性の理解を深める。高齢期の人々の正常な健康状態および正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する知識を学ぶ。さらに、高齢期にある人間の顕在する健康上の問題を解決・回避をめざした健全な発達を支援するための方法を学習する。この過程を通して効果的な看護を展開するための知識・技術を活用することの重要性を学習する。

教育目標

高齢期にある人々の健全な発達支援に向け、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する

到達目標

1. 高齢期の人々の健康問題のアセスメントに必要な知識・技術を理解する 2. 高齢期の人々の健康問題の解決・緩和・回避に向けた支援方法を理解する 3. 高齢期の人々の健康問題を解決・緩和・回避するために必要な看護技術を修得する 4. 臨地実習で遭遇する頻度の高い事例を通して、個別に応じた看護過程の展開を修得する 5. 高齢期を生きる人々の健康状態と権利擁護について理解する

授業計画

	主題	授業内容
第1回	老年看護とは	1. 日本における高齢化 2. 高齢期看護の対象 3. 高齢者の生活機能の考え方 4. 高齢者ケアの特徴
第2回	看護過程 健康認識－健康管理	1. 看護過程の基本的な考え方 2. 情報収集とアセスメントの視点 3. 看護過程 4. 健康認識－健康管理パターン
第3回	高齢者の栄養－代謝①	1. 栄養－代謝パターンのアセスメント 2. 摂食嚥下障害
第4回	高齢者の栄養－代謝②	1. 脱水 2. 皮膚障害 3. 看護ケア
第5回	高齢者の排泄	1. 高齢者の排泄パターンのアセスメント 2. 排泄障害 3. 看護ケア
第6回	高齢者の活動－運動 高齢者の睡眠－休息	1. 高齢者の活動－運動パターンのアセスメント 2. 運動機能障害 3. 高齢者の睡眠－休息パターンのアセスメント 4. 睡眠障害

第7回	高齢者の認知－知覚	1. 高齢者の認知－知覚パターンのアセスメント 2. 認知障害 3. 看護ケア
第8回	高齢者の自己知覚－自己概念 高齢者の役割－関係	1. 高齢者の自己知覚－自己概念パターンのアセスメント 2. 高齢者の役割－関係パターンのアセスメント 3. 看護ケア
第9回	高齢者の性－生殖 高齢者のコーピング－ストレス耐性 高齢者の価値－信念	1. 高齢者の性－生殖パターンのアセスメント 2. 高齢者のコーピング－ストレス耐性パターンのアセスメント 3. 高齢者の価値－信念パターンのアセスメント 4. 看護ケア
第10回	高齢者の生活機能を支える看護	1. 基本動作と転倒予防 2. 清潔ケアと皮膚障害
第11回	疾患をもつ高齢者への看護ケア①	1. 脳血管疾患をもつ高齢者の看護ケア 2. 神経系疾患をもつ高齢者の看護ケア 3. 心疾患をもつ高齢者の看護ケア
第12回	疾患をもつ高齢者への看護ケア②	1. 運動器系疾患をもつ高齢者の看護ケア 2. 腎疾患をもつ高齢者の看護ケア
第13回	疾患をもつ高齢者への看護ケア③	1. 感染症をもつ高齢者の看護ケア 2. 認知症をもつ高齢者の看護ケア
第14回	検査・治療を受ける高齢者への看護ケア	1. 検査と看護ケア 2. 薬物療法と看護ケア 3. 手術療法と看護ケア
第15回	終末期の看護ケア	1. 高齢者における終末期ケア
第16回	在宅高齢者の看護ケア	1. 介護予防 2. 訪問看護 3. 保健医療福祉施設における看護
第17回	家族ケア	1. 介護家族の生活の健康 2. 家族アセスメント
第18回	看護過程の展開①	1. グループワークの進め方 2. 事例紹介
第19回	看護過程の展開②	情報整理
第20回	看護過程の展開③	アセスメント
第21回	看護過程の展開④	関連図作成
第22回	看護過程の展開⑤	関連図作成
第23回	看護過程の展開⑥	1. 看護上の問題の抽出 2. 優先順位の決定関連図作成
第24回	生活支援技術①	移乗・移動の援助方法
第25回	看護過程の展開⑦	看護計画作成
第26回	生活支援技術②	嚥下障害のある患者への援助方法
第27回	看護過程の展開⑧	1. 看護計画作成 2. 看護過程発表の準備
第28回	生活支援技術③	排泄障害のある患者への援助方法
第29回	看護過程の展開⑨	1. 看護過程の発表 1) 情報整理 2) アセスメント
第30回	看護過程の展開⑩	1. 看護過程の発表 1) 関連図 2) 看護計画

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子 医学書院
生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 奥宮暁子他著 医歯薬出版株式会社

参考書

系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 佐々木英忠他編集 医学書院

成績評価

単位認定60点以上。学期末試験80% 課題レポート10% 看護過程10%

授業時間外の学習

講義後はノートを整理する。演習前に事前学習を行ない、演習後は事後レポートを提出する。看

護過程発表に向けて準備する。
履修のポイント
講義後は復習、演習前は事前学習が必要となります。グループワークでは協働作業が必要です。
オフィス・アワー
金曜日 12時30分～13時20分 在室時に対応します

講義コード	10870001
講義名	高齢期看護学実習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 圭子	指定なし

授業の概要

地域で生活するいわゆる健康な高齢者と触れ合い、身体的状態・家庭・社会的状態など（客観的QOL）と高齢者の主観的満足感・生きがいなど（主観的QOL）の両面を把握する。また高齢者の生きがい、個別性、エンパワーメントを知ること、医療倫理の原則で最も重要な患者の自己決定権（個の尊厳、人権擁護）の必要性を理解する。

教育目標

地域で生活するいわゆる健康な高齢期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、生活習慣と健康との関連、さらに生活者としての高齢者支援を考えた個別性の看護の意義を学ぶ

到達目標

1. 高齢期にある人の生活史を理解する
2. 高齢期にある人の生活状態を理解する
3. 高齢期にある人の健康状態と健康増進への取り組みについて理解する
4. 高齢者への社会支援の役割を理解する
5. 高齢者の個別性を理解する

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	学内実習	オリエンテーション・グループ別演習	
第2回	臨地実習	地域の高齢者の活動、コミュニケーションを通して高齢期にある人の生活史、生活状態、健康状態と健康増進への取り組みを理解する	老人クラブ連合会
第3回	臨地実習	1. デイサービス・デイケアを利用している高齢者の健康状態・生活状況を知る 2. デイサービス・デイケアの役割を理解し、利用している高齢者の通所目的を知る 3. アクティビティケアに参加観察する	通所介護施設・通所リハビリテーション施設等

第4回	臨地実習	1. デイサービス・デイケアを利用している高齢者の健康状態・生活状況を知る 2. デイサービス・デイケアの役割を理解し、利用している高齢者の通所目的を知る 3. アクティビティケアに参加観察する	通所介護施設・通所リハビリテーション施設等
第5回	学内実習	グループ別演習・実習のまとめ	

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子他著 医学書院

参考書

ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 堀内ふき他著 メディカ出版

成績評価

単位認定60点以上。実習評価・実習態度・指導者評価を総合的に判断する。

授業時間外の学習

実習前の事前課題を十分学習することが必要である。実習時の記録を整理する。

履修のポイント

事前学習、グループワーク、臨地実習で構成されています。臨地実習前の事前学習やグループワークが重要です。積極的に各々参加してください

オフィス・アワー

金曜日：12時30分～13時20分
在室時是对应します。

講義コード	10880001
講義名	高齢期看護学実習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 圭子	指定なし

授業の概要

健康障害をもつ高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。高齢者にとっての健康障害の状況や生活機能障害の状況を踏まえたうえで、個別性の看護計画を立案し、実施・評価・修正する。高齢者への看護実践を通して、高齢者の自己決定の尊重やその人らしい生き方、尊厳について考える。

教育目標

高齢期にある対象の発達課題と特徴、高齢者を取りまく環境に基づいて対象を理解する。また健康レベルに応じた自立への支援と、高齢者が人間としての尊厳を保ち、高齢者の生活の質を考慮した看護が提供できる

到達目標

- 1 高齢期にある対象の発達課題と特徴、高齢者を取り巻く環境にもとづいて対象を理解する
- 2 高齢期にある対象の顕在・潜在する看護問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントする
- 3 高齢期にある対象の顕在・潜在する看護問題の解決にむけた個別的看護計画を立案・実施・評価する
- 4 看護実践を通して、看護の意義を理解する

授業計画

	主題	授業内容
第1回	学内実習・臨地実習	オリエンテーション・事前課題・情報収集
第2回	臨地実習	情報収集・アセスメント
第3回	臨地実習	情報収集・アセスメント
第4回	臨地実習	関連図・看護問題抽出
第5回	学内実習	看護計画立案・個別面接
第6回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正
第7回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正
第8回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正
第9回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正
第10回	学内実習	個人面接・記録・まとめ

教科書
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子他著 医学書院 生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 奥宮暁子他著 医歯薬出版株式会社
参考書
看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 泉キヨ子他著 メヂカルフレンド社 根拠と事故防止からみた老年看護技術 亀井智子編 医学書院
成績評価
単位認定60点以上 実習評価（教員・指導者）、実習態度、実習記録、面接に基づき総合的に評価する
授業時間外の学習
事前学習および毎日の実習記録を整理する。
履修のポイント
臨地実習でできなかったことは調べて自己の知識とする。
オフィス・アワー
金曜日 12時30分～13時20分 在室時に対応します

講義コード	10890001
講義名	在宅看護学概論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 永井 道子	指定なし

授業の概要

現在わが国は少子・高齢社会、人口の減少、医療資源の有効活用など様々な課題を抱えています。医療制度改革においても病院から在宅への円滑な移行が進められています。また、療養者には、できる限り住み慣れた地域で家族や友人と暮らし続けたいというニーズがあります。これらの社会情勢や療養者のニーズに対応するため、在宅看護の必要性は高まっています。在宅看護の特徴、展開方法及び制度など、在宅で療養する人々を看護するうえで必要となる基本的な知識について学びます。

教育目標

在宅看護の特徴・制度・現状・看護展開方法を学ぶことにより、在宅看護を実践するための基礎的能力を修得する。

到達目標

1. 在宅看護が目指す方向性と看護師の役割について理解できる。
2. 在宅看護の対象者の特徴と看護の必要性について理解できる。
3. 在宅看護に関連する諸制度の内容について理解できる。
4. 在宅看護過程を展開するための情報収集とアセスメント方法について理解できる。
5. 在宅療養者と家族を支える社会資源の種類や関係職種を知り、連携の必要性と連携方法について理解できる。
6. 在宅看護の現状を学ぶことにより、在宅看護（訪問看護）が抱える問題と課題について考えることができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	生活の場での療養	地域で生活しながら療養すること
第2回	在宅看護の目的と特徴	在宅看護の目的 看護師の役割と機能
第3回	在宅看護の対象者	在宅療養者 家族
第4回	在宅看護の制度	訪問看護制度 介護保険制度 地域包括ケアシステム
		在宅看護過程の特徴

第5回	在宅看護の展開①	在宅看護過程の展開方法
第6回	在宅看護の展開②	多職種との連携 安全性の確保
第7回	在宅看護の展開②	災害時の在宅看護 対象者の権利保障
第8回	まとめ	まとめ

教科書

秋山正子・他『《系統看護学講座 統合分野》在宅看護論(第4版)』(医学書院)

参考書

岡崎美智子『根拠がわかる在宅看護技術(第2版)』(メヂカルフレンド社)
 臺有桂・他編『ナースング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア(第5版)』(メディカ出版)

成績評価

単位認定：60点以上
 筆記試験（50%）、課題レポート（30%）、受講態度〔参加・貢献度〕（20%）を合計して評価する。

授業時間外の学習

教科書を読み予習復習を行う。課題レポートを作成する。

履修のポイント

在宅看護に関する基本的知識について学びます。積極的に授業に参加してください。日々の在宅療養に関するニュースや新聞記事に関心をもってください。

オフィス・アワー

随時。事前にメールでアポイントをとってください。

講義コード	10900001
講義名	在宅看護方法
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 永井 道子	指定なし

授業の概要

在宅における看護展開方法と技術について学ぶ。療養者と家族を対象に、基礎看護学、成人看護学、老年看護学等で学んだ内容を応用して、在宅における看護援助を考える。演習では事例をもとに看護過程を展開する。グループで療養者と家族を対象にした看護援助方法について話し合い、看護計画を立て、ロールプレイを行う。実施後に振り返りを行い評価する。

教育目標

在宅看護の技術について学び、事例をもとに看護過程を展開することにより、在宅看護を実践するための基礎的知識と技術を修得する。

到達目標

1. 療養者と家族の生活を尊重した在宅での援助が理解できる。
2. 家族の負担が軽減できるよう支援することの必要性が理解できる。
3. 在宅で求められる看護技術について理解できる。
4. 在宅における医療管理を必要とする看護について理解できる。
5. 事例をもとに在宅看護過程を考えることができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	在宅看護の展開方法	信頼関係の構築 「生活」の視点 在宅療養者と家族のニーズ 在宅看護介入時期別の特徴
第2回	在宅看護の技術①	呼吸機能／食生活・嚥下／排泄
第3回	在宅看護の技術②	移動・移乗／清潔
第4回	在宅看護の技術③	認知機能／終末期看護
第5回	在宅における医療技術①	褥創／尿道留置カテーテル／ストーマ（人工肛門・人工膀胱）／経管栄養
第6回	在宅における医療技術②	在宅中心静脈栄養法（HPN）／非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）／在宅酸素療法（HOT）／在宅人口呼吸療法（HMV）／疼痛コントロール
第7回	在宅看護過程	事例展開

第8回	在宅看護過程	事例展開
第9回	在宅看護過程	事例展開
第10回	在宅看護過程	事例展開
第11回	在宅看護過程	事例展開
第12回	在宅看護過程	事例展開
第13回	在宅看護過程	事例展開
第14回	在宅看護過程 まとめ	在宅看護過程発表 まとめ
第15回	在宅看護における他職種との連携とケアマネジメン	関連職種とその役割 ケアマネジメントの過程

教科書

秋山正子・他『《系統看護学講座 統合分野》在宅看護論(第4版)』(医学書院)

参考書

岡崎美智子『根拠がわかる在宅看護技術(第2版)』(メヂカルフレンド社)
 臺有桂・他編『ナースング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア(第5版)』(メディカ出版)

成績評価

単位認定：60点以上
 筆記試験（50%）、課題レポート（30%）、受講態度〔参加・貢献度〕（20%）を合計して評価する。

授業時間外の学習

教科書を読み予習復習を行う。課題レポートを作成する。

履修のポイント

在宅における看護技術と看護過程について学びます。グループワークを行いますので、積極的に参加してください。

オフィス・アワー

随時。事前にメールでアポイントをとってください。

講義コード	10910001
講義名	在宅看護学実習
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 永井 道子	指定なし

授業の概要

在宅看護の特徴は、対象となる人々とその家族の「生活」の場で看護を展開するという点にある。そのため、人々の生き方、生活、健康に対する価値観や主体性を尊重しながら、自立支援や自己決定という視点をもち、療養生活の維持と質の向上を図ることが在宅看護の目的となる。在宅看護学実習では、訪問看護ステーションの看護師に同行し、疾病や障害をもちながら、在宅で生活する人の看護や介護の実際にふれ、在宅療養生活をおくる対象者の特徴や支援方法について学ぶ。さらに、在宅関連施設での実習を通し、在宅ケアシステムや社会資源の活用・調整方法、施設看護と在宅看護の連携や継続看護について学習し、保健医療福祉の様々な職種の人々との連携や協働の必要性、その中での看護の役割について学習する。学内実習では関連施設での学びを共有し在宅療養者の看護事例を通して学習を深める。

教育目標

在宅療養者及びその家族における健康障害と生活への影響を総合的にとらえ、在宅看護の特徴を理解する。在宅療養者及び家族の特性に応じた看護を実践するための基礎的能力を修得する。

到達目標

1. 療養者の健康障害が生活行動や人間関係などに及ぼしている影響を総合的に理解できる。
2. 在宅療養者及び家族のケアニーズを理解した上で療養と生活の調整を行うことの重要性が理解できる。
3. 在宅療養における家族の状況と役割を知り、家族を対象とした看護の必要性が理解できる。
4. 在宅療養者及び家族の個別性と主体性を尊重した看護計画が立案できる。
5. 在宅で療養生活を送る対象者とその家族の生活を支援する社会保障制度及び社会資源の活用方法が理解できる。
6. 在宅ケアチームとの連携とチームにおける看護職の役割・機能が理解できる。
7. 看護学生として看護専門職の自覚を持ち、実習に積極的に取り組むことができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	実習計画	実習方法：訪問看護ステーション4日、居宅支援事業所1日、在宅関連施設2日、学内で3日（オリエンテーション、最終まとめ含む）実習する。 実習施設：群馬県内の訪問看護ステーションと在宅療養者が利用する居宅サービス提供施設（デイサービス・通所リハビリテーション施設など）
	(4日)	

第2回	間) 訪問看護ステーション	看護師と同行し、訪問事例の看護過程を展開し、在宅療養者の看護ケアを行う。
第3回	(2日間) 在宅関連施設での実習	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等では相談・調整・訪問活動等の見学を通して対象の理解を深め、対象の特性に応じた援助方法を学ぶ。関係機関・職種の連携協働の実践方法とそれぞれの果たす役割を理解する。
第4回		実習中のカンファレンス、報告会等を通じて学習体験を共有し、さらに学内カンファレンスでは、実習記録の整理を行い、学習内容を共有し、学びを深める。 実習最終日には実習のまとめ及び反省会を行う。 ＊ 実習記録、課題レポートをまとめ、学習を整理する。 (1) 在宅療養者とその家族の特性をふまえた看護のあり方について (2) 対象が地域で生活するためのケアシステム・社会資源および関係機関・職種の連携のあり方について (3) 在宅看護学実習で学んだこと、気づいたこと（最終レポート） 3年生前後期の実習期間にローテーションで行う。 実習施設、実習スケジュール等については実習開始時期に提示する。

教科書

在宅看護論実習要項を配布する。

秋山正子・他『＜系統看護学講座 統合分野＞在宅看護論(第4版)』（医学書院）

参考書

岡崎美智子『根拠がわかる在宅看護技術(第2版)』（メヂカルフレンド社）

臺有桂・他編『ナースング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア(第5版)』（メディカ出版）

成績評価

単位認定：60点以上

実習目標の達成状況：40%，最終レポート：10%，実習状況（実習指導者からの評価）及び実習態度：30%，出席状況：20%

授業時間外の学習

事前学習（実習記録）は、実習初日までに完成させ、実習中に活用する。また日常生活援助技術を経験することが多いため、実習前や学内実習日を活用しよく練習を行っておく。在宅看護概論で学習した訪問看護に関連する制度、介護保険制度の復習をしておく。

履修のポイント

在宅看護学実習の対象者は小児から高齢者まで幅広く、疾患もさまざまである。また、対象者の家族や取り巻く環境や地域も看護の対象となる。病院や施設における実習で学んだ知識・技術を最大限に活用し、在宅療養生活を援助する看護について学びを深める。

講義コード	10920001
講義名	公衆衛生看護学概論
(副題)	【教職必修】 【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	2 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 檀原 三七子	指定なし

授業の概要

公衆衛生看護学の理念、歴史的背景や地域保健活動の変遷等を踏まえ、地域住民の健康レベルやQOLの向上のために公衆衛生看護の果たす役割や期待される能力について理解する。また、諸外国の公衆衛生看護活動や国際協力のあり方および多国籍化する地域住民への取り組みについて学習する。

教育目標

地域を基盤とした公衆衛生看護の考え方に焦点を当て、対象の捉え方、住民の生活環境と健康課題、多様化する社会現象と健康課題に対応する保健師の役割について理解することが目的である。

到達目標

- 1) 個人・家族・集団・地域を対象とした看護領域であることを理解できる。
- 2) 地域で生活する人々の健康課題について考えることができる。
- 3) 地域の健康課題と保健計画について理解できる。
- 4) 地域看護活動における集団的支援・個別的支援について説明できる。
- 5) 地域看護活動における現状の問題を踏まえて今後の課題について説明できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	"授業ガイダンス 公衆衛生看護学の理念"	"・公衆衛生看護の定義 ・公衆衛生看護の理念 "
第2回	公衆衛生の理念	"・健康の定義 ・疾病予防（一次、二次、三次予防）の概念 ・ヘルスプロモーション"
第3回	公衆衛生の概念	"・ソーシャルキャピタルとは ・健康日本21"
第4回	公衆衛生看護の倫理	"・保健師の活動と倫理的問題 ・情報社会における倫理と保護"
第5回	公衆衛生看護の対象	・個人、家族、グループ・組織、地域を活動の対象とする捉え方

第6回	公衆衛生看護活動の場	"・保健所、市町村、福祉分野における保健師の活動 ・医療施設と社会福祉施設における保健師"
第7回	社会情勢の変化と健康課題(1)	"・人口構成及び疾病構造の変化 ・経済や産業構造の変化と健康課題 "
第8回	社会情勢の変化と健康課題(2)	"・地球環境、生活環境の変化と健康への影響 ・自然災害と健康 ・健康課題解決のための資源 (中間テスト) "
第9回	公衆衛生看護活動の展開(1)	"・公衆衛生看護活動の展開の基本 ・地域診断に基づくP D C Aサイクル"
第10回	公衆衛生看護活動の展開(2)	・保健計画の策定と実践、評価
第11回	公衆衛生看護活動の展開(3)	・健康危機管理とリスクマネジメント
第12回	公衆衛生看護の歴史(1)	・日本における公衆衛生看護活動の歴史
第13回	公衆衛生看護の歴史(2)	・外国の公衆衛生看護活動の歴史
第14回	公衆衛生看護の国際的視点	"・国際協力と公衆衛生 ・多文化共生社会における健康課題"
第15回	総括	"・公衆衛生看護管理 ・まとめ（まとめテスト）"

教科書

標美奈子・他『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論(第4版)』（医学書院）

参考書

(1)国民衛生の動向（厚生労働統計協会）(2)保健師業務要覧（日本看護協会保健師職能委員会）(3)公衆衛生（MCメディカ出版）※教科書の補足資料として、使用します。

成績評価

単位認定：60点以上

定期試験（中間＋まとめ）50％ ミニテスト＋レポート50％

履修のポイント

公衆衛生看護は法律に基づくものが多いので、関連づけて覚えるといいでしょう。頻回にミニテストやレポート課題を出しますので、提出を忘れずにしてください。

講義コード	10930001
講義名	公衆衛生看護活動論Ⅰ
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 檀原 三七子	指定なし
教員	鈴木 裕子	指定なし

授業の概要

公衆衛生看護活動の方法として、地域アセスメント、地域診断について学習し、地域の健康課題を把握し、適切な支援方法について学習する。

教育目標

地域で生活する個人、家族、集団、組織を対象として、様々な健康レベルや地域の特性に応じた健康の保持増進と障害予防支援のため理論、知識、技法について理解することが目的である。

到達目標

- 1) 公衆衛生看護活動の実践のための基本的な技術、方法について理解する。
- 2) 地域診断の意義と方法について説明できる。3) 地域特性を把握する視点を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	公衆衛生看護活動論ガイダンス 地域診断①	・授業の進め方・コミュニティーの捉え方・地域診断とは
第2回	//	//
第3回	地域診断②既存資料の活用	・保健医療福祉関連の統計資料とその活用・地域把握の方法と実際
第4回	//	//
第5回	地域診断③地域アセスメントの健康課題の抽出	・収集した情報や資料から、地域の健康課題を抽出 ・わかりやすい地域の資料をつくる
第6回	//	//
第7回	地域診断④地域の健康課題とその対応	・地域の特性を生かした健康対策の周知方法・地域診断のまとめと発表【ミニテスト】
第8回	//	//
第9回	コミュニティーへの支援①	・健康教育とは・集団健康教育と保健師役割
第10回	//	//

第11回	コミュニティへの支援②	・健康教育の企画書と指導案の作成
第12回	//	//
第13回	コミュニティへの支援③	・健康教育の実践 ・健康教育【ミニテスト】
第14回	//	//
第15回	コミュニティへの支援④	・計画した健康教育の共有化（発表）
第16回	//	//
第17回	集団・組織への支援①	・集団健診と検診のありかた・事後のフォローアップ方法 ・ポピュレーションアプローチとは
第18回	//	//
第19回	集団・組織への支援②	・地域活動計画・事業計画の策定（計画・実践・評価） ・施策化と予算
第20回	//	//
第21回	集団・組織への支援③	・保健師がかかわる組織・グループとは ・組織化活動およびグループ支援と保健師の役割
第22回	//	//
第23回	集団・組織への支援④	・地域ケアシステムと保健師の役割【ミニテスト】
第24回	//	//
第25回	個人・家族への支援①	・家庭訪問とは ・家庭訪問の法的根拠・家庭訪問による支援計画と方法、評価
第26回	//	//
第27回	個人・家族への支援②	・健康相談（保健指導）とは ・健康相談（保健指導）の設定と支援方法、評価
第28回	//	//
第29回	公衆衛生看護に関する動向	・公衆衛生職員の養成とその動向 【まとめテスト】
第30回	//	//

教科書

中村裕美子・他『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』（医学書院）
 標美奈子・他『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論(第4版)』（医学書院）

参考書

『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）
 エリザベス T. アンダーソン他・編『コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際（第2版）』（医学書院）

成績評価

単位認定：60点以上
 定期試験（50％） 記録（レポート含む）30％ プレゼンテーション20％

授業時間外の学習

授業に必要な資料を事前に準備していただくことがあります。発表の準備等が間に合わない場合は、宿題にします。

履修のポイント

保健師課程の科目です。グループワークが多いので、欠席しないで協調性をもって臨んでください。3年生の実習との調整で、授業担当、授業内容の変更がある場合があります。その都度、連絡します。

講義コード	10940001
講義名	公衆衛生看護活動論Ⅱ
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 美砂子	指定なし

授業の概要

あらゆる発達段階、健康状態に対応する保健活動として、地域の母子保健活動、成人・高齢者保健活動、障害者（児）保健活動、精神保健活動、難病保健活動、感染症保健活動等の実際を学ぶ。各種保健活動における関係機関と職種の協働と連携の重要性について理解をする。

教育目標

あらゆる発達段階、健康状態に対応する保健活動の対象者の特性と社会背景、活動の基盤となる法律や制度について学習し、保健師の具体的な活動について理解を深めることが目的である。

到達目標

1) 地域における母子保健活動について理解する。2) 地域における成人保健活動について理解する。3) 地域における高齢者保健活動について理解する。4) 難病保健活動について理解する。5) 精神保健福祉活動について理解する。6) 障害者（児）保健活動について理解する。7) 感染症保健活動について理解する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	授業ガイダンス 地域の母子保健活動(1)	・授業の進め方、公衆衛生看護学実習に向けた事前学習の意義 ・統計と法律の活用方法 ・母子保健の基本統計	
第2回	地域の母子保健活動(2)	・母子保健活動の対象 ・健康課題と社会背景 ・活動の基盤となる法律と制度（健やか親子21）	
第3回	地域の母子保健活動(3)	・乳幼児健診、訪問指導における保健師役割 ・こども虐待の社会的背景と保健師対応	
第4回	地域の成人保健活動(1)	・健康日本21（第2次） ・成人保健活動の対象、健康課題、社会背景 ・活動の基盤となる法律と制度特	
第5回	地域の成人保健活動(2)	・メタボリックシンドロームとは ・生活習慣病予防対策 ・特定健診、特定保健指導 ・がん対策	
	地域の高齢期保健	・高齢者保健活動の対象 ・健康課題と社会背	

第6回	活動	景・介護保険制度・地域包括支援センターと保健師の役割	
第7回	地域における精神保健活動(1)	・統計からみた精神保健活動の現状と保健師の役割	
第8回	地域における精神保健活動(2)	・地域の中の自殺予防対策（ゲートキーパーの役割） 外部講師（保健所保健師）	外部講師の都合で、日程変更有り 【中間授業評価】
第9回	地域における難病保健活動	・難病とは・難病対策要綱・難病に対する保健医療福祉の支援について・ALSの地域ケアシステム	
第10回	地域における障害者（児）保健活動	・障害者（児）保健活動の対象・健康課題と社会背景・活動の基盤となる法律と制度・保健師の役割	
第11回	地域における感染症保健活動(1)	・感染症とは・感染症の予防対策と動向・活動の基盤となる法律と制度	
第12回	地域における感染症保健活動(2)	・結核管理、予防接種、HIV、AIDS、の動向と相談体制、医療機関との連携	
第13回	地域における歯科・口腔保健活動	・生涯を通じた歯科口腔保健・摂食嚥下機能低下予防対策・自己管理（セルフケア）	
第14回	地域の健康課題と在宅看護	・介護者を抱える家族への支援・訪問看護との連携協働 ・地域ケアシステムとは	
第15回	地域保健活動を支える人材の育成と今後の展望	・地域保健活動において連携協働する専門職と機関・まとめテスト	【最終授業評価】

教科書

(1) 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動論第3版（医学書院）(2) 国民衛生の動向2016/2017（厚生統計協会）必要時資料を配布します。

参考書

必要時、紹介します。

成績評価

単位認定は60点以上です。提出物40% まとめテスト60%を基本とする。

授業時間外の学習

ワークノートを用いて、授業を進めます。授業時間内にできない場合は、宿題とします。

履修のポイント

公衆衛生看護学実習に行くために必要な知識を確認し、自分でノートに整理する学習を行います。学習単元毎に国家試験対策を見据えた確認テストを行ないますので、欠席しないように心がけてください。【保健師課程の必修科目】

オフィス・アワー

研究室に在室時に対応します。

講義コード	10950001
講義名	公衆衛生看護活動論Ⅲ
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	4 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 マツ子	指定なし

授業の概要

公衆衛生看護管理の意義や目的・方法について理解を深める。地域保健福祉計画の策定、それにかかる予算について学び、保健事業の施策化や地域ケアシステム、危機管理体制のモデルを通して、関係機関や職種との連携について理解する。特に災害時の保健師活動について事例より理解を深める。

教育目標

地域で生活するすべての人々の健康生活を支援するために展開する公衆衛生看護管理の機能と意義、倫理について理解し、あわせて、地域における健康危機管理を学習する。

到達目標

1. 公衆衛生看護管理の意義を理解する 2. 公衆衛生看護管理の構成要素、関係法規について理解する。 3. 地域ケアの質保障するために行う公衆衛生看護管理の機能と実際について理解する。 4. 感染症集団発生時の保健活動について理解する。 5. 災害と保健活動について理解する。 6. 地域の医療と福祉の安全管理について理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	公衆衛生看護管理の意義	公衆衛生看護管理の目的と機能
第2回	公衆衛生看護における倫理	1. 基本的人権の尊重 2. 公的責任とは 3. 権利擁護 4. 個人情報保護と開示
第3回	地域ケアの質の保証のための公衆衛生看護管理①	1、サービスの質の評価、改善への支援 2. 地域におけるケアの継続性・包括的展開 3、多職種・他機関との連携課題検討
第4回	地域ケアの質の保証のための公衆衛生看護管理②	地域の特性を生かした社会資源の開発、施策化、事業化
第5回	予算管理	1. 保健事業と人材育成のための予算編成、確保 2. 予算の執行管理・評価
第6回	情報管理	1、情報管理に関する法的整備 2、看護活動に関する地域情報管理 3、情報公開 4、個人情報の保護

第7回	人事管理	計画的人事配置と評価
第8回	保健師の専門的自立と人材育成	1、保健師教育 2、現任教育 3、専門的自律
第9回	組織運営と管理	1、組織の目的、役割、指示系統 2、他部門との連携、情報共有、協働 3、業務管理
第10回	公衆衛生看護業務と法制度	1、保健師業務と関連法規 2、保健師の法的権利と義務 3、関連職種との業務範囲に関する法的範囲
第11回	健康危機管理対策	1、健康危機管理の定義と要因 2、リスクマネジメント 3、健康危機管理の要素
第12回	感染症集団発生時の公衆衛生看護管理	1、感染症予防対策 2、地域での感染症保健活動 3、予防接種 4、主たる感染症：結核、IIS [※]
第13回	災害と保健活動①	1、災害の定義 2、災害発生時の保健活動 3、平常時における保健活動
第14回	災害と保健活動②	災害時における保健師活動：新潟県中越沖地震の事例より、効果的な保健活動の体制づくり
第15回	地域の医療と福祉の安全管理	1、医療の安全管理 2、福祉の安全管理 3、今後の保健師活動の展望 4、まとめ

教科書

医学書院 標準保健師講座「公衆衛生看護学概論」①

参考書

公衆衛生看護学第4版JP インターメディカル

成績評価

前期テスト 60点以上を合格とする

授業時間外の学習

使用教科書は内容が少ないため、他の数種類の保健師講座のテキストを参考にすることを希望する

履修のポイント

公衆衛生看護管理という、ある程度キャリアを積んだ方が履修すると思われがちであるが、初心者であろうと、看護の専門性を発揮するためには、多角的で包括的、統合的思考が要求される。本講義では、看護師の国家試験に関連する、公衆衛生の基本を交えながら、医療・保健・福祉の統合を目指し、パワーポイントを使用し、授業を展開する。毎回ミニテストを実施し、知識の確認を行う。

オフィス・アワー

水・木・金 研究室在中 訪室可です。

講義コード	10960001
講義名	公衆衛生看護活動論Ⅳ
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山田 淳子	指定なし

授業の概要

人々のライフステージの多くをしめる労働生活を支援することは非常に重要であり、その担い手である産業看護職の役割は大きい。労働者の健康と労働生活の両立を支える産業保健・看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。

教育目標

労働者が抱える健康問題と労働の場の特徴を学習し、労働者の健康と労働生活の両立を支える産業看護職の役割と機能について理解することができる。さらに、産業保健活動の重要性について考えることができる。

到達目標

- ① 労働の場の特徴や労働者が抱える健康問題について理解する。
- ② 労働関係法規を理解する。
- ③ 労働衛生管理体制（組織と人）を理解する。
- ④ 産業看護職の役割と業務を理解する。
- ⑤ 産業保健活動の重要性を認識することができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション、労働衛生の実態と産業保健・看護の対象者の特徴	産業構造、労働衛生の動向、労働者の健康をめぐる現状
第2回	産業保健・看護の理念と背景	産業保健の目的、産業看護の定義、産業保健・看護の歴史、労働衛生行政と関連法規（労働安全衛生法等）
第3回	産業保健・看護の制度とシステム	労働衛生管理体制（組織と人）、関連機関、労働衛生管理体制における産業看護職の役割
第4回	産業保健の5分野（3管理）	総括管理、健康管理、作業環境管理、作業管理、労働衛生教育
第5回	健康課題別の産業看護職の機能・役割①	職業性疾病と作業関連疾患の種類と予防対策
第6回	健康課題別の産業看護職の機能・役割②	生活習慣病予防対策、職場のメンタルヘルスケア

	能・役割②	ア、職場復帰支援、ワークライフバランスなど
第7回	職場のヘルスプロモーションにおける産業看護職の機能・役割	健康教育、健康相談、職場の健康づくり活動、ヘルスプロモーション、快適職場
第8回	中小規模事業場の健康支援、地域・職域連携	中小規模事業場に所属する労働者への健康支援、地域・職域連携活動

教科書

- ① 平成28年度労働衛生のしおり 中央労働災害防止協会編
- ② 配布プリント

成績評価

単位認定60点以上。
試験60%、講義終了後のリアクションペーパー40%

授業時間外の学習

労働者の健康問題は社会情勢に大きく影響されます。日頃から新聞等に目を通し社会情勢について理解することは重要です。また、講義終了後のリアクションペーパーは次回講義で返却しますので、講義資料を見ながら復習をしてください。

履修のポイント

産業保健に関する法規や制度を理解することは、職種に関わらず、いずれ「労働者」となる皆さんにとって重要です。興味関心を持って臨んでください。保健師国家試験とも関連付けて学習してください。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	10970001
講義名	公衆衛生看護学実習
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	5
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 美砂子	指定なし
教員	鈴木 裕子	指定なし
教員	檀原 三七子	指定なし

授業の概要

公衆衛生看護で学んだことが地域でどのように展開されているのか実際に学習する。またそのための事前演習を行う。保健所、市町村保健センター、事業所等の実習を通して、保健師の実際の活動を知り、その役割を理解する。地域住民に対して健康課題解決と健康増進の支援方法を体験する。

教育目標

地域の人々の健康な生活を支援するために、保健師の役割について理解する。また、保健師に必要な知識や技術について理解を深め、看護専門職としての態度を養うことを目的とする。

到達目標

1. 地域で生活する個人・家族・集団の健康を守るための地域保健活動の展開方法を学ぶ。
2. 主な公衆衛生看護活動における保健師の支援技術の特徴を学ぶ。
3. 地域での保健活動（健康危機管理含）における関係機関・職種との連携・協働の方法と保健師の役割を学ぶ。
4. 産業や学校における健康課題とそれに対応する専門職の役割を理解する。
5. 専門職として、また組織の一員としての責任と態度を学ぶ。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	1 週目： 実習事前学習	・ 地域診断：各種統計資料の収集と分析、地区踏査 ・ 演習：家庭訪問、乳幼児健診のロールプレイ ・ 健康教育の準備、中間発表会実施	学内演習 実習地域での踏査
	2～4 週目： 保健所、	(1)臨地での実習オリエンテーション：地域の概要、実施されている保健事業について理解する。(2)保健師に同行し、各種保健事業に参加する。事後のカンファレンスの参加し、フォロー	実習地域内の移動あり。事前に

第2回	保健センターにおける実習	アップの方法を知る。(3)家庭訪問に同行する。(4)健康教育を実施する。(5)年間保健計画の立案、実施、評価（PDCAサイクル）について説明を受ける。(6)事務室実習：窓口業務、事前準備、他の専門職との調整等、保健師が行う事務作業について理解する。	行き先と時間を確認して、遅れず到着すること。
第3回	5週目：事業所実習実習の総括	(1)事業所（健康管理センター、産業保健センター等）における保健師の役割について理解する。(2)学習成果の発表、実習報告書の作成、記録物の提出	1日の見学実習ですので、事前学習をしっかりと臨む。期限に指定された形式に整えて、記録物を提出する。

教科書

平成27年群馬県保健福祉統計CD-ROM版

参考書

(1)国民衛生の動向2015 厚生統計協会 (2)実習保健所・市町村からの資料 (3)市町村地図等

成績評価

単位認定は60点以上。実習中の態度、事前学習、サブノートの活用、記録物、事後報告書等を勘案し総合的に評価する。

授業時間外の学習

充実した実習内容にするために、事前準備はしっかりと臨むこと。実習記録は、毎日記載する。

履修のポイント

寒い時期なので、体調管理に留意し、欠席しないようにしましょう

オフィス・アワー

実習中は、指導担当教員といつでも連絡できよう連絡方法の確認をしておく。

講義コード	10980001
講義名	養護概論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし

授業の概要

- ・教育職員免許法に示された「養護概説」の趣旨に基づき養護教諭の職務に関する事項を概説する。
- ・第1回目に、オリエンテーション、学校教育全体の構造、学校教育・学校保健の関係法令、教育行政の仕組み等学校教育の基本的事項を学ぶ。
- ・第3回目以降、「養護」の本質や概念、歴史的沿革、職務内容の変遷、養護教諭の職務内容などの養護教諭の『職』について学ぶ。

教育目標

学校保健を推進する中核的役割をもつ養護教諭の職務と機能、役割を理解させ、児童生徒の健康問題の解決方法と技術について、専門的・実践的に学ばせる。

到達目標

「養護」の本質や概念、沿革、職務内容の変遷を理解するとともに、児童生徒の健康・安全を守り、課題を解決するための、学校保健活動の在り方を理解することができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション 教育関係法令と教育行政 養護教諭養成	教育関係法令等、教育行政、教育改革の動向 免許取得と教育機関、免許取得に必要な科目
第2回	学校教育と学校保健 養護教諭の職務	教育の目的と目標、学校経営、教育課程と学習指導要領、学校保健 養護教諭の制度の変遷、養護教諭の職務
第3回	児童生徒の発育発達と健康課題	幼児期、児童期、青年前期・後期の発育発達と子どもの健康課題の推移 各発達段階に即した保健指導

第4回	保健管理 保健室経営 学校における 救急処置	学校における救急処置の目的、特質、学校事故の特徴、学校救急処置の範囲、救急体制の確立、教職員の指導監督責任、学校管理下における事故発生時の対応・ポイント
第5回	健康診断 職員健康診断 健康診断 の実際	健康診断の法的根拠、定期の健康診断、臨時の健康診断、就学時の健康診断
第6回	健康診断の 実際	演習（身体測定・聴力、視力検査・内科検診・歯科検診等）
第7回	健康観察	健康観察の重要性と目的、法的根拠、機会と内容 疾病管理の目的と内容及び留意点
第8回	疾病管理	疾病管理の目的、内容と留意点、学校における感染症の予防と管理
第9回	精神保健 健康相談 学校における 教育相談	健康観察や見立てとの連続性、基本的な考え方、カウンセリングの必要性、養護教諭の役割
第10回	学校環境衛生	学校環境衛生の目的、養護役割教諭の関係法令 日常点検と措置、演習（水質検査、照度検査、二酸化炭素測定）
第11回	安全管理と 危機管理 保健室経営	学校安全とは、安全教育と安全管理の進め方、日本スポーツ振興センター保健室経営の重要性 保健室経営の重要性、保健室経営計画の作成について
第12回	学校における 健康教育	教科保健（保健学習）と特別活動における保健指導、啓発活動における保健教育のねらい、内容、進め方、教材の活用
第13回	保健教育	保健教育効果的な教材の活用、保健だより、掲示物の作成
第14回	保健指導の 構想	保健指導の授業構想、指導案作成と発表
第15回	保健指導の 構想とまとめ	保健指導の授業構想、指導案作成と発表、評価とまとめ

教科書

「新養護概説〈第7版〉」采女智津江 少年写真新聞社

参考書

「学校保健マニュアル」改訂8版 衛藤隆、岡田加奈子（南山堂）

成績評価

単位認定60点以上、筆記試験（40％）小テスト、レポート（50％）授業への参加度・学習態度等（10％）

授業時間外の学習

グループ学習を取り入れるので、各自が自学自習に励み互いに学びあいができるよう準備をすること。

履修のポイント

授業は学び方のヒントである。養護教諭の根本となる基礎基本であるので、復習予習をして授業に臨むこと。

オフィス・アワー

事前にアポイントを取ること。

講義コード	10990001
講義名	学校保健Ⅰ
(副題)	【教職必修】 【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし

授業の概要

学校保健は、児童生徒の健康と安全の基礎を培い生涯の健康増進の基盤を作ることを目指している。学校保健の中核的役割を担う養護教諭の基礎教養となる。はじめに学校保健の目的と意義、変遷と沿革、学校教育における使命と目的を明らかにする。さらに、保健管理、保健教育、組織活動、学校保健の推進についての理論と学校現場で実践する方法技術について、法的根拠を踏まえながら実践的に学習する。

教育目標

児童生徒の実態から健康課題を把握させ、健康課題の解決や健康の保持増進を図るための学校保健の組織活動と運営について理解させる。

到達目標

- ①学校保健の目的・意義と変遷を理解することができる
- ②児童生徒の心身の健康実態と環境アセスメントの理解、発育発達段階を理解することができる。
- ③発育発達段階、ニーズ、学習指導要領に基づいて保健指導・保健学習の学習指導計画を立て、指導案に基づいて指導ができる。
- ④学校保健計画の試案を考えることができる

授業計画

	主題	授業内容
第1回	学校保健とは	学校教育と学校保健、関連する法律、概念と構造、学校経営と学校保健、これからの学校保健学校、地域保健と学校保健、学校保健経営と人権
第2回	学校保健経営 ヘルスプロモーション	学校保健経営、学校保健計画の作成、実施・評価 ヘルスプロモーションの概念と健康日本21、日本の学校教育におけるヘルスプロモーションに活動について
第3回	子ども発育発達と学校保健	発育発達の考え方、発育発達の現状と課題、発育発達と個別指導の必要性
第4回	健康管理、健康観察、健康診断	健康観察、児童・生徒の健康診断（意義と目的、種類と実施者）職員の健康診断
第5回	健康管理、健康相談と健康相談活動	健康相談、健康相談活動、精神保健

第6回	健康教育	学校における健康教育（必要性、位置づけ、担当者と役割） 保健教育、教科・保健学習教科・保健指導、保健教育の評価
第7回	健康（心身）・発達・行動上の課題を有する子への支援	健康（心身）・発達・行動上の課題を有する子への支援 特別支援教育について
第8回	感染予防 危機管理及び学校安全 学校環境衛生	感染症の種類と予防、発生時の対応と出席停止等の措置 学校安全の概要、安全教育と安全管理、組織活動、危機管理

教科書

「学校保健」徳山美智子、中桐佐智子、岡田加奈子（東山書房）

参考書

「学校保健マニュアル」改訂8版 衛藤隆、岡田加奈子（南山堂）

成績評価

単位認定60点以上、課題レポート（40点）、小テスト（50点）、授業態度（10点）

授業時間外の学習

教科書を活用し、予習を必ず行うこと。配布された資料や文献により復習を行うこと。

履修のポイント

児童生徒の健康課題や教育に関する時事問題にクリティカルシンキング。

オフィス・アワー

事前にアポイントを取ること。

講義コード	11000001
講義名	学校保健Ⅱ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし

授業の概要

学校保健は、児童生徒の健康と安全の基礎を培い生涯の健康増進の基盤を作る目的と意義がある。学校保健Ⅰの理解に立って、養護教諭として学校保健を推進していくために保健管理における支援の実践を演習する。また、保健学習と保健指導の違いを新学習指導要領等より理解し、その理論と実践を学習する。

教育目標

学校における児童・生徒等、教職員の保持増進を図るため、保健管理、安全管理、保健教育、安全教育、組織活動の進め方について、校種別・発達段階別にあった現代的課題を設定して実践的に解決できるようにPDCAサイクルにそって具体的に試みさせる。

到達目標

- ①児童生徒等の心身の健康実態及び環境アセスメントからの情報を収集して課題を明確にすることができる。
- ②現代的な健康課題について取り上げ、学校における保健教育の進め方を具体的に考えることができる。
- ③学校感染症への対応を理解することができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	健康観察・保健指導	健康観察の意義、方法および問題への対応、健康管理の個別的保健指導
第2回	児童生徒の健康実態の把握と保健指導	健康観察、健康情報の収集方法、学校保健統計、全国保健室利用状況調査、各種統計調査資料、保健調査に基づく実態把握の見方考え方及び保健指導の在り方
第3回	救急処置	学校における救急処置の意義、救急処置の実践
第4回	保健管理～学校感染症への対応	学校感染症の種類、日常の学校生活の予防対策、発生時の対応と事前・事後の対応
第5回	保健管理～環境衛生	学校環境衛生の意義、法的根拠、活動の計画と展開、検査の実践 そのほかの精神・心理的問題
第6回	健康教育	保健学習と保健指導、養護教諭の行う集団的保健指導

第7回	研究授業に向けた教材研究	第6回を基に指導案の作成、細案・教材の検討研究授業に向けた教材研究
第8回	授業発表と評価	構想した授業を発表しあい、ねらいに沿った展開となっているかを討議する

教科書

「学校保健」徳山美智子、中桐佐智子、岡田加奈子編著（東山書房）

参考書

「学校保健マニュアル」改訂8版 衛藤隆他（南山堂）、「新養護概説〈第7版〉」采女智津江編著（少年写真新聞社）

成績評価

単位認定60点以上、指導案、教材、提出物、グループへの貢献（60％）、小テスト指導案、教材、提出物、グループへの貢献（60％）、小テスト（30％）、授業態度（10％）

授業時間外の学習

各自が積極的に自学自習に励むことを期待している。配布資料や指定された文献等により予習復習を行うこと。

履修のポイント

児童生徒の健康課題や教育に関する時事問題にクリティカルシンキング。

オフィス・アワー

事前にアポイントを取ること。

講義コード	11010001
講義名	学校保健Ⅲ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし

授業の概要

保健室登校や発達障害等への支援をはじめ、日常の学校生活を通して保健室を訪れる児童・生徒の心の健康問題の増加は社会的にも関心を集めている。学校保健安全法の改訂で第8条に健康相談が定められた。養護教諭が校内・外の専門家や専門機関と連携・協働して児童生徒の心身の健康問題に関わることが期待されている。養護教諭の職務と保健室の機能を生かして、児童・生徒の心身両面の問題を早期発見し、アセスメントして早期支援に繋ぐ健康相談活動が求められる。養護教諭の専門知識・技術・幅広い学際的判断力・人間力等の諸能力を統合する実践的指導力を養う。

教育目標

児童生徒の発達段階の特徴を踏まえた児童生徒の心身の健康実態を捉えさせながら、養護教諭の職務に保健室の機能を生かした健康相談活動について理解させる。特に、日常の教育活動や保健室利用から児童・生徒の心身両面の問題を健康観察、応急手当等を通して発見し、アセスメントすることの重要性を知らせる。さらに、保健室登校や発達障害への支援に際し、組織的に対応するためにコーディネート力や相談技法を指導する。

到達目標

①児童生徒の発達過程、特別な支援を必要とする子どもの発達過程と現代的健康課題を知る。
②保健室利用の子ども達の実態から、日常観察、変化の気づき等によりアセスメントから、要因の構造と対応の方法について科学的に理解できる。③児童生徒の支援に際して学校生活に適應させるための方法、チーム支援、環境調整、教師や保護者、専門機関等関係者との連携と協働、コーディネーターの力量形成等について理解できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	健室の利用実態から捉える健康課題と相談活動	保健室の利用状況等情報収集による気になる児童生徒の早期発見
第2回	健康相談における見立て（アセスメント）	養護教諭の見立てとは、日常の保健室(救急処置)場面、学校生活その他の場面での見立て、具体例を通して見立ての実際を知る。

第3回	見たてから 支援へプロ セスごとの 支援の実際	見立てと支援の連続性、支援方針、プロセスごとの支援、種類と方法
第4回	健康相談/健康相談活動の実際	健康相談/健康診断の事後措置指導や日常的な短期の訴えに対する心身の問題について、事例検討する。要因、問題解決のための支援方法について、討議しまとめてミニレポートを提出する。
第5回	健康相談/健康相談活動の実際	健康相談/健康相談活動の実際をロールプレイ技法を通して学び、継続支援の必要な事例について事例検討する。要因、問題解決のための支援方法について、討議しまとめてミニレポートを提出する。
第6回	健康相談/健康相談活動の実際	不登校・保健室登校について事例検討する。発達課題に即した要因、問題解決のための支援方法について、討議しまとめてミニレポートを提出する。保護者や教職員間の共通理解、校外の組織との連携や協働の重要性を理解する。
第7回	健康相談/健康相談活動の記録と事例研究	健康相談/健康相談活動の記録のとり方、情報の共有と保秘義務の扱い、事例研究会の進め方―発表のまとめ方、発表方法、質疑・ディスカッション等々
第8回	健康相談/健康相談活動のまとめと評価	健康相談/教育実習で経験した事例をグループワークを通して事例検討する。校内教職員間の共通理解や意志の疎通、校外の組織との連携や協働、組織活動について振り返る。健康相談活動における評価及び養護教諭の倫理綱領からまとめ、今後の課題を捉える。

教科書

「養護教諭の健康相談ハンドブック」森田光子著 東山書房

参考書

「養護教諭の行う健康相談」大谷尚子編著、子どもの健康相談および保健指導の手引 文部科学省

成績評価

60点以上、グループへの貢献・発表力・ミニレポート（50%）、授業態度（10%）課題レポート（40%）とする。

授業時間外の学習

各自が積極的に自学自習に励むことを期待している。配布資料や指定された文献等により予習復習を行うこと。

履修のポイント

社会問題に関心を持ち新聞等子どもの問題に関する報道を読みとる。

オフィス・アワー

事前にアポイントを取る。

講義コード	11030001
講義名	機能看護学概論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	5 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島崎 すえ子	指定なし

授業の概要

看護の対象あるいは社会から期待される専門職としての役割や責任を果たすためには、生涯にわたり自己の能力を開発・発展させ、社会化に貢献できる能力を身につけなければならない。ここでは看護管理の基礎と看護専門職としての役割と機能について学び、組織の一員としての看護のあり方、社会の変化に対応した看護職の機能拡大の可能性について考える。

教育目標

機能看護（看護管理）に必要な知識を学び、看護専門職としての役割と機能について理解する。

到達目標

1. 看護管理の歴史的発展・過程を理解する。
2. 看護管理の定義や機能について理解する。
3. 看護管理に必要な基礎知識と看護専門職としての立場を明確にする。
4. 拡大・変化する看護専門職の機能について理解する。
5. 看護専門職としての役割と看護管理との関連について理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	看護管理の概要（1）	看護管理の歴史・変遷
第2回	看護管理の概要（2）	看護管理の定義・機能
第3回	看護管理の基礎（1）	組織の成り立ちと構造
第4回	看護管理の基礎（2）	看護の動向と専門職としての役割
第5回	看護専門職の役割・機能（1）	専門職としての自律性と責務
第6回	看護専門職の役割・機能（2）	看護の動向と専門職としての役割
第7回	グループワーク	看護専門職の役割と看護管理について話し合う
第8回	グループワーク	発表

教科書

看護管理学（南江堂）、看護管理（メディカ出版）

参考書

看護管理学習テキスト、看護管理概説論（日本看護協会出版会）、看護管理（医学書院）、看護覚え書き（日本看護協会出版会）
成績評価
単位認定60点以上。授業及び実習態度、グループワーク発表、レポートによる。
授業時間外の学習
履修のポイント
看護専門職としての役割と機能を学び、隣地実践（臨床実習）で活かしてもらいたい。

講義コード	11040001
講義名	機能看護学Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 豊田 省子	指定なし

授業の概要

看護専門職として、看護の専門性を発展させていく重要性および自己研鑽することの意義を理解し、生涯にわたり学び続ける看護専門職としての自身の将来設計を考える。

教育目標

現在「看護を学んでいる者」として、将来「看護を実践する者」として自己に向き合い、自己のキャリアを考える機会とする。

到達目標

- ①「看護教育」、「看護学教育」、「看護教育学」の違いを理解する。
- ②専門職とは何かを知り、社会における看護専門職の役割を再確認する。
- ③看護教育制度の概要を知り、現状と課題を理解する。
- ④キャリア形成、キャリア発達の基盤となる概念、思考方法について理解する。
- ⑤それらを基盤にして現在看護を学んでいる者として、これから看護を実践しようとしている者として自分に向き合い、自分がどうありたいかを考える。その実現のために、今、何をすべきかを「課題レポート」にまとめる。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	看護教育学とは何か？	看護教育、看護学教育、看護教育学の定義 看護教育学における教育と研究 エビデンスに基づく看護学教育	講義 グループ・ワーク① 「看護技術とエビデンス」
第2回	専門職としての看護	専門職（プロフェッション）とは？専門職の特質・定義 看護と専門職、キャリアを成長させる意義 スペシャリストとジェネラリスト	講義 グループ・ワーク② 「看護は専門職か？」
第3回	看護教育制度の概要	多様な看護婦教育制度 保健師助産師看護師法の成立、看護教育制度の現状 今後の課題とこれからの看護教育制度	講義 グループ・ワーク③ 「大学で看護を

			学ぶ意味は？」
第4回	基盤となる概念	アイデンティティとは何か？、職業的アイデンティティ、クリティカルシンキングとは？クリティカルシンカーに必要な資質 リフレクションとは何か？リフレクションに必要なスキル キャリアとは？キャリア発達とは？キャリア・マネジメントとは？	講義
第5回	キャリア発達とワーク・ライフ・バランス (1)	キャリアの定義 (シャイン)、キャリア発達 (ベナー) 看護師のキャリア発達 ワーク・ライフ・バランス	講義 やってみよう！ 『ナース人生すごろく』
第6回	キャリア発達とワーク・ライフ・バランス (2)	演習：①「結婚」とキャリア、「妊娠・出産・育児とキャリア」、「昇格とキャリア」の3テーマから選択する②選択したテーマについてグループ・ワークする	グループ・ワーク④テーマを選択する「〇〇とキャリア」
第7回	生涯学習としての看護継続教育	「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の制定 卒後教育制度：専門看護師、高度実践看護師 現任教育：認定看護師、卒後臨床研修	講義 グループ・ワーク⑤ 「自分探しの旅」
第8回	ライフプラン・シートの作成	私と家族 私とキャリア 『ハッピーライフ・プラン・シート』の作成	個人ワーク

教科書

指定する教科書は特にありません。必要な教材は、授業資料として毎回配布します。

参考書

グレッグ美鈴、池西悦子編：看護学テキストNiCE看護教育学看護を学ぶ自分と向き合う、南江堂、2009年
平井さよ子著：改訂版看護職のキャリア開発、日本看護協会出版会、2009年

成績評価

単位認定：60点以上
グループ・ワークのレポート①～⑤50%、課題レポート50%で総合的に評価します。再試験は実施しません。

授業時間外の学習

関連する科目としては、「看護原論Ⅰ」「機能看護学Ⅱ（看護管理）」「機能看護学Ⅲ（看護研究）」などが考えられます。これらの科目との知識の統合を図りましょう。

履修のポイント

- ①この単元は暗記科目ではありません。現在看護学生として看護を学んでいる自分と向き合い、将来看護職として働く自分の姿を展望するための科目です。「将来のことはわからない!？」と感じている学生にこそ、キャリア・マネジメントの考え方が必要です。じっくり自分と向かい合って、「自分のキャリア」について考えてみましょう。
- ②グループワークによって考え方の幅を広げたり深めたりしながら、自分なりの意見を持てるようになることが大切です。それを所定の用紙にまとめ、授業終了時に、「GWのレポート」として授業終了時に提出して下さい。この提出によって、授業に出席したことを認めます。したがって白紙で提出された場合（出席証明にならない）や学籍番号と氏名が不一致の場合（個人の特定ができない）は、「欠席扱い」となります。GWレポートは、「授業終了直後にのみ受領」します。後日の提出はできません。
- ③「グループワークのレポート」の提出がない日には、自筆による「リアクション・ペーパー」の提出を求めます。その日の授業内容に即した感想・意見・要望・質問などが書かれていること

によって、授業に出席したことを認めます。したがって「白紙の提出」「学籍番号間違い」「後日の提出」の場合の取り扱いは、上記の②と同様です。

オフィス・アワー

「授業内」あるいは「授業終了直後」に、教室で相談に応じます。

講義コード	11050001
講義名	機能看護学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島崎 すえ子	指定なし

授業の概要

看護におけるマネジメントの機能は、「良質な看護サービスをより円滑に提供するための仕組みやその運営活動」であり、看護実践のあるところ、すべてにおいて必要とされる。

教育目標

看護サービスの提供を組織とマネジメントの視点からとらえ、看護におけるマネジメントの機能について学ぶ。

到達目標

- ① 看護におけるマネジメントの機能について理解する
- ② 組織における看護管理のあり方について理解する
- ③ 看護管理の特性について学ぶ
- ④ 看護管理を総合的に捉えることができる
- ⑤ リーダーシップとマネジメントについて知識を深める
- ⑥ 看護管理を看護実践に活かすことができる

授業計画

	主題	授業内容
第1回	看護におけるマネジメント	看護マネジメントの必要性
第2回	組織化とマネジメント	組織における看護管理の重要性
第3回	看護管理のシステムアプローチ	看護管理システム
第4回	看護サービス管理の特性	マネジメントの機能
第5回	リーダーシップとマネジメント	看護管理に必要なリーダーシップのあり方
第6回	看護管理の実際	看護管理を総合的に捉える
第7回	グループワーク	臨地実習での看護実践と授業を受けての振り返りから、看護管理の機能について考える
第8回	まとめ	グループワークでの発表

教科書
看護管理（医学書院）
参考書
看護管理学習テキスト 看護管理概説論、看護マネジメント論
成績評価
単位認定60点以上。授業及び実習態度、グループワーク発表、レポートによる。
履修のポイント
看護の機能を統合的に捉え、臨床実践で活かすことができるように学んでもらいたい。

講義コード	11060001
講義名	機能看護学Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 永井 道子	指定なし

授業の概要

看護実践の質を高め、発展させていくうえで看護研究は重要な役割を果たします。看護実践の中から疑問や課題を明確にし、問題解決に向けた効果的な看護を探求していく能力を養うために、看護研究方法について学びます。

教育目標

看護研究方法の基本的知識と問題解決に向けた研究的思考を修得する。

到達目標

1. 看護研究の概要と意義について理解できる。
2. 看護実践の中から研究疑問を明確にすることができる。
3. 看護研究論文を読み検討することができる。
4. 研究実施時の倫理的配慮について理解できる。
5. 研究目的を達成するための研究計画について考えることができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	看護研究とは	看護研究の発展と意義 研究疑問の明確化
第2回	看護研究における 文献検索と文献検討	文献検索の方法 文献検討の手順
第3回	看護研究に伴う倫理的な問題	倫理的な問題とその対応方法
第4回	看護研究方法	研究デザイン 量的研究と質的研究の特徴
第5回	量的研究	量的研究におけるデータ収集と分析方法
第6回	質的研究	質的研究におけるデータ収集と分析方法
第7回	研究計画書の作成	研究計画書を作成する。
第8回	まとめ	まとめ

教科書

黒田裕子『黒田裕子の看護研究 Step by Step』（医学書院）

参考書
授業中に紹介します。
成績評価
単位認定：60点以上 課題レポート①（30％）、課題レポート②（30％）、課題レポート③（20％）、受講態度〔参加・貢献度〕（20％）を合計して評価する。
授業時間外の学習
教科書を読み予習復習を行う。授業内容をもとに課題レポートを作成する。
履修のポイント
看護研究を行う上で重要な、基本的知識について学びます。積極的に授業に参加してください。
オフィス・アワー
随時。事前にメールでアポイントをとってください。

講義コード	11070001
講義名	看護専門職論Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 礼子	指定なし

授業の概要

看護倫理の歴史的発展、今日の医療における看護職者の立場より担っていくべき倫理的責任、看護倫理アプローチとしての「原則の倫理」と「徳の倫理」の側面からの検討を通して看護専門職組織の社会的役割及び日本の文化の中での倫理的問題解決について探究する。

教育目標

看護倫理の基礎的理解を図り、その基盤の上に看護倫理のアプローチを用いた事例検討、看護職の倫理綱領の理解、各国の看護における倫理、研究における倫理を通して、看護実践者としての自己の基盤となる倫理的感性・倫理観を培い、看護実践の中心に位置する倫理的に物事を考える道筋を見いだせるようにする。

到達目標

1. 倫理の意味について理解し、自分のことばで説明することができる。
2. 「良い」とはどういうことか、「良い人」「良いナース」とはどういう人か、考えることができる。
3. 倫理に関係することばとその意味について理解し、説明することができる。
4. 倫理的判断の必要な状況について知り、判断・行動するための考えの進め方を知り活用する姿勢が持てる。
5. 日々の中で、何が良いことか、根拠をもって考えながら行動する姿勢が高まる。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	看護倫理とは	科目ガイダンス、「価値」について	講義
第2回	徳の倫理	「良い人」「良いナース」とは	講義
第3回	原則の倫理の基盤となる倫理理論	カントの義務論、ミルの功利主義	講義
第4回	原則の倫理	"臨床倫理の原則 看護者の倫理綱領"	講義
第5回	ケアの倫理	ケアの倫理とナラティブ	講義
第6回	倫理的判断が問われる問題	"増大し重要化する倫理的問題と倫理的 ジレンマ 文化背景と倫理 研究における倫理"	講義

第7回	倫理的意思決定のプロセスⅠ	"倫理的意思決定を導く4ステップモデル 臨床倫理の4分割法"	講義
第8回	倫理的意思決定のプロセスⅡ	事例検討（グループディスカッション）	講義・演習
第9回	倫理的意思決定のプロセスⅢ	事例検討結果発表	講義・演習
第10回	知る権利	事例検討（癌の告知をためらう家族）	講義・演習
第11回	アドボカシー	事例検討（本音を言えない患者の退院支援）	講義・演習
第12回	パターナリズム	事例検討（糖尿病患者と患者教育）	講義・演習
第13回	守秘義務	事例検討（家族へも言いたくない秘密）	講義・演習
第14回	自律尊重	事例検討（認知症患者の意思について）	講義・演習
第15回	まとめ	知識確認と解説	講義・演習

教科書

小西恵美子編『看護倫理』南江堂

参考書

ドゥーリー＆マッカーシー著、坂川雅子訳『看護倫理1、3』みすず書房

成績評価

単位認定60点以上 グループワークの参加状況20%、課題レポート30%、筆記試験50%

授業時間外の学習

教科書の該当箇所をよく読んで授業に臨んでください。

履修のポイント

倫理的に「良い」ということは、看護の質にもつながります。何が良いことか、自分の行動の指針を自らに問いかける習慣をつけてゆきましょう。

オフィス・アワー

在室中で時間があればいつでも対応します。11号館3階第5研究室です。

講義コード	11080001
講義名	看護専門職論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 監物 千代子	指定なし

授業の概要

医療・看護の場はわずかな間違いが、患者の生命や身体の障害につながる危険性をもはらんでいる。
人は、間違いを起こす存在である事を自覚したうえで、エラーを防止し医療安全を守る必要がある。
ヒューマンエラーを防止するためのシステム、おこりやすい医療事故とその防止についての知識と技術を習得する。

教育目標

看護の質・看護師の責務について関連を捉え医療安全とは何か理解できる。
おこりやすい医療事故とその防止策について理解できる。

到達目標

- ・看護の役割と責任について学ぶ。
- ・医療事故とその防止方法についての、基本的な知識を習得する。
- ・医療事故に関する動向と新人が陥りやすい事故について学ぶ。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	医療安全とは何か	医療安全の基礎知識と看護師の役割・看護師の責務 (手術患者取り違い事件から学ぶもの)
第2回	事故発生のメカニズムと防止対策	ヒューマンエラーとは何か？ 事故の特性と事故を誘発させる要因
第3回	診療の補助業務に伴う事故防止(Ⅰ)	患者に投与する業務における事故防止 注射業務での間違いやすい表現・医療機器の基礎を学ぶ
第4回	診療の補助業務に伴う事故防止(Ⅱ)	患者に投与する業務における事故防止 内服与薬の事故防止・輸血業務・経管栄養・チューブ管理
第5回	療養上の世話における事故防止(Ⅰ)	療養上の世話における事故防止の捉え方 転倒・転落事故防止
第6回	療養上の世話における事故防止	療養上の世話における事故防止の捉え方

	(Ⅱ)	誤嚥・異食・入浴中の事故
第7回	学生の実習と安全	医療安全とコミュニケーション(基礎実習から) 実習中の事故を予防する。事故発生時の学生の行動
第8回	業務上の危険と防止策	KYT(危険予知トレーニング) 写真・イラストを用いる。 グループ検討
教科書		
系統看護学講座 医療安全 看護の統合と実践[2] 川村治子 医学書院		
成績評価		
単位認定60点以上。レポート100%評価。		

講義コード	11090001
講義名	看護専門職論Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 櫻井 通恵	指定なし

授業の概要

がん患者および家族への看護活動を理解するために以下の内容を学習する。

1. がんの病態および治療の概要
2. がん患者の精神的・身体的特徴の理解と緩和方法・看護援助について
3. がん患者を支援する家族の特徴の理解と看護援助について
4. 緩和ケア、グリーフケアについて
5. 看護者としての感性を高める（死生観、がん患者・家族の思い等）

教育目標

1. 罹患率、死亡率ともに高いがんの病態、症状、治療、看護の特殊性を理解する。
2. がん患者の苦痛を全人的に捉え、患者家族に対する看護援助の方法を理解する。
3. がん患者・家族のQOLを高める看護援助方法と看護の役割について理解する。

到達目標

1. がん患者の病態、身体的特徴、治療の特徴について説明することができる。
2. がん看護における倫理について説明できる。
3. 緩和ケアの目的と実際について説明することができる。
4. がん患者の苦痛を全人的にとらえ適切な看護を説明できる。
5. がん患者特有の苦痛症状を理解し、その緩和方法及び看護援助について説明できる。
6. がん患者を支える家族の特徴を理解し、ニーズにあった看護援助について説明できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	がんの特殊性	がんの動向、病態・治療の特殊性について
第2回	がん看護における倫理的課題	倫理・看護倫理、緩和ケアをめぐる倫理的課題について
第3回	緩和ケア	緩和ケアの歴史、緩和ケアの理念、緩和ケアの現状について
第4回	がん患者の心理的・社会的・霊的苦痛と援助	がん患者の全人的苦痛と看護援助について、死生観について考える
第5回	がん患者の身体的苦痛の援助・薬物療法	がん患者の身体的苦痛と身体症状のマネジメントとケア、薬物療法

第6回	エンゼル・ケア、家族・遺族ケア	死後の処置の意味、家族・遺族ケアについて
第7回	がん患者・家族の思いを考察する	がん患者・家族の思いを考察し支援方法を考える
第8回	授業まとめ・試験	終末期がん患者及びその家族に対する看護支援のまとめ・試験

教科書

『緩和・ターミナルケア看護論』 ヌーベルヒロカワ

成績評価

60点以上で単位認定。筆記試験60%以上で評価する。

講義コード	11100001
講義名	看護専門職論Ⅳ
(副題)	【教職必修】 【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 啓介	指定なし

授業の概要

身近な日常の事象に「気づき」を向け、新たな視点からとらえる。まず自分自身を知るところから出発し、自分とまわりの人間関係から、国や世界まで探求の範囲を広げ、異なる価値観への理解を深める。授業は演習型、グループ学習によってコミュニケーション力を培い、最終的には学外のフィールドワークでその成果を応用する。毎回のレポート提出によって学習を振り返るとともに、課題によって日常生活の中に学習の素材を見つける。映像などの教材の随時利用しつつ、多面的な学習を進める。

教育目標

日常の中にありながら見過ごしている現象に目を向け、自分たちの生を支えている様々な働きに気づく。個人から家族、地域、国家、世界へと視点を変えながら、様々な価値観を検証する。自分の頭で考え、演習とフィールドワークによって、コミュニケーションを通して総合的に学習をする。将来援助職として、多様な背景と価値観をもつ対象者に向かい合う基本的な姿勢を養う。

到達目標

全員が主体的に授業に参加し学ぶ。グループワークや相互的な学習を通じ、各人の中の問題意識、動機や希望を掘り起こし、将来の仕事や生活の場において学びを応用できる力を養う。異なる価値観をもつ者に共感的に接し、共生して行ける姿勢を培う。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション	他文化を学ぶ意義、基本的姿勢
第2回	自分と、「当たり前」の見直し	自分と日常への気づきの練習
第3回	コミュニケーションワーク	伝えることも難しさ、伝える工夫を学ぶ
第4回	同上	
第5回	日常の気づきの応用	生活の中に多様な価値観の現れを見つけてワークする
第6回	同上	
第7回	日本の中の多文化	社会に視点を広げる
第8回	同上	

第9回	世界と自分との関わり	日常に反映している世界と、その問題点を知る
第10回	同上	
第11回	フィールドワークの準備	今までのまとめと、フィールドワークの企画
第12回	フィールドワーク	学外での実地学習
第13回	同上	
第14回	フィールドワークのまとめ	グループ報告と全体のまとめ
第15回	全体のまとめ	これからの学習や仕事に生かすために

教科書

「世界がもし１００人の村だったら 総集編」マガジンハウス

成績評価

単位認定60点以上。
発表内容と提出物によって評価する。

履修のポイント

各回のグループ学習に参加し、レポートを確実にまとめる。何回か与えられる日常の課題をこなす。

講義コード	11110001
講義名	看護専門職論Ⅴ
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 かおり	指定なし

授業の概要

1. 医療関連感染とは何か、現代の医療の中での状況及び予防対策について学習をする。2. 医療関連感染予防の具体的な方法について学び、実践できるようにする。3. 感染管理プログラム・教育及び研究成果から、看護師の担う感染防御の役割の理解を深める。4. 新興感染症について理解を深める。

教育目標

1. 看護師として感染管理を行う役割について理解をする。2. 実際の医療感染対策の方法について理解をし、実践的知識の習得をする。

到達目標

1. 感染管理・感染看護の概念と近年の動向について学ぶ。2. 医療施設及び地域での医療活動における感染予防の方法について学習をする。3. 医療者自身の感染予防対策の具体的な方法について実践できるように学習をする。4. 感染症患者または易感染患者に対する看護の具体的な方法とその根拠について学ぶ。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	感染管理と感染看護の概念/医療関連感染サーベイランス	感染管理・感染看護の役割/感染管理に関する現状と研究成果 感染症に関わる倫理的問題/医療関連感染サーベイランスの定義
第2回	新興感染症とその対策・Zoonosis	デング熱、エボラ出血熱、ジカ熱など新興感染症、Zoonosisとは
第3回	医療施設における感染症の発生要因及び感染対策の基本	感染の成立と予防に関する考え方・医療関連感染の定義 スタンダードプレコーションの実際と方法
第4回	医療器具及び医療処置の伴う感染予防	滅菌操作時の感染予防
第5回	医療施設におけるファシリティ・マネジメント	感染性廃棄物の取り扱い/洗浄・消毒・滅菌
第6回	職業別感染防止対策	針刺し・切創・汚染/医療施設で問題となる流行性感染症と対策

第7回	医療機関での部署別感染対策	様々な医療施設における感染対策（手術室、I C U、N I C U、透析室、リハビリ室、レントゲン文門、高齢者施設、在宅等）
第8回	感染症患者の治療と看護	感染症別対策の方法について

教科書

大野義一郎『感染対策マニュアル』医学書院

参考書

「わかりやすい微生物・感染症」ヌーベルヒロカワ
坂本史衣「基礎から学ぶ医療関連感染対策-標準予防策からサーベイランスまで-」

成績評価

期末試験で60点以上 筆記試験90%、課題・出席10%

授業時間外の学習

既習学習である「感染と防御」の復習をすること。
新聞、テレビなどで報道される感染症に関する話題に興味を持つこと。

履修のポイント

主体的に積極的に授業に参加をすること。
微生物の名称と代表的な疾患・治療薬をまとめることで理解しやすくなります。

オフィス・アワー

在室時に対応をします。（臨地実習で不在が多いので連絡をしてから来室をお願い致します）

講義コード	11130001
講義名	看護専門職論Ⅶ
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 裕子	指定なし

授業の概要

看護の対象は個人・家族・集団である。さらに、地域や環境との相互関係の中で対象を統合的・全体的にとらえる。家族を単位としてとらえることは概念的な理解の広がりに伴う。個人の背景として家族をとらえるのではなく、家族単位でとらえ看護課程を展開することを学ぶ。

教育目標

家族看護の基礎理論や支援方法を学び、家族単位で対象をとらえる視点が持てる。さらには家族を単位とした看護課程の展開や支援方法について理解を深める。

到達目標

- ① 家族の形態や社会的な変遷、家族看護の変遷について理解する。
- ② 家族を単位として、また環境との相互関係の中で統合的・全体的にとらえ、対象理解を深める。
- ③ 家族看護の代表的なアセスメントモデルを知り理解を深める。
- ④ 家族像について理解し、イメージすることができる。
- ⑤ 家族を対象とした看護課程の展開について事例を通して実践的に学び理解を深める。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	家族看護論を学ぶために	家族看護学の発展と動向
第2回	家族看護の対象理解	家族の発達段階と家族システム
第3回	家族看護の基礎理論	代表的な家族看護のモデル
第4回	家族看護の実際	家族像の形成と看護課程の展開
第5回	家族看護の事例 1	家族看護事例検討と討議 1
第6回	家族看護の事例 2	家族看護事例検討と討議 2
第7回	家族看護の事例 1 と 2	家族看護事例 1 と 2 の検討を繰り返し討議 3
第8回	総括	まとめと展望

教科書

山崎あけみ、原礼子 看護学テキストNice 家族看護学 19の臨床場面と8つの実践例から考える 南江堂

参考書
鈴木和子 家族看護学：理論と実践 日本家族看護協会出版会 森岡清美・望月崇 新しい家族社会学 培風館
成績評価
単位認定：60点以上 筆記試験：50%、リアクションペーパー：40%、授業態度：10%
授業時間外の学習
日頃から新聞やニュースに関心を持ち、現代家族の置かれた状況を知り考えを深める。
履修のポイント
自分の家族や実習で出会った家族など身近なところから、また事例を通して実践的に学びを深める。
オフィス・アワー
アポイントをとること。

講義コード	11150001
講義名	統合セミナー
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 美砂子	指定なし
教員	齊藤 敦子	指定なし

授業の概要

これまで学んできた教養系科目、専門基礎科目、看護専門科目を踏まえ、それらを統合した思考プロセスで、実際の看護を展開していくことが重要である。学生が対象者を全人的に理解を深めるために、各専門領域間で連携し、その重要性を享受する。

教育目標

各専門領域の特徴的な疾患ならびにその看護について、幅広い側面から考え、それらを統合して理解できる。

到達目標

看護職者として知らなければならない疾病の原因、検査、症状、治療法などの基本的知識を基盤に、社会的側面（法令、規則など）を加えた、看護の統合性が理解できる。看護師国家試験に対応できる知識を習得する。

授業計画

教科書

各領域で使用した教科書
レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行

参考書

必要時、紹介する。また、授業時に必要な資料を配布する。

成績評価

最終試験で60点以上を合格とする。国家試験形式での試験を実施予定。
授業毎にミニテストを実施し、その結果も参考にします。

授業時間外の学習

国家試験にも直結する授業内容です。日頃の継続的な取り組みが不可欠である。

履修のポイント

授業に参加しその場で理解を深める事が大切。また疑問に思う事は積極的に質問し、その都度解決することが大切である。
欠席しないようにしてください。

オフィス・アワー

研究室に在室時はいつでも対応可。

講義コード	11160001
講義名	看護セミナー
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 かおり	指定なし
教員	伊藤 美鈴	指定なし
教員	林 圭子	指定なし

授業の概要

看護の活動の場（保健・医療等の実践の場）で自ら選定した課題を探究及び解決するために実施計画を立案、実施をし、その成果を科学的根拠をもって報告書を完成する。本科目は卒業後に臨床研究又は看護学の発展をさせていくための基礎的能力を養う。

教育目標

一つの看護領域（保健・医療等の実践の場）を選択し、対象の持つ課題を改善・解決するために臨地実習を自ら立案し実践を試みる。これらの一連の課程について論文記述の形式で報告書としてまとめる。

到達目標

①看護における課題を探究し解決をしていく基礎的な知識を学ぶ。②看護に関わる課題を選定する。③課題に関わる文献を読み込み、現状を知る。④課題を達成または解決するために実施する事項に関する計画書を作成する。⑤課題について計画的・系統的に実践する。⑥実践した事項に関して事前に読み込んだ文献を用いて考察と自己の見解を明らかにする。⑦課題の結果を論理的に記述をし、報告書をまとめる。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	看護セミナーの進め方①	全体説明、自己の課題の探究	
第2回	看護セミナーの進め方②	セミナーの進め方の方法	
第3回	文献検討の方法①	文献検索の方法	
第4回	文献検討の方法②	読み込み方法等（文献のクリティーク）	
第5回	文献検討の方法③	文献の活用方法、記載方法	
第6回	研究の方法について	様々は研究方法について	
第7回	報告書の書き方	報告書のまとめ方の決まり事について等	
第8回	各領域からのセミナーの紹介	各領域の教員からの説明	
第9回	研究計画書の作成①	自己のテーマで計画書の作成を実施	

第10回	研究計画書の作成②	自己のテーマで計画書の作成を実施	
第11回	グループ配置の決定と担当教員の紹介	指導教員のもとで課題の選定、抄読会、計画書の立案等をする	
第12回	実習調整	臨地で自己の課題が実施可能か指導者と相談をする	
第13回	臨地実習	臨地で課題をもとに実習を実施	臨地実習 (3週間)
第14回	実習のまとめ	報告書の作成	
第15回	報告書の提出	報告書の最終確認と提出	

教科書

適宜用いる

参考書

「かんたん看護研究」 桂 俊樹 著 南江堂

成績評価

単位認定 60点以上 実習時間4/5の出席を要する 実習内容、報告書を総合的に評価をする

授業時間外の学習

主体的に行動をし、時間を有効に活用し課題に取り組むこと

履修のポイント

看護の学びを統合し、一つの課題に対して学習をする

オフィス・アワー

グループ担当教員と調整をする。

講義コード	11170001
講義名	現代教職論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要

まず最初に、人間の成長に必要となる「教育」について思考を深め、その上で、公的な教育施設である学校や公的資格である教員免許状の意義について考えていきます。その際、具体的な制度、仕組み、役割を確認しながら、本来の意義に立ち返って批判的に理解を深めます。最後に、近年社会問題化している教育問題について、そこで期待されている教員の役割を確認し、それを「教育」や「学校」の本来的意義から批判的に検討します。

教育目標

教職の意義や役割、具体的な職務内容等について理解を深め、さらには、社会的使命に関する認識を通して、教職を目指す者としての意欲を高め、責任を自覚するとともに、教員としての自らの具体的な在り方について、目指すところを述べることができるようになるのが目標です。

到達目標

- ①教化と教育と放任の違いについて、説明することができる。
- ②学校教育の目的、組織と運営、機能についての基本的事項について、理解している。
- ③教諭の主な教育活動や服務に関する基本事項について、その概要を把握している。
- ④社会化した教育問題の概要を把握し、それに対する学校・教師の役割に関する思考を深めている。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	○オリエンテーション ○二つの教育モデル	○授業計画および評価方法の案内 ○二つの教育モデルと教員のあり方を考える
第2回	学校教育の機能 1	○学校教育の目的 (1) 学校の種類 (2) 学校の設置者 (3) 教育行政と学校管理
第3回	学校教育の機能 2	○教職員とその職務 (1) 教職員の職務とその内容 (2) 事務職員の職務 (3) その他
第4回	教育の資質と教員観	○教員に求められる資質能力 (1) 教員に求められる資質

		(2) 専門職としての教員
第5回	学校の組織と運営 1	○校長および教頭、主任の職務と役割 (1) 校長 (2) 副校長、教頭 (3) 主任等
第6回	学校の組織と運営 2	○学校の組織運営 (1) 校務分掌による役割分担 (2) 新しい職による組織の変化
第7回	教諭の教育活動 1	○学級担任の職務と教科指導 (1) 学級担任の役割と学級経営 (2) 教科指導
第8回	教諭の教育活動 2	○道徳の指導と「総合的な学習の時間」 (1) 道徳教育の実際 (2) 総合的な学習の時間
第9回	教諭の教育活動 3	○生徒理解にもとづく指導 (1) 生徒指導の意義 (2) 進路指導の意義
第10回	教員の勤務と服務	○教員の一日と服務規程 (1) 勤務と休暇 (2) 服務規律
第11回	教員の研修	○教員の研修とその体系 (1) 教員研修の種類 (2) 教員研修の内容 (3) 免許更新制度
第12回	現代における教育の課題 1	○人権教育と学習権の保障 (1) 同和教育 (2) 特別支援教育の理念と「障がい」理解
第13回	現代における教育の課題 2	○いじめと不登校 (1) いじめの現状と自己の認識 (2) 不登校対策
第14回	現代における教育の課題 3	○学習指導要領の概要と課題 (1) 学習指導要領の歴史的経緯 (2) 新学習指導要領の目指すもの
第15回	学習のまとめとテスト	○講義のまとめとテストを行う。

教科書

テキストは使用しませんが、卒業年度に教員採用試験の受験を考えている学生は、最新版の教育小六法（例えば、『教育小六法2016年版』学陽書房など）を用意し、必要に応じて確認する習慣をつけておくことを推奨します。

参考書

- ・森下恭光編著『第2版 教師論 - 教職とその背景 - 』明星大学出版部 2009年
- ・奈良教育大学 次世代教員養成センター課題探究教育部門教師力サポートオフィス監修『教師力を鍛えるケースメソッド123 ～学校現場で生じる事例とその対応～』ミネルヴァ書房 2014年
- ・菱村幸彦編集『学校の危機管理マニュアル』教育開発研究所 2000年
- ・片山紀子編著 富永直也著『学校がみえる教職論』大学教育出版 2012年

成績評価

定期試験50%、レポート・小テスト等平常点50%の割合で総合評価し、60点以上の者を合格とします。欠席、遅刻、早退については減点対象とします。

授業時間外の学習

授業中の配布プリントを整理したり、ノートを見直したりする等、復習を中心にして、知識の定

着を図る必要があります。また、新聞等マスメディアにおける「教育」や「学校」、「教員」に関する報道記事を確認し、それらに対する自己の関心を高めるとともに、社会の関心の持ち方についても批判的に検討してもらいます。

履修のポイント

教育を受ける立場から、教育を行う立場に変わることを意識した主体的な学びを心がけてください。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じますが、その他、必要に応じて互いの都合の良い時間を個別に設定します。相談してください。

講義コード	11180001
講義名	教育心理学
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀岡 聖朗	指定なし

授業の概要

教師が学校現場で児童・生徒と対応する際には、彼らが、今現在発達的にどのような状況におかれているのか、また、そのときの心の状態はいかなるものなのか、ということに配慮しながら接することが求められる。この科目では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえて、人の発達過程、学習過程、教授過程について講義する。授業は講義形式で行うが、授業後半では実習も取り入れ、学生による「模擬授業」を実施する。

教育目標

青年期までの人の発達過程とその特徴、学習のしくみと学習を規定する要因と障がい、教授の類型について理解を深めることを目的とする。

到達目標

1. 教育心理学で使用されるさまざまな専門用語の意味を理解する。
2. 青年期までの人の発達過程とその特徴について理解する。
3. 学習のしくみと学習を規定する要因、および障がいについて理解する。
4. 「教える」ということを体験を通じて実感し、自ら「教える」立場をシュミレーションする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	ガイダンス 教育心理学で 取り扱う問題	講義の進め方、成績評価のしかたなどについて 教育心理学で取り扱う内容について（発達・学習・教授）	1 章
第2回	人生初期の発達①	生涯発達（発達の理論）、人間発達の共通性、社会性 発達の芽生え	2 章・ 3 章・ 6 章
第3回	人生初期の発達②	認知の発達、発達の最近接領域	2 章・ 4 章
第4回	青年期の発達①	青年期の心理的特徴、道徳性の発達、適応と不適応、 適応機制	5 章・ 1 2 章
第5回	青年期の発達②	青年期の発達課題、アイデンティティの獲得について	5 章
第6回	障がいの理解	障がいの種類、障がい児・者の理解と対応	1 5 章

第7回	さまざまな学習理論①	連合説（刺激－反応の結びつき）による学習のしくみと認知説（認知の変容）による学習のしくみ	7 章
第8回	さまざまな学習理論②	授業における学習指導の理論、学習の個性化	8 章
第9回	学習の規定因①	動機づけの理論、動機づけを高めるためには	8 章
第10回	学習の規定因②	個性を反映するものとしての知能～知能の構造、知能検査、創造性	1 0 章
第11回	学習の規定因③	個性を反映するものとしての性格～性格理論、性格検査	9 章・11 章 ※実習を含む予定
第12回	学校教育相談	学級集団の理解、生徒指導と教育相談、教育相談のあり方とその方法	1 3 章・1 4 章
第13回	教育測定と教育評価	評価の意義と工夫、絶対評価と相対評価の違い、学力のとらえ方	1 1 章
第14回	教授技法①	教える技術、伝える技術、授業づくり 模擬授業体験①（模擬授業についての説明と計画）	※実習を含む予定。
第15回	教授技法②	模擬授業体験②（体験学習；発表）	※実習を含む予定。

教科書

藤田主一・齋藤雅英・宇部弘子編『新 発達と教育の心理学』福村出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験85%、レポート・課題15%。

授業時間外の学習

各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となる。配布資料・ノートのまとめを復習として勧める。主題により、復習のためのレポート課題を課すことがある。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。

オフィス・アワー

毎週水曜もしくは木曜の昼休み（12：30～13：20）、11号館第8研究室。
あるいは、講義終了前後などに、適宜受け付けます。

講義コード	11190001
講義名	教育課程論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要

教育課程は、教員の教育活動、児童生徒の学習活動を方向づけるもので、学校教育が組織的・系統的に行われるためには不可欠なものであり、児童生徒の発達と学校の環境条件にあわせて作られた教育計画です。

講義では、学校教育が所期の目的をより効果的に達成しようとする観点から、まず、教育課程の意義、構造、機能、歴史といった基本的な事項について説明し、次いで、その編成方法、編成に関する法規、評価の仕方等、実践的な事項について考察し、理解を深めていきます。

教育目標

学校教育における教育課程の意義と構造・機能を理解し、編成に関する基本的な事項についての知識を学ぶことを目的とします。その際、教育課程の編成と学習指導要領の関係について理解を深めることが重要となります。

到達目標

- ①学校における教育活動に、なぜ教育課程が必要となるのか、また、教育過程がどのような歴史的変遷を経て今日に至ったのかを理解する。
- ②教育課程の構造と機能がどのようなものなのかを把握する。
- ③教育課程の編成上、学習指導要領の持つ意味や、編成に制約を与える法規について理解する。
- ④教育課程の実施に伴う評価の重要性を理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	学校教育と教育課程	○オリエンテーション ○学校の性質と教育内容の組織化 ○教育課程の意義
第2回	教育課程の概念	○教育課程の定義 ○学習内容観と教育課程のタイプ ○文化の体系重視、経験・活動の重視、児童中心
第3回	教育課程の条件	○哲学的条件 ○社会的条件 ○心理学的条件 ○教育学的条件
		○社会の発展段階と教育課程の特徴

第4回	歴史のなかの教育課程	○教養重視の教科並列型 ○統合的教育課程論 ○経験主義的教育課程論
第5回	現代社会と教育課程	○知識基盤型社会と学問中心的教育課程 ○人間化への要請と「ゆとりの教育」 ○学力重視の政策と教育課程
第6回	人間の成長と教育内容	○発達段階への対応 ○可能性＝可塑性への働きかけと教育内容 ○社会化と教育内容 ○学力形成と教育内容
第7回	教育内容の構造	○教育内容の類別 ○教科の構成 ○教育内容の精選と構造化 ○教科以外の教育内容
第8回	単元の設定	○単元の意義 ○教材単元と経験単元 ○単元の構成と教材の準備
第9回	教育課程の編成	○全体的教育課程と個別的教育課程 ○教育課程編成に関する法規 ○教育課程編成の手順と特例
第10回	教育課程編成における定性化	○定性化とは何か ○教育課程編成上の基本的視点 ○指導内容の重点化と構造化
第11回	教育課程編成における定量化	○教育内容と教育時間における量的制約 ○教育・学習活動における定量化の必要性 ○指導内容の適量と時間配当の問題
第12回	教育課程の実施	○指導・行事計画、日課表、時間割の作成 ○教材のチェック ○施設整備の点検と活用
第13回	教育課程の評価	○教育課程の実施に対する評価の視点と方法 ○教育課程の接続と改善
第14回	学習指導要領と教育課程の改革	○学習指導要領の変遷（試案から告示へ） ○学習指導要領の構造と役割 ○現代社会に対する現行学習指導要領の戦略
第15回	授業のまとめとテスト	○現代社会における教育課程編成の課題 ○授業の総まとめとしての確認テスト

教科書

教科書は使用せず、必要に応じて授業中にプリントを配布します。

参考書

柴田義松著『教育課程 カリキュラム入門』有斐閣コンパクト 2000年

成績評価

定期試験50%、レポート・小テスト等平常点50%の割合で総合評価し、60点以上の者を合格とします。

授業時間外の学習

授業中に配布したプリントを整理したり、ノートを見直したりする等、復習を中心にして、知識の定着を図る必要があります。また、新聞等マスメディアにおける「教育」や「学校」、「教員」に関する報道記事を確認し、それらに対する自己の関心を高めるとともに、社会の関心の持ち方についても批判的に検討してもらいます。

履修のポイント

教育を受ける立場から、教育を行う立場に変わることを意識した主体的な学びを心がけてください。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じますが、その他、必要に応じて互いの都合の良い時間を個別に設定します。相談してください。

講義コード	11210001
講義名	生徒指導論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要

子どもたちを取り巻く状況は、社会の変化に呼応するかのように多様な問題を内包してきています。不登校・いじめ（いじめ自殺）・ネットトラブル・引きこもり・学級崩壊など、多くの学校でみられるような教育問題が存在しています。生徒指導はこれらに対処することが求められています。これらを前提として、①生徒指導とはなにか、②生徒指導が担うべき役割はなにか、③生徒指導において教師がそなえ持つべき要件はなにか、を基本的な柱として考えたいと思います。※発言を求めます。

教育目標

子どもたちの背景にあるものを、広く・深く洞察できるような知識・観点・考え方の学習を目的とします。

到達目標

次の4つを学習目標とします。①学校教育の現状について認識を深めること ②子どもたちを取り巻く状況についての認識を深めること ③子どもの背景にあるものへの各自の洞察力を育てること ④生徒指導への大胆なアイデアをもつように努力すること

授業計画

	主題	授業内容
第1回	生徒指導とは	学校教育・生徒指導の記憶・イメージをたどりながら、その共有化をはかる。
第2回	学校とは、学校教育とは	生徒指導の経験的イメージを踏まえながら、教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について考える。
第3回	子どもの内面への接近①	視聴覚教材（楽曲）により、子どもの内面世界への洞察を試みる。その上で、感想・意見をレポートする。
第4回	子どもの内面への接近②	第3回での感想・意見をもとに、子どもの内面理解を掘り下げる。
第5回	学校教育の現状	視聴覚教材により、今日の学校教育の現状について考える。その上で、感想・意見をレポートする。
第6回	生徒指導の現状	第5回での感想・意見をもとに、生徒指導が必要とされる子どもの現状についての理解を深める。
	グループ・ディス	生徒指導に関わるテーマについて、グループでディスカッション

第7回	カッション①	を行い、報告の準備を行う。
第8回	グループ報告会①	第7回でのディスカッションをもとに、報告を行う。
第9回	体罰問題	学校教育、部活動でなくならない体罰について考える。
第10回	グループ・ディスカッション②	生徒指導に関わるテーマについて、グループでディスカッションを行い、報告の準備を行う。
第11回	グループ報告会②	第10回でのディスカッションをもとに、報告を行う。
第12回	いじめ問題	視聴覚教材により、いじめ（いじめ自殺）の現状について考える。その上で、感想・意見をレポートする。
第13回	いじめと生徒指導	生徒指導をどうして、いじめ問題にどのように対応すれば良いかを考える。
第14回	携帯（SNS）問題・学級崩壊	携帯（SNS）にまつわる問題、および学級が崩壊状態に陥る現状について考える。
第15回	まとめ	経験してきた生徒指導と授業を通して学んだ生徒指導を比較検討して考える。

教科書

適宜、資料を配付します。

成績評価

単位認定：60点以上 筆記試験80% レポート・発言20%で評価します。

オフィス・アワー

授業の前後の時間帯

講義コード	11220001
講義名	道德教育及び特別活動の研究
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要

教育課程における道德教育・特別活動の位置について理解することを第一に行います。その上で、道德教育と特別活動を一応区分したうえで、それぞれについて「グループ討議」を行います。また視聴覚教材を見て道德の授業についての理解を深めます。

教育目標

教育課程における道德教育・特別活動の位置について理解すると同時に、今日の子どもたちが置かれた状況を考慮した場合に、どのような道德教育・特別活動が求められるのかについて考えることを学習の目的とします。

到達目標

日本の道德教育は1945年を境とする戦前・戦後では大きく変わりました。それは特別活動にも同様のことがいえます。何がどのように変わったのかについて理解することを一つの目標とします。その上で、今日の子どもたちが抱える様々な教育問題を想定しながら、求められる道德教育・特別活動はどのようなものであるのかについて、自分自身で考えることを二つ目の目標とします。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	教育課程における道德教育／特別活動	道德教育とは、特別活動とは（教育課程についての説明）。日本の近代教育における道德教育と特別活動について考える。
第2回	学校教育について	教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について学習する。
第3回	学習指導要領と道德教育／特別活動	今日の道德の教科化を念頭に、学習指導要領と道德教育・特別活動について学習する。
第4回	道德の授業	道德の授業の視聴覚教材を見て、批判的な検討・学習を行う。
第5回	特別活動の授業	学級活動、児童会活動及び生徒会活動、学校行事について学習する。
第6回	道德教育／特別活動についてのグループ討議①	テーマを設定してグループごとに討議を行う。

第7回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議②	グループ討議した内容を整理して、発表する。
第8回	まとめ	道徳教育と特別活動の現状と展望についてのまとめを行う。

教科書

適宜、資料を配付します。

成績評価

単位認定：60点以上 筆記試験80%、授業中のレポート、発言20%で評価します。

オフィス・アワー

授業の前後の時間帯

講義コード	11230001
講義名	教育相談論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要

学校における教育相談について、その目的の理解から入り、徐々に具体的技法や現実の児童生徒を想定した教育相談の在り方を明らかにしていきます。カウンセリングやソーシャルワークの技法にも学びながら、教師の専門性として教育相談が展開されることの意義について理解を深めていきます。

教育目標

教育相談の必要性を理解し、基礎的知識を得るとともに、実践する際の基礎力を身に付けます。

到達目標

- 1.教育相談の必要性、学校教育上の位置付けについて理解する。
- 2.子どもの成長発達上の課題や、それに対する現代社会の影響を踏まえた対応を理解する。
- 3.教育相談の技法を支える人間観を理解する。
- 4.教育相談に係わる多様な専門職性を理解し、チームアプローチの基礎的知識を得る。
- 5.事例を通して、教育相談を実践する基礎を培う。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	1.オリエンテーション 2.教育相談の目的	1.授業のねらい、方法、評価の在り方について 2.なぜ学校が必要で、なぜ学校で教育相談が必要とされるのか
第2回	教育相談の現在	1.広義の教育相談と狭義の教育相談 2.近年の学校教育相談の動向
第3回	教育相談の機能と学校内の位置付け	1.学校教育相談の4機能 2.学校内組織における教育相談の位置付け
第4回	教育相談の基本姿勢	1.心理的事実の受容・共感と客観的指導 2.教育相談の「心」
第5回	教育相談の理論と技法	1.理論と技法に関する基礎知識の必要性 2.主な理論と技法に学ぶ
第6回	児童生徒理解とは何か	1.意義と分類 2.児童生徒理解の基本姿勢と具体的方法
		1.一般的理解の必要性

第7回	児童生徒の一般的理解	2.心に関わる疾病・障害・行動特性・言動
第8回	発達段階の理解	1.「発達」という概念の特徴 2.発達課題の考え方
第9回	児童生徒理解の手法	1.「みる」「きく」ことによる理解 2.「探る」ための基礎知識
第10回	校内教育相談体制の構築	1.管理職の役割と可能性 2.校内教育相談体制と担任の役割
第11回	教育相談の組織的展開	1.異なる専門職との連携 2.専門機関との連携
第12回	教育相談に必要な法令解釈	1.教育相談と法令 2.専門団体の倫理規定と校内の申し合わせ
第13回	開発的・予防的教育相談	1.自尊感情を育て、共感力を高める支援 2.相互支援を進め、集団成長を促す
第14回	問題解決的教育相談	1.発達障害のある児童生徒への対応 2.多様化する問題への対応
第15回	これからの教育相談	1.授業のまとめ 2.試験

教科書

使用しません。授業中、必要に応じてプリント等を配布いたします。

参考書

文部科学省『生徒指導提要』2010年、文部科学省「児童生徒の教育相談の充実について（報告）」（以上の2点は、文科省HPから入手可能）、島崎政男『入門 学校教育相談』学事出版2014年。

成績評価

60点以上の評価で単位を認定します。評価の割合は、授業中に数回実施予定の確認テストで50%、授業最終回のまとめの後に実施する試験によって50%です。欠席、遅刻、早退、課題の未提出等は減点の対象とします。詳細は、初回授業オリエンテーションにおいて説明します。

授業時間外の学習

授業内容の復習を中心とした自主的な学習が必要となります。

履修のポイント

「教育相談」の原理的理解に努めながらも、同時に、児童生徒の多様な状況・生活背景等を推察することが重要です。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じますが、その他、必要に応じて互いの都合の良い時間を個別に設定します。相談してください。

講義コード	11240001
講義名	教職実践演習（養護教諭）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし
教員	山本 裕詞	指定なし

授業の概要

第1回目に、養護担当教員と教職担当教員によるオリエンテーションを行う。また、各自の課題把握状況と授業に対する希望調査を行う。その後、希望調査の結果を踏まえた授業内容で課題を改善する。
また、各自が調べ学習を行い、その成果を発表し、自他の評価を行うことを通して学習成果の共有を図る。

教育目標

第一の目的は、これまでの学びを通じて、各自が身に付けてきた資質能力が、養護教諭として最小限必要な資質能力として有機的に統合され形成されたかについて、確認することである。第二の目的は、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補うことである。

到達目標

- ①履修カルテ、教育実習評価、実習日誌等により、自己の課題を把握する。
- ②把握した自己の課題を改善すべく、不足している事柄を学び、補完する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション	教職実践演習の内容とスケジュールの確認。 自己の課題把握と学びの希望調査シートの作成。
第2回	希望調査を踏まえた授業内容	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 （予想される内容：不登校対策、いじめ対応、貧困対策、虐待対応、特別支援教育、校内組織等。）
第3回	希望調査を踏まえた授業内容	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 （予想される内容：不登校対策、いじめ対応、貧困対策、虐待対応、特別支援教育、校内組織等。）
第4回	希望調査を踏まえた授業内容	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 （予想される内容：不登校対策、いじめ対応、貧困対策、虐待対応、特別支援教育、校内組織等。）
	希望調査を踏まえた	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。

第5回	授業内容	(予想される内容：不登校対策、いじめ対応、貧困対策、虐待対応、特別支援教育、校内組織等。)
第6回	学生の発表	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 児童生徒の現代的健康課題と各自の教育実習実施後の課題から3～4班に分かれて調べ学習を行い、資料にまとめて発表し検討する。各自持ち時間12分～15分。発表後には自他の評価を行う
第7回	学生の発表	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 児童生徒の現代的健康課題と各自の教育実習実施後の課題から3～4班に分かれて調べ学習を行い、資料にまとめて発表し検討する。各自持ち時間12分～15分。発表後には自他の評価を行う
第8回	希望調査を踏まえた授業内容 保健管理：要養護生徒の健康管理と個別指導 学生の発表	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 児童生徒の現代的健康課題と各自の教育実習実施後の課題から調べ学習を行い、資料にまとめて発表し検討する。
第9回	希望調査を踏まえた授業内容 保健管理：要養護生徒の健康管理と個別指導 学生の発表	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 児童生徒の現代的健康課題と各自の教育実習実施後の課題から調べ学習を行い、資料にまとめて発表し検討する。
第10回	希望調査を踏まえた授業内容 集団指導を主とした保健指導 学生の発表	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 児童生徒の現代的健康課題と各自の教育実習実施後の課題から調べ学習を行い、資料にまとめて発表し検討する。
第11回	希望調査を踏まえた授業内容 集団指導を主とした保健指導 学生の発表	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 児童生徒の現代的健康課題と各自の教育実習実施後の課題から調べ学習を行い、資料にまとめて発表し検討する。
第12回	希望調査を踏まえた授業内容 個別的保健指導を主として健康相談活動：事例検討・学生の発表	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 児童生徒の現代的健康課題と各自の教育実習実施後の課題から調べ学習を行い、資料にまとめて発表し検討する。
第13回	希望調査を踏まえた授業内容 個別的保健指導を主として健康相談活動：事例検討・学生の発表	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 児童生徒の現代的健康課題と各自の教育実習実施後の課題から3～4班に分かれて調べ学習を行い、資料にまとめて発表し検討する。
第14回	補足とまとめ	・目指す養護教諭像について協議：テーマ「教師、子ども、保護者が期待する養護教諭の姿とは」
第15回	補足とまとめ	履修カルテを用いて、教職課程の総合的な確認を行う。

教科書

必要に応じて、プリント等を配布する。

参考書

養護概説(少年写真新聞社)采女智津江編集代表、学校保健－ヘルスプロモーションの視点としての教職員の役割の明確化－（東山書房）徳山美智子他編著、「面接法」（北大路書房）保坂亨他著、提要(文科省)生徒指導提要(文部科学省)

成績評価

60点以上、グループへの貢献・発表力・ミニレポート（50%）、授業態度（10%）課題レポート（40%）とする。

授業時間外の学習

各自の課題意識に基づいた自律的な学びをおこなうこと。

履修のポイント

各自が自分の考えを積極的に発表し、共に学びあう場にすることを意識すること。

オフィス・アワー

事前にアポイントを取ること。

講義コード	11250001
講義名	養護実習
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし

授業の概要

教育実習生として、これまで学習した学校保健や養護教諭の職務に関する知識や技術を講話・観察・参加・実習の形で実習する。学校における教育活動全般について理解するとともに、児童生徒の実態や課題を把握し、学校保健活動推進の仕方を学ぶ。指導養護教諭が専門的な立場から行う児童生徒に対しての適切な指導や助言の在り方等を学ぶ。さらに、教育職員・組織人としての責任と自覚、専門職としての向上意欲、使命感の醸成を図る。

教育目標

①これまで学習した知識・理論・技術を実践を通して習得する。②児童生徒の実態と学校、地域の現状を知り、学校教育目標に学校保健の機能を活かした健康推進活動が実践されていることを理解する。③養護教諭として必要とされる資質・能力についての学習課題を捉える。

到達目標

養護実習を通して、
 ①「養護」の対象である児童生徒の心身・生活の状況及び健康問題の特質を理解をできる。
 ②保健管理・保健教育・組織活動の実際に触れ、知識と実践を結びつけてより深く理解することができる。
 ③養護教諭と他教職員、保護者や地域等との連携や協働の実際を知ることができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	第1週	・実習計画の細案の打ち合わせ（講義・観察・参加・実習別） 情報収集と実習目標に向けた取組 健康診断の準備、実施事後措置等 研究授業までの計画
第2回	第2週	積極的に課題意識をもつての実践
第3回	第3週	実習の成果を点検 ・各種の指導や実践のをまとめ評価する。 ・得られた成果を確認する。 ・実習をまとめ、大学へ提出する報告書を作成する。

教科書

養護教諭必携シリーズNo4「養護実習ハンドブック」大谷尚子 中桐佐智子 編著（東山書房）
参考書
「新養護概説（第7版）」采女智津江編著（少年写真新聞社）「学校保健」徳山美智子他編著（東山書房）
成績評価
単位認定60点以上、実習校での評価、実習記録等をもとに大学教職課程員会と協議し総合判定とする。再実習は実施しない。
授業時間外の学習
実習期間中、毎日実習内容の記録と振り返りを行い、自身の学びと課題を確認すること。
履修のポイント
実習校での積極的な体験及び反省評価を繰り返すことで成果が得られる。そのための事前準備が重要になる。
オフィス・アワー
事前にアポイントを取ること。

講義コード	11260001
講義名	教育実習事前事後指導
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし

授業の概要

教育実習（養護実習）の意義と学校現場における学び方、教育実習生の責任と立場を理解する。既修した養護教諭の職務に関する知識や技術を実践できるようにする。学校における教育活動全般と学校保健について再確認しながら、実習期間中の観察の視点や記録の仕方を理解し、児童生徒の実態、学校保健活動の在り方、養護教諭の対応等の現場で体験する事柄について予習する。専門職としての期待や信頼にこたえうる判断と態度、行動の在り方を自覚をす。実習後は現場で体験した事柄の理解を深め、自己の課題解決に取り組む。

教育目標

①児童生徒等の実態、学校・地域の現状を知り、教育目標、学校保健目標の達成のために、どのような保健活動が行われているか、大学での学びを確認させる。②学校教育計画、校務分掌、学校運営、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等と保健管理、保健教育、組織活動の実際を具体的に実習できるようにさせる。③養護教諭として必要とされる資質・能力の課題を発見させる。

到達目標

①児童生徒等の健康課題の背景要因を考えることができる。②学校教育計画、校務分掌、学校運営、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等と学校保健計画及び保健室経営との関連を理解し、実習校の特色や養護教諭の行う保健管理、保健教育、組織活動の例示ができる。③「児童生徒の養護をつかさどる」活動に対する児童生徒・保護者・教職員のニーズを具体的に表現することができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	教育実習・事前指導 オリエンテーション	学び方、授業の概要、学習目的 実習の意義、実習に臨む姿勢、実習校との事前打ち合わせ の内容
第2回	養護実習の内容と方法	目標と実習の内容及び記録の書き方と評価
第3回	定期健康診断と事後 措置	実技・演習：歯科検診、聴力検査、歯垢染め出し及び歯科 保健指導
第4回	感染症と学校環境衛生	実技・演習：吐物処理・水質検査・照度検査・空気検査

第5回	学校救急体制および 学校救急処置の演習	確かなアセスメントと救急処置・対応
第6回	学校救急体制および 学校救急処置の演習	確かなアセスメントと救急処置・対応
第7回	養護実習報告会	養護実習の成果と課題について各自でプレゼンテーション
第8回	養護実習の自己評価	養護実習の成果を評価、総括

教科書

養護教諭必携シリーズNo4「養護実習ハンドブック」大谷尚子 中桐佐智子 編著（東山書房）

参考書

「新養護概説〈第7版〉」采女智津江 少年写真新聞社

成績評価

単位認定60点以上、事前・事後指導の学習態度演習の評価、実習校における評価、実習報告会の成果を総合評価

授業時間外の学習

各自が課題をもって、積極的に予習や復習に励むこと。

履修のポイント

関心・意欲・課題意識をもち、積極的に学び誠実な態度で養護実習に臨めるようにする。

オフィス・アワー

事前にアポイントを取ること。